

エジプト・アラブ共和国
地域開発活動としての障害者支援
プロジェクト
中間レビュー調査報告書

平成20年11月
(2008年)

独立行政法人国際協力機構
エジプト事務所

序 文

エジプト・アラブ共和国における障害者サービスについては、社会連帯省（Ministry of Social Solidarity：MOSS）によって、主に都市部に設置された約40の総合リハビリテーションセンターが、リハビリテーションサービス、理学療法、社会教育などを行っています。しかしながら、実際にこれら施設のサービスを受けている障害者は都市部で10%程度、地方では2%に過ぎないと言われています。

この状況を改善するため、MOSSはNGOやその認可団体である地域開発団体（Community Development Association：CDA）を活用したCBR（Community Based Rehabilitation：地域に根ざしたリハビリテーション）を推進することとし、同政策の効果的な実施に向けて、わが国に技術協力を要請しました。

JICAは、第1次および第2次事前評価調査団を派遣し（2005年3月、2005年8月）、これらの調査結果を踏まえ、2006年2月に討議議事録（R/D）にてプロジェクト内容について確定し、短期専門家派遣等による準備作業を経て、2006年11月からの長期専門家派遣をもって3年間の予定で本プロジェクトを開始しました。

プロジェクトにおいては、地域に根ざしたリハビリテーション（CBR）によって障害者のエンパワメントを目指し、シャルキーヤ県内のモデル地域（サフル村）でのCBR試行・導入を行っています。

今般、開始から約2年が経過した本プロジェクトの進捗について評価し、プロジェクト関係者（エジプト側・日本側）の間で活動内容、成果およびプロジェクト目標の確認を行うため、2008年10月25日から11月8日にかけて、エジプト側関係機関との共同作業により中間評価調査を実施しました。

本報告書は、かかる調査の協議結果をまとめたものであり、今後の技術協力の実施にあたって参考となれば幸いです。

終わりに、本調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、深く謝意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願い申し上げます。

平成20年11月

独立行政法人国際協力機構

エジプト事務所長 松下 篤

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：エジプト・アラブ共和国	案件名：地域開発活動としての障害者支援プロジェクト
分野：社会保障	援助形態：専門家派遣、プロジェクト技術協力
所轄部署：JICAエジプト事務所	協力金額（評価時点）：約43,717千円（約2年半）
協力期間	プロジェクト期間：2006年11月～2008年11月（3年） 実質協力期間：2006年3月～2008年11月（約3年8か月） 実施協議討議議事録（R/D）署名：2006年2月22日
	先方関係機関：社会連帯省（MOSS）、社会連帯省シャルキーヤ支局、サフル村地域開発協会（CDA）
	日本側協力機関：（本邦研修先）
	他の関連協力：
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>エジプト・アラブ共和国（以下、エジプト国）の障害者サービスは、社会連帯省（Ministry of Social Solidarity：MOSS）により総合リハビリテーションセンターが主に都市部に設置され、機能リハビリテーション、理学療法、社会教育などを行っているが、施設サービスを受ける障害者は都市部で10%程度、地方では2%に過ぎないと報告されている。現在MOSSは、障害者が生活で直面する問題を解決するにはこうした施設サービスだけでは不十分と認識し、地域に根ざしたリハビリテーション（Community Based Rehabilitation：CBR）を障害者支援のもう一つの柱とし、NGOや地域開発団体（Community Development Association：CDA）を実施主体としたアプローチ展開と、効果的なCBRメカニズムの構築に着手している。</p> <p>本プロジェクトでは、地域に根ざした活動により障害者のエンパワメントを図るCBR普及を長期的目標とし、シャルキーヤ県・サフル村でのCBR事業の試行と経験を通じて、長期的にはシャルキーヤ県内周辺郡での事業展開を目指すものである。</p> <p>かかる内容で2006年2月にR/Dが署名され、同年3月にベースライン調査、8月～11月に短期専門家派遣（地域分析/PLA研修）を行い、対象地域の現状把握を行ったうえで（準備期間）、11月に長期専門家（CBR推進）が着任、着任日から3年の予定期間でプロジェクトが開始された。</p> <p>1-2 協力内容（評価用プロジェクト・デザイン・マトリックス：PDMe）</p> <p>1-2-1 上位目標 社会連帯省のイニシアティブにより、特定されたCBRアプローチを活用した障害者支援事業が、シャルキーヤ県内の周辺郡でも実施・普及される。</p> <p>1-2-2 プロジェクト目標 サフル村の障害児・者が、地域の一員として地域活動に積極的に参加するようになる。</p> <p>1-2-3 成果</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) パイロット地域の障害者支援に係る地域資源とアプローチが特定される (2) CBRボランティア活動が継続的に行われる (3) 障害児・者の地域活動への参加機会が拡大される (4) 住民の障害児・者についての理解が深まる (5) CBRの事例が取りまとめられる <p>1-2-4 投入実績（評価時2008年10月時点）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 日本側 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人材（以下、計17名の人材） 日本人専門家長期1名、短期1名、ベースライン調査委託1名（1社）、研修講師3名、通訳2名、 	

技術支援ローカル人材10名

2) 国外研修

①本邦CBR研修（福井県）2回（計3名）の実施、②シリアでのアラブCBRセミナー1回（計3名）の実施

3) 資材購入

ワークショップ資材、セラピー用具、遊具など、小額資材の購入

4) プロジェクト経費

約43,717千円（専門家派遣費、国外研修経費、国内研修経費・受講交通費・文書作成費等）

(2) エジプト国側

1) 人材（以下、約44名の運営監理・活動実施技術人材）

運営監理人材：プロジェクトダイレクター（本省）、プロジェクトマネージャー（シャルキーヤ支局）、成果5担当実施マネージャー（シャルキーヤ支局）、成果1-4担当実施マネージャー（CDA）

技術人材：シャルキーヤ支局職員、CDA理事会員、ボランティア、障害者児・者、障害児・者の家族

2) 施設の提供

研修・WS実施施設の提供（CDA施設）

3) プロジェクト経費

約1,251米ドル

・社会連帯省・約597米ドル（人材経費・モニタリング交通費等）

・サフル村CDA・約650米ドル（活動経費、会議出席交通費、施設維持費等）

2. 評価調査団の概要

調査者	担当	氏名	所属
	総括	小森 正勝	(独) 国際協力機構 エジプト事務所 次長
	副総括／障害者支援	久野 研二	(独) 国際協力機構 国際協力専門員（社会保障）
	エジプト障害者事情	山内 信重	神奈川学習障害教育研究協会 事務局長
	評価企画	中島 啓祐	(独) 国際協力機構 人間開発部 社会保障課
	評価分析	小島 京子	インテムコンサルティング(株) 社会開発部

調査期間（現地）

2008年10月25日～2008年11月7日

評価種類：中間評価

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

3-1-1 主な成果の達成度

成果 (1) パイロット地域の障害者支援にかかる地域資源とアプローチが特定される

プロジェクトでは、障害者状況と地域資源の情報収集を目的としたベースライン調査および地域分析調査（Participatory Learning and Action：PLA含む）、住民に対する障害者支援理解促進や障害児・者の家族を含む村民の状況の把握を目的としたモバイル・キャンペーンセミナー、家庭訪問、教訓やノウハウ抽出のための類似CBR事業の視察・学習など、これまで多様な活動が行われてきた。他方、これら活動の関係者間でのPLAを用いた地域分析、情報共有、意見交換、これらの活動を通じた有効活用できうるリソースや可能なアプローチの特定は、いまだ行われていない。

成果 (2) CBR ボランティア活動が継続的に行われる

研修やワークショップを主催して、基礎的な障害児の発達理解やホームエクササイズの知識、障害児の母親への指導知識の学習などのボランティア育成が行われてきているが、プロジェクト開始当初に比較して、CDAでの活動時間が奉仕可能な時間に合わない、インセンティブとなる経費支払いがない、意欲を高める支援環境が整っていないなどの理由からボランティア活動へ関心をもつ住民は減る傾向にある。これまで9名がCDAでの活動に関わっているが、継続的・定期的に奉仕活動を行うボランティアは現在3名程度であり、活動の継続性は不安定である。

成果 (3) 障害児・者の地域活動への参加機会が拡大される

プロジェクトが提供するセラピーワークショップ、一般の子どもや女性の参加を含むインクルーシブな活動は、障害児・者やその家族に新しい地域活動参加の機会と、他の障害児・者やその家族との交流機会を提供している。他方、プロジェクトが障害者へと促す地域活動は既存の地域活動(教育、経済、文化、宗教等)であるよりも、CDA内の活動が主であり、かつ活動に参加する障害者家族数は住民の一部に限られている。

成果 (4) 住民の障害児・者についての理解が深まる

プロジェクトの実施は、村民に障害児・者と家族の存在を認識させ、CDAを通じた支援活動への理解を促している。インクルーシブな活動は、障害児・者と非障害児・者が共に時間を過ごし、交流する機会を与え、地域住民への障害児・者への理解の促進に役立っている。しかしながら、地域では障害児が教育を含む公共サービスを公平に得られないという環境条件も存在している。さらに、プロジェクト活動への参加者は住民の一部であることから、サフル村全体における障害児・者と障害児・者支援の意義や必要性を十分に認識するには至っていない。

成果 (5) CBRの事例が取りまとめられる

活動進捗が定期的に文書化されてはいるが、これまでの経験に基づく事例の取りまとめとなるCBRにかかる最終報告書の作成は、残期の活動として予定されている。

3-1-2 プロジェクト目標と上位目標の達成見込み

プロジェクトにおける「障害児・者の地域参加」は、これまでのところCDAが主催した計4回のイベント(成果4指標4.2)を除けば、CDA施設内での活動に限定されている。主な参加者は障害児と家族、特に母親と女性親族であるが、その数はサフル村CDAの障害者登録数(2008年10月現在で79名)の約7分の1程度に留まると推測される(具体数は把握できなかった)。2007年後半に、活動支援の対象(直接裨益者)が障害児と母親に絞られたことは、活動の効果をもたらしたが、同時に活動参加の対象者を限定することともなった。したがって、実際目指すことができるプロジェクトの達成度については、活動参加者である障害児・者数(直接裨益者数)、参加活動の種類や頻度を含め、計画当初に意図したよりも小規模に留まるものと予測される。

プロジェクト期間の終盤で取りまとめが予定される「CBR最終報告書」は、社会連帯省のCBRメカニズム構築や、政策策定の貴重な材料とされる予定であり、上位目標達成の材料となることが期待される。他方で、上位目標が示す「特定されたCBRアプローチ」は、本プロジェクトが提示するものだけでは不十分と考えられるため、上位目標の達成のためには、社会連帯省において多様なCBR事業の研究や経験が必要となると思量される。

3-2 評価結果の要約

3-2-1 妥当性

現在、社会連帯省はCBRを低コストでありながら有効な成果が期待できる支援方法と認識し、積極的にCBRメカニズムの構築と事業展開を推進している。本プロジェクトの実施は、農村部におけるCBRモデル事業として同省の方針とメカニズム構築に寄与するものであり、実施の適切性が認められる。

プロジェクトのアプローチに関しては、プロジェクト実施がサフル村住民の障害児・者に対する認識を高めた点が認められた。ただしすでに見たとおり、プロジェクトの実施段階で活動ターゲットが障害児とその母親およびボランティアに絞られたことから、活動の参加者は住民の一部に留まっている。サフル村における活動実施現場のマニパワー・技術レベル・活動財源を考慮した場合、こうした対象の絞りこみは、実施の段階では現実的な選定であったと推測されるが、生活の質的向上や地域参加について障害当事者と家族がアクションを起こす意欲や意思の向上(エンパワメント)を促すには、十分なアプローチとはいえない。

3-2-2 有効性

すでに見たとおり、現在プロジェクトは、ターゲットかつ直接裨益者をCDAでの活動に参加する障害児とその母親にフォーカスしていることから、プロジェクト目標の達成度の範囲は当初参加者として見込んでいた多様な年齢層・多様な障害種別をもつ障害児・者よりも小規模に留まるであろう。

社会連帯省本省、社会連帯省シャルキーヤ支局、サフル村CDA理事会メンバーの意見によれば、プロジェクト開始前に比較すれば明らかなサフル村民の障害者支援に係る意識の向上（正の変化）が見られる。しかしながら、障害児・者への生活支援や共生の意義についての認識が住民において十分に育成されたとは言い難い。これは長期での継続的な取り組みが必要な課題であるため、残り1年のプロジェクト活動の中で何らかの障害者にかかる意識の向上の取り組みがなされることが提言される。

3-2-3 効率性

成果の達成状況で記述したとおり、プロジェクトにおいてボランティアは基礎的な障害児ケア知識、動きを促進して親子のコミュニケーションを助けるホームエクササイズ知識などを習得し、約9名のボランティアがこれまでCDAでの活動に従事してきた。しかし、現在において継続的・定期的に奉仕活動を行っているのは3名程度に留まる。

プロジェクトが提供するインクルーシブな活動は、障害児・者やその家族に新しい地域活動参加の機会と、他の障害児・者やその家族との交流機会を提供している。こうした効果に加えて、障害児の母親やボランティアは、痛みをともなわずかつ安全で効果のあるセラピーや身体的成長とともに精神的成長を促す育児知識の習得に意欲を示している。研修・ワークショップ参加者である障害児の家族においては、子どもの生活の質を高めることへの希望や、他の家族との交流を求める意識が認められた。

有効性において言及したとおり、プロジェクトは村民に障害児・者と家族の存在を知らせ、CDAにおける障害者支援活動についての認識を高めた。しかしながら、村には障害児の受入れを行わない学校（小学校・中学校）も存在し（ヒアリング調査結果による）、公共サービスから漏れる障害児も多いことが確認されている。プロジェクト活動への参加者は住民の一部であることから、今後も多様な分野（教育、保健、雇用、文化等）での理解促進活動が必要と考えられる。

投入については、運営監理・技術人材として、エジプト国側から5名、日本側から2名の専門家派遣が予定どおり配置された。エジプト国側の現場の実施人材では、CDA理事会メンバー、障害者の家族、ボランティアなど無償で奉仕活動を行う39名もの人材が参加している点が本プロジェクトの特徴である。

実施プロセスでは、運営監理人材の役割・業務が不明な点があり、活動進捗に影響しているため、残期において各活動の主要アクター、モニター担当者と方法を具体的に定め、アクター間の情報共有の緊密化とコミュニケーションの円滑化を図る必要がある。

3-2-4 インパクト

上位目標に「社会連帯省のイニシアティブにより特定されたCBRアプローチを活用した障害者支援事業がシャルキーヤ県内の周辺郡でも実施・普及される」ことが目指され、プロジェクト期間終盤で作成される「CBR最終報告書」は、社会連帯省のCBRメカニズム構築や政策策定の貴重な材料とされる予定である。他方、上位目標が目指す「特定されたCBRアプローチ」は本プロジェクトが提示するものだけでは不十分と考えられるため、上位目標の達成のためには、社会連帯省において多様なCBR事業の研究や経験が必要と思量される。

正のインパクトとしては、CDAでの活動により、プロジェクト開始前には家にこもりがちであった障害児の家族が、CDAで新しい友人や相談相手を見つけるなど新たな人間関係を築き、生活に新しい喜びを見出している点があげられる。

負のインパクトとして、本邦研修人選をめぐり関係者間の人間関係が悪化したことがあり、今後の本邦研修参加については慎重に検討を行う必要があると思われる。

3-2-5 自立発展性

社会連帯省は、政策においてCBR事業展開のメカニズム構築を意図し、本プロジェクト実施経験を省の障害者支援政策策定の有効な検討材料の一つとする意思を示している。しかしながら、シャルキーヤ県内でのCBR展開において事業の持続性を確保していくための政策的支援と枠組み（制度的・財政的・戦略的）が、現状では不十分である。

CBRは施設型リハビリテーションに比して大きな経費を必要とはしないが、事業の持続には継続した活動の財源が必要である。ボランティアが育成されればプロジェクト終了後もCDAで活動が自動的に続いていく、というのではなく、継続には必要人材や財源確保がされること、または既存の社会資源を活用するなど投入確保のメカニズムや体制構築が必要がある。さらに障害児・者とその家族を

含めた主体化、インクルージョン推進のためのより広範な地域社会参加の体制構築も必要である。

インタビュー調査から、CBR活動に積極的に参加する障害児の母親とボランティアたちはプロジェクト活動で学んだ基礎的セラピー・育児等の知識を目的とともに理解し、日常生活で実践していることから、プロジェクトによる知識や技術が今後も活用されると期待できる。今後は、これらの知識を学んだ母親やボランティアが、他の母親やボランティアへと知識を伝授し、技術と知識がより多数の住民に活用されていくようなメカニズムづくりが求められる。

3-3 効果発現に貢献した要因

CDAで行われている活動のうち、ベビーマッサージ、プレイ・セラピー（おもちゃ作り、手工芸）などのワークショップについて参加した障害児の母親やボランティアから活動への高い関心と意欲、円滑な知識の習得が確認された。これは、活動対象を障害児とその母親へとフォーカスし、彼らのニーズに合致した活動設定がされたことによる結果と考えられる。

3-4 問題点および問題を惹起した要因

3-4-1 マンパワーと財源の不足

プロジェクト開始当初の活動のターゲットはサフル村の成人から乳幼児までの全障害児・者を想定し、必要とされる活動規模は大きなものであった。しかしながら、現場のCBRに関する理解やニーズ、可能なマンパワーや財源は、当初のスコープを満たすには十分ではなかった点が観察された。

3-4-2 運営監理アクターの役割分担の不明確

本プロジェクトの特質として、多くの関係者がプロジェクトの運営監理人材（中央省・シャルキーヤ支局・CDA内社会連帯ユニット事務局・CDA理事会）として設定されているが、各組織の役割・業務が明確に合意されていなかった可能性があり、これが活動の運営監理と進捗に影響を及ぼしていると観察される。

3-4-3 モニタリング・監理活動と情報共有の不足

エジプト国側の現場視察交通費措置が適切に行われなかったことから、社会連帯省シャルキーヤ支局のモニタリング担当者（実施マネージャー2）の現場視察が定期的に行われなかった事実があり、2008年度のプロジェクトコーディネーターの現場視察機会の減少も併せて、関係者間の十分な情報共有がなされていなかった事実が認められた。

3-5 結論

以上述べたとおり、プロジェクトはサフル村における障害児・者と家族の地域活動への参加、住民の彼らに対する理解、障害児・者とその家族のために働くボランティアの育成において、ある程度のアウトカムをもたらしている。しかしながら重要な指摘事項として、現在までの対象サイトであるサフル村での活動が、おおむねCDA施設内でのデイケアサービス提供の活動に留まっているという点があげられる。これはエジプト・日本国側双方が、当初意図していたプロジェクトのアプローチとは異なるものとなっている。

プロジェクト目標と上位目標の達成のためには、①情報共有と共通理解の構築を含むモニタリング・運営監理における実施体制、②現場での各活動の継続と方法論構築、③実施関係者（中央省、支局、CDA、障害者と家族、ボランティア）によるプロジェクト経験、すなわち、CBR事業にかかる研修（学習）結果と教訓の共有、および④対象地域でのアウトカム持続を可能にするためのメカニズムの構築の改善に取り組むとともに、残期において現実的な活動計画をもつ必要がある。

3-6 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

3-6-1 サフル村での活動マネージメント・モニタリングのための適切な実施体制の整備

円滑な活動進捗の把握と技術的指導、関係者間の情報共有と教訓やノウハウの抽出を目的として、特に以下の事項に取り組むことが提言される。

- ・社会連帯省シャルキーヤ支局によるモニタリングシステムの構築
- ・サフル村におけるCBR委員会設置の着手

3-6-2 サフル村における活動の持続性を確保するためのメカニズムの構築

CBR活動の安定化・持続化を目指して、特に以下の事項に取り組むことが提言される。

- ・活動財源の確保
- ・活動人材の人材育成

・地域に根ざした活動の企画とプログラムの構築

3-6-3 実施関係者によるサフル村でのプロジェクト経験のアウトカムと教訓の共有

適切な役割分担による効率的・効果的な活動実施を目指し、社会連帯省本省、社会連帯省シャルキーヤ支局、サフル村CDA、障害児・者とその家族、ボランティア等、主要関係者間の共通認識の構築を目的として、特に以下の事項に取り組むことが提言される。

- ・各アクターの役割の明確化
- ・活動進捗にかかる定期的な情報共有の実施

3-6-4 エジプト国の特性に合致した適切なCBR事業実施戦略の策定

将来のCBR事業のメカニズム構築に資する、事業実施に有効なりソースと可能なアプローチの特定を目的として、特に以下の活動を行うことが提言される。

- ・CBR戦略と実践にかかるワークショップの主催
- ・プロジェクトの最終報告書の作成

4. 改訂PDM (PDM version 2)

4-1 改定デザインの基本構成

4-1-1 最終裨益者

障害児・者とその家族

4-1-2 対象サイト

シャルキーヤ県・ディアルブ・ネゲム郡・サフル村

4-1-3 ターゲットグループ

障害児・者、障害児・者の家族、ボランティア（障害者を含む村民）、サフル村地域開発協会（CDA）、社会連帯省シャルキーヤ支局

4-1-4 実施機関

社会連帯省、社会連帯省シャルキーヤ支局、サフル村地域開発協会（CDA）

4-2 協力内容

4-2-1 上位目標

社会連帯省のイニシアティブにより、特定されたCBRアプローチを活用した障害者支援事業が、シャルキーヤ県内の周辺郡でも実施・普及される。

4-2-2 プロジェクト目標

サフル村の障害児・者が地域の一員として地域活動に積極的に参加するようになる

4-2-3 成果

- (1) パイロット地域の障害者支援にかかる地域資源とアプローチが特定される
- (2) 住民の障害児・者についての理解が深まる
- (3) ボランティア活動が継続的に行われる
- (4) 障害児・者の地域活動への参加機会が拡大する
- (5) CBRに関する教訓・提言が取りまとめられる

エジプト国全図



プロジェクトサイト：
 ・シャルキヤ原サフル村
 ・サフル村地域開発協会
 ・社会連帯省シャルキヤ支局

カイロ
 ・社会連帯省

対象地図

サフル村、ファクス村の位置



写 真



長期専門家による乳幼児マッサージ教室



短期専門家によるセミナー



CDA屋上から見た村の様子（正面は学校）



社会連帯省シャルキーヤ支局での協議



社会連帯省本省での協議



中間評価ミニッツ署名

略 語 表

CBR	Community Based Rehabilitation	地域に根ざしたリハビリテーション
CDA	Community Development Associations	地域開発協会
DOSS	Department of Social Solidarity in Sharqiya	社会連帯省シャルキーヤ県支局
DPO	Disabled Persons Organization	障害者組織
EACD	Egyptian Association for Comprehensive Development	エジプト総合開発協会
EGP (LE) *注)	Egyptian Pound	エジプト・ポンド
MOE	Ministry of Education	教育省
MOHP	Ministry of Health and Population	保健・人口省
MOSS	Ministry of Social Solidarity	社会連帯省
NCCM	National Council for Childhood and Motherhood	母子国家審議会
NGOs	Non-Governmental Organizations	非政府組織・団体
OT	Occupational Therapy	作業療法
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PDMe	Project Design Matrix for Evaluation	評価用PDM
PLA	Participatory Learning and Action	参加型学習と行動
PO	Plan of Operation	活動実施計画表
R/D	Record of Discussions	合意議事録

*注) 1EPG = ¥19.53785 (出所: JICA 統制レート、平成20年10月)
 1USD = ¥105.9040 (出所: JICA 統制レート、平成20年10月)
 1USD = EPG 5.4204 (出所: JICA 統制レート、平成20年10月)

目 次

序 文

評価調査結果要約表

地 図

写 真

略語表

第1章 評価調査の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団構成および日程	2
1-3 主要面談者一覧	4
1-4 調査の方法と項目	6
第2章 プロジェクトの概要	8
2-1 プロジェクトのデザイン修正の経緯 (PDM-0, PDM-1)	8
2-2 評価の範囲 (評価用PDM)	8
第3章 実績・達成度と実施プロセス状況	18
3-1 投入の実績	18
3-2 成果の達成状況	19
3-3 プロジェクト目標の達成見込み	28
3-4 実施プロセスの状況	29
第4章 5項目による評価結果	31
4-1 妥当性	31
4-2 有効性	32
4-3 効率性	33
4-4 インパクト	36
4-5 自立発展性	36
4-6 結論	37

第5章 提言と今後の協力量針	38
5-1 提言	38
5-2 プロジェクト計画の見直し（PDM-2）	38
5-3 今後の協力量針（デザインの基本構成）	39

添付資料

1. 調査項目と方法（評価グリッド）	47
2. 社会連帯省・社会連帯省シャルキーヤ支局・地域開発協会の組織概要	50
3. 収集資料一覧	53
4. 署名ミニッツ文書（Minutes of Meetings：M/M）	54

第1章 評価調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

エジプト・アラブ共和国（以下、エジプト国）では、社会連帯省（Ministry of Social Solidarity：MOSS）により総合リハビリテーションセンターが主に都市部に設置され、医療リハビリテーション、社会教育などの障害者サービスが行われているが、施設サービスを受ける障害者は都市部で10%程度、地方では2%に過ぎないと報告されている。現在、MOSSは、障害者が生活で直面する問題を解決するにはこうした施設サービスだけでは不十分と認識し、地域に根ざしたりハビリテーション（Community Based Rehabilitation：CBR）を障害者支援のもう一つの柱として、NGOや地域開発団体（Community Development Association：CDA）を実施主体としたアプローチ展開と、効果的なCBRメカニズムの構築に着手している。しかしながら、既存のCBR事業の取り組みは理学療法士や作業療法士などの専門職によるサービス提供に重点が置かれ、施設サービスの代替手段としての活動が中心である。その結果、サービスを受ける障害者は特定の障害や年齢に限定されるケースが多いうえ、活動を継続することが難しく効果の持続性は低い傾向にある。これら問題に対処するには、障害者個人の問題解決能力を高め、障害が地域の問題として把握されるよう地域住民への障害理解を促進し、地域と障害当事者が主体となった地域づくりを進めることが望まれる。しかしながら、エジプト国には、このような社会モデルの考えに基づくCBRの事業経験は少ない。

本プロジェクトでは、地域に根ざした活動により障害者のエンパワメントを図るCBR普及を長期的目標とし、シャルキーヤ県・サフル村でのCBR事業の試行と経験を通じて、長期的にはシャルキーヤ県内周辺郡での事業展開を目指すものである。かかる内容で2006年2月に実施協議・討議議事録（R/D）が署名され、同年3月にベースライン調査、8月～11月に短期専門家派遣（地域分析/PLA研修）を行い、対象地域の現状把握を行ったうえで（準備期間）、11月に長期専門家（CBR推進）が着任、着任日から3年間の予定でプロジェクトが開始されている。

プロジェクトサイトでは、理学療法など医療的介入への要求をもつ住民におけるCBRの理解浸透は容易でなく、プロジェクト運営に困難な場面も生じているが、住民が主体的にできる活動に注目してCDAを活動拠点とした、障害児家族を対象とする乳幼児マッサージコース、知的障害理解教室、多様な関係者を巻き込んだ障害者自助グループ学習、障害者の生活状況把握や相談業務のためのホームビジット、インクルージョンを目指した地域交流会などを実施している。

本調査は、協力期間が半ばを経過した現時点で、以下事項についてエジプト・日本国側双方のプロジェクト関係者で合意形成を行うことを目的として、実施された。

- (1) 準備期間を含む2006年3月から現在までのプロジェクトの実績、実施プロセス、目標と成果の達成度の確認と取りまとめ、

- (2) 準備期間を含む2006年3月から現在までの日本・エジプト国側双方の投入の確認と取りまとめ、
- (3) 上記に基づくプロジェクト達成状況についての総合的な五項目評価の実施、
- (4) 2009年11月までの残期のプロジェクトの取り組みに対する提言、
- (5) PDM-2の作成による、2009年11月までの予定活動、投入、実施体制の特定、など。

1-2 調査団構成および日程

担 当	氏 名	所 属
団長／総括	小森 正勝	(独) 国際協力機構 エジプト事務所 次長
副総括／障害者支援	久野 研二	(独) 国際協力機構 国際協力専門員 (社会保障)
エジプト障害者事情	山内 信重	神奈川学習障害教育研究協会 事務局長
評価企画	中島 啓祐	(独) 国際協力機構 人間開発部 社会保障課
評価分析	小島 京子	インテムコンサルティング (株) 社会開発部

調査日程

日 程	調査団員・調査活動						泊	
	小森 正勝 総括	田中 理 プロジェクト担当	久野研二 副総括／障害者支援	中島 啓祐 評価企画	山内 信重 エジプト障害者事情	小島 京子 評価分析		
10/25 SAT						05:00 カイロ着 (MS961)	Cairo	
10/26 SUN	AM	09:00 調査団打合わせ 11:00 社会連帯省訪問：キックオフ会議 ・評価調査の目的と方法説明 ・調査日程の確認 ・意見交換 【参加者】 社会連帯省 Mr. Tawfiq (プロジェクトダイレクター：PD) 社会連帯省 Mr. Khaled (プロジェクトコーディネーター：PC) 社会連帯シヤルキーヤ支局代表者 (リハビリテーション部長) Mr. Ibrahim Abd El-Ma'boud サフル村地域開発協会 (CDA) 理事長、吉田専門家、調査団、JICA エジプト事務所				07:05 カイロ着 (SQ492)	09:30 JICA エジプト事務所訪問：打合せ 11:00 社会連帯省訪問：キックオフ会議 (総括：田中団員に同じ)	Cairo
	PM		13:00 山内団員との打合せ			13:00 JICA エジプト事務所訪問 打合せ	15:00 - 19:00 研修講師インタビュー (Ms. Susan, Ms. Nadia)	
10/27 MON	AM					カイロでの調査 エジプト障害者支援政策調査 (ヒアリング調査・情報データ収集)	08:00 Zagazig に移動 10:00 社会連帯シヤルキーヤ支局訪問：支局長・職員インタビュー	Cairo Zagazig
	PM						同上	

日 程		調査団員・調査活動					泊				
		小森 正勝 総括	田中 理 プロジェクト担当	久野研二 副総括/障害者支援	中島 啓祐 評価企画	山内 信重 エジプト障害者事情		小島 京子 評価分析			
10/28 TUE	AM					シャルキーヤでの調査 同上	11:00 サフル村訪問 CDA 理事会長・理事会メンバーインタビュー	Cairo Zagazig			
	PM						同上				
10/29 WED	AM					サフル村での調査 同上	11:00 サフル村訪問 障害者家族インタビュー	Cairo Zagazig			
	PM						13:00 サフル村訪問 成人障害者インタビュー				
10/30 THU	AM					サフル村での調査 同上	11:00 サフル村訪問 ボランティアインタビュー	Cairo			
	PM					カイロに移動	カイロに移動 17:00 研修講師インタビュー (Ms. Dorothy)				
10/31 FRI							16:05 カイロ着 (QR514)	07:05 カイロ着 (SQ492)	調査結果取りまとめ	調査結果取りまとめ	Cairo
11/1 SAT						団内会議：1週目調査結果報告（実績等総括案、五項目評価案、PDM 修正案）とミニッツ案の協議					Cairo
11/2 SUN	AM	09:00 JICAエジプト事務所訪問：団内打合せ 10:30 社会連帯省訪問 調査結果と五項目評価案の説明（相手側：Mr. Mohamed Tawfiq, PD, Mr. Khaled, PC）					Cairo				
	PM	団内会議：協議資料作成									
11/3 MON	AM	10:00 社会連帯省訪問：ミニッツ協議（調査結果と五項目評価案の説明、協議） 【参加者】社会連帯省 Mr. Khaled, PC、サフル村地域開発協会（CDA）理事会長、吉田専門家、調査団、JICAエジプト事務所					Cairo				
	PM	団内会議：協議資料作成、ミニッツ案修正									
11/4 TUE	AM	団内会議：ミニッツドキュメント作成					Cairo				
	PM	同上									
11/5 WED	AM	10:00 社会連帯シャルキーヤ支局訪問：ミニッツ協議（調査結果と五項目評価案の説明、協議） 【参加者】社会連帯省 Mr. Khaled, PC、社会連帯シャルキーヤ支局長 Mr. Abd-ai-Badie、プロジェクトマネージャーPM、リハビリテーション部長 Mr. Ibrahim、実施マネージャー2、財務部長 Mr. Hassanin、吉田専門家、調査団、JICAエジプト事務所				ミニッツドキュメント作成	Cairo				
	PM	13:00 サフル村訪問（関係者へのプロジェクト調査結果概要と今後の活動の説明、他） 15:00 カイロに移動 社会連帯省訪問：ミニッツ最終案の説明									
11/6 THU	AM	10:30 JICAエジプト事務所報告					Cairo				
	PM	13:00 ミニッツ署名式（於：社会連帯省） 16:00 エジプト日本国大使館報告									
11/7 FRI			14:15 カイロ発 (SQ493)								
11/8 SAT			16:00 成田着								

1-3 主要面談一覧

(1) 日本側

山崎 大介	在エジプト日本大使館二等書記官
松下 篤	国際協力機構エジプト事務所長
田中 理	国際協力機構エジプト事務所員
林 伸江	国際協力機構エジプト事務所員
神谷 哲郎	国際協力機構エジプト事務所ボランティア調整員
宮 貴子	エジプト防衛省附属病院アートセラピスト（元・青年海外協力隊員）
Nour El-Din Hussein	国際協力機構エジプト事務所員
Wael Yacoub	個人コンサルタント・Egyptian NGO Support Center （元・JICAエジプト事務所所員）

(2) エジプト国側

1) 社会連帯省 Ministry of Social Solidarity (MOSS)

Mohamed Tawfiq Mohamud	Minister Advisor, MOSS
Khaled Aly Abdou	Director of Department of International Cooperation, MOSS

2) 社会連帯省シャルキーヤ支局 Department of Social Solidarity (DOSS) in Sharqiya

Abd-al-Badie Abd-al-Rahman	Director, DOSS
Al-Sawy	Sharqiya
Ibrahim Abd El-Maboud Mohamed	Acting Director, Rehabilitation Department, DOSS Sharqiya
Hassanin Abdel Sattar	Director, Financial and Administrative Affairs, DOSS Sharqiya
Fathy Ibrahim Mansour Ali	Social solidarity Unit at CDA Safour, DOSS Sharqiya

3) サフル村地域開発協会 Community Development Association (CDA) of Safour

Abd-al-Azim Mohamed	CDA Safour
Abd-al-Monem Fayad	議長
Mahmoud Soliman Morsy	CDA Safour 理事会員
Adel Abd El-Azeem Badr	CDA Safour 理事会員

Tharwat Mohamed Sayed Ahmed CDA Safour 理事会員
Mustafa Atteyah Mohamed Ebeis CDA Safour 理事会員

4) 障害者

Islam Al-Shahat Sardam 高校生（軽度知的障害）16歳
Mustafa Mohamed Ali 家事手伝い（軽度知的障害）10代後半
Azza Abd-Ali Karim 家事手伝い（左腕機能障害）16歳
Heba Saber 家事手伝い（聴覚言語障害）

5) 障害者の家族

Seham Ahmed Mohamed 障害児の母
Elham Ahmed Maher Sabri 障害児の母
Sabah Hassanen Abdo 障害児の母
Hamm Mohamed 障害児の母
Ayda Abd-Al Karim 障害児の母
Susan Mohamed Ibrahim 障害児の母
Fatma Ibarahim Mohamed 障害児の母
Harady Ahmed Muhamed 障害児の姉
Amed Mohamed Salem 障害児の姉

6) ボランティア

Al-Sayed Al-Mohammady Daif 小学校教師（前・CDA理事会員）
Iman Mohamed Mohamed ALi 中学校非常勤教師
Ameen Mohammed 大学生
Mahmoud Leeman Muhamed 小学校校長
Samira Al-Sayed 大学生
Ilham Ahmed Maher 主婦
Fatma Mahmoud Ibrahim 家事手伝い（福祉活動 Social Service 義務期間）
Iman Abd-al-Fatah Al-Hady 家事手伝い
Reda Ibrahim Mohamed 主婦

7) 研修・ワークショップ講師

Susan Hartshorne	シニア作業療法士、Agoza Rheumatology & Rehabilitation Center
Nadia Ali	モンテッソリー教育専門家、Anas-Al-Wogoud Foundation 代表
Dorothy Witt	作業療法士（個人）

8) その他

Mohamed Al-Hady	サフル村役場長
Abdel Azim	サフル第一小学校長
Dr. Sayed	サフル村診療所長
Abdel Fattah	サフル村診療所・医療技工士

1-4 調査の方法と項目

1-4-1 調査の手法

本プロジェクトの評価調査は、『JICA事業評価ガイドライン』（2004年、国際協力機構）に基づいて行われた。

1-4-2 評価用プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）の作成

PDMについては、R/Dで署名されたPDM-0と2008年3月に作成されたPDM-1があるが、本調査にあたっては、以下を主な理由として、評価用PDMを準備した。

- (1) プロジェクトの成果や目標達成に直結する派遣前に行われた重要な活動である、短期専門家派遣（地域分析手法）の記載を、準備期間の活動として加筆する。
- (2) ターゲットグループについて、本プロジェクトの各種研修活動に参加しCBR事業の実施運営を学ぶ主要アクターである、社会連帯省シャルキーヤ支局、サフル村CDAを加える。
- (3) PDM-1には、プロジェクトにおける実際の活動目的と内容の表現について不明瞭な点が見られるため、活動目的と内容を適切に把握するために、記載表現を修正する。
- (4) PDM-1には、実際の活動目的が対応する成果と合致していない点が見られ、活動と成果の関係性を明確に把握してPDMの論理性を確保するために、記載を修正する。
- (5) 当初プロジェクトが目指していたところを再考し、PDM-1で削除されたいいくつかの活動を再加筆するとともに、残期1年で可能なCBRとしての活動を加筆する。
- (6) プロジェクト目標、成果、投入の記載について、本プロジェクトが意図する具体的・現実的な効果と目標が正しく把握されることに配慮して、表現を改める。

1-4-3 主な調査項目と情報・データ収集方法

調査項目は、評価用PDMのプロジェクト目標、成果に対応する各指標と、これら達成の精査に必要となる項目が選定された。調査項目と方法について、添付資料(1)「調査用・評価グリッド」を参照。文献調査に用いた主な資料は以下のとおり。

- (1) 四半期事業進捗報告書(2006年～2008年)
- (2) セミナー実施報告書などプロジェクト活動にかかる資料(2006年～2008年)
- (3) 第1次および第2次事前調査報告書(2005年および2006年、R/D署名文書を含む)
- (4) 短期専門家業務完了報告書(2006年、地域分析手法)
- (5) 対象地域派遣・青年海外協力隊活動報告書(2006年、青少年活動)
- (6) JICA「対エジプト国・国別援助実施計画書」(平成18年度)
- (7) 現地収集資料、ほか。

第2章 プロジェクトの概要

PDM-0からPDM-1へのデザイン修正の概要、評価用PDMの内容は、以下のとおり。

2-1 プロジェクトのデザイン修正の経緯（PDM-0, PDM-1）

R/D署名のPDM-0からPDM-1への修正は、成果5を除く全体において、主に以下事項について行われている。次頁のPDM-0とPDM-1の対照表を参照。

- (1) 主要アクターとターゲットとする対象を「障害者とその家族」から「障害児とその家族（特に母親）」へと修正、
- (2) 成果1と4について「CBRに有効活用できるリソースの特定」および「ニーズの特定」にかかる活動を削除、
- (3) 成果1、2、3について、期間中には実施が困難と考えられる活動を削除、
- (4) 成果3について、障害当事者が行う自助グループ形成を含む活動を削除、
- (5) 成果4について、医療的介入への希望をもつ障害児・者家族へ対応した活動を加筆、
- (6) 成果4について、一般女性を対象とした活動を加筆。

PDM-1の特徴としては、上述のとおり、ターゲットグループの絞り込みで母親が特定されるとともに、特に、一般女性を巻き込んだ活動が含まれ、プロジェクトの活動主体を女性へとフォーカスすることが意図されている。

PDM-0からPDM-1への修正に関して、主に、エジプト国側のMOSS本省と日本側のプロジェクト関係者間で十分な合意が得られていない経緯があることが、現地調査において把握された。

特に、PDM修正とプロジェクト進捗についてMOSS本省から懸案として指摘された事項は、現在の活動実績が当初意図していた脱施設サービスのCBRよりもCDAでのデイケアサービス提供が大部分を占めざるを得ない状況となっていること、CBR活動としてモンテッソリー教育手法が導入されていること（モンテッソリー教育はデイケアサービスに適切だがCBR活動としての特性をもたないという社会連帯省側の理解に基づく）、CBR活動委員会がまだ設置されていないことなどであった。

2-2 評価のスコープ（評価用PDM）

本調査の対象となるプロジェクト概要は評価用PDMに示されるとおりである。後掲の評価用PDM、2年半の活動実績、図・対象サイトにおけるプロジェクトの主な活動と関係者を参照。

PDM-0 と PDM-1 の対照表

	PDM-0 (2006年2月作成)	PDM-1 (2008年3月作成)
目標	CBRのパイロットモデルとして、サフル村の障害者が地域の一員として地域活動に積極的に参加するようになる。	CBRのパイロットモデルとして、サフル村の障害者が地域の一員として地域活動に積極的に参加するようになる。
成果1 活動	パイロット地域の社会状況(障害者の数や現状、地域リソースや社会構造など)、地域のニーズが把握される。	パイロット地域の社会状況(障害者の数や現状、地域リソースや社会構造など)、地域のニーズが把握される。
1-1	障害者、家族、地域住民やリーダーを対象に、プロジェクトへの理解と協力を求めるための会合を開催する。	プロジェクトで活用可能な地域のリソースについて調査を行い結果を取りまとめる。
1-2	社会調査のスキルを習得する。	質的データ・情報収集を目的として、家庭訪問(ホームビジット)および障害者登録を実施する。
1-3	プロジェクトで活用可能な地域のリソースについて調査を行い結果を取りまとめる。	ソースと喫緊の課題を特定するため、女性を参加対象としたワークショップを主催する。
1-4	障害者統計(数、種類、原因など)を取りまとめる。	(削除)
1-5	地域が直面する課題と可能性についての分析結果を取りまとめる。	(削除)
1-6	障害者とその家族が直面する課題とニーズを特定する。	(削除)
成果2 活動	CBRボランティアが継続的に活動する。	CBRボランティアが継続的に活動する。
2-1	障害者とその家族を含む地域住民を集めて、プロジェクトにおいてボランティアが果たす役割とその重要性についての理解を深める。	障害児の母親とボランティアを対象に技術研修を実施する。
2-2	類似プロジェクトを訪問してその経験から学ぶ。	障害児の母親とボランティアが講師となり、障害児の母親とボランティアを対象とした技術研修を開催する。
2-3	地域住民からCBRボランティアを募る(障害当事者を含むこと)。	プロジェクト特別基金を設置する(財源を確保する)。
2-4	アウトプット1において分析されたニーズに応じて、CBRボランティアのトレーニング・プログラムを策定する。	障害児の母、ボランティア、CDA理事会員による定期会合をもち、障害児の母親活動について話しあう。
2-5	様々な内容でボランティアを養成する。	地域住民、ボランティア、CDA、MOSSの参加のもとに、月例の小児神経科診療を手配する。
2-6	CBRボランティアの活動を通じて得られた経験や知識を共有する。	村レベルのCBR活動委員会を設置する。
2-7	CBRボランティアの活動状況、内容をレビューする。	(削除)
2-8	CBRボランティア(障害当事者を含む)が新たなボランティアを養成する。	(削除)
成果3 活動	障害当事者が地域住民の協力を得ながら、自分自身の生活上のニーズを充足することができるようになる。	障害当事者が地域住民の協力を得ながら、自分自身のニーズを充足することができるようになる。
3-1	CBRボランティア・障害当事者が、障害者のホームビジットを行う。	成人障害者と障害児の母親を参加者とする育児クラス、おもちゃ作り、乳幼児マッサージクラス、お茶会など、多様な活動を主催する。

	PDM-0 (2006年2月作成)	PDM-1 (2008年3月作成)
3-2	障害当事者がニーズや考えを表現する場として、障害者の自助グループを形成する。	類似CBRプロジェクトを訪問して、障害者組織とその活動を学ぶ。
3-3	自助グループ代表のCBR運営委員会への参加を促進する。	(削除)
3-4	障害者が地域のリソースから必要な支援（医療サービス、学校、雇用機会、地域の素材を使って作られた自助具や器具など）を得ることができるよう援助する。	(削除)
3-5	障害当事者とその家族が各人の経験を共有できるように定期会合やセミナーを開催する。	(削除)
3-6	コミュニティー・ファンドの設立など、障害者支援のための持続的な財源の確保を計画する。	(削除)
3-7	障害者が、自身の強みやニーズを地域に対して表現できる機会を提供するために、セミナーや製品・作品の展示会などを開催する。	(削除)
成果4 活動	地域住民が障害者に対する理解を深める。	地域住民が障害者に対する理解を深める。
4-1	地域のリソースとなる団体やグループによるCBR運営委員会（地域リソース活用のためのネットワーク組織）を設立する。	一般女性のCBR活動参加を奨励・促進する。
4-2	プロジェクトの活動を広報する（例えば、月刊誌の発刊や視聴覚資料の作成など）。	健常児の、料理・おもちゃ作り・スポーツなどの活動参加を奨励・促進する。
4-3	障害に関する意識啓発キャンペーンを実施する（例えば、地域住民に対するプロジェクトの活動紹介、障害者と家族、地域住民が参加する遠足やリクリエーション活動の実施、など）。	障害児と健常児の双方を対象として、インクルーシブ活動（インクルージョン）の理解を深めるキャンプやピクニックを主催する。
4-4	障害者や家族、地域住民、リーダー、実業家など、様々な人材が参加できる特別な日（例えば、スポーツの日など）を設ける。	医師・看護師・療法士の参加のもとに、健康な生活を送るためのノウハウについてのワークショップを開催する。
4-5		成人障害者と一般女性を対象として識字クラスを実施する。
成果5 活動	パイロット事業とこれまでの経験から、CBRのモデルが確立する。	パイロット事業とこれまでの経験から、CBRのモデルが確立する。
5-1	プロジェクトの経験を記録にとる。	プロジェクト活動を記録にとる。
5-2	プロジェクトの経験を広く広めるための手段をとる（例えば、冊子の発行やステッカーの作成など）。	プロジェクト経験を広く広めるための何らかの手段をとる。
5-3	プロジェクト実施者を募ってグループを形成し、他の地域へプロジェクトの経験を紹介する。	プロジェクトの経験を総括して報告書に取りまとめる。
5-4	シャルキーヤ県におけるCBRプロジェクトに関するディレクトリーを作成する。	(削除)
5-5	サフル村におけるパイロット事業と、地域におけるその他のCBR事業の経験を取りまとめ、CBRマニュアルを策定する。	(削除)

評価用PDM（作成日：2008年10月14日）

対象地域：シャルキーヤ県サフル村

プロジェクト期間：2006年3月～2009年11月（準期間：2006年3月～10月）

ターゲットグループ：障害児・者、障害児・者の家族（特に母親）、ボランティア（障害者を
含む村民）、地域開発協会（CDA）、社会連帯省シャルキーヤ支局

最終裨益者：障害児・者とその家族（特に母親）

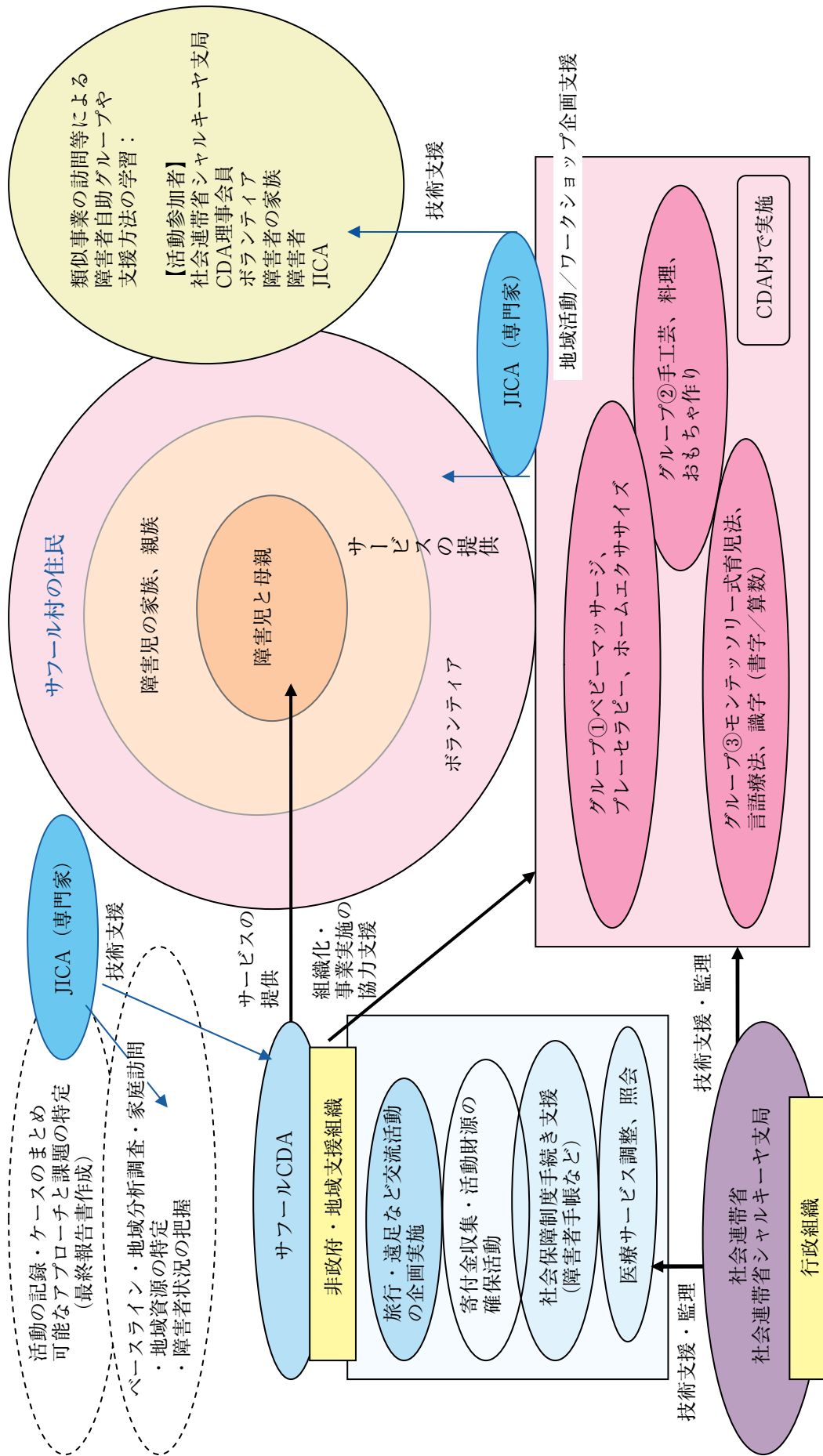
プロジェクトの概要	指 標	指標の入手手段	外部条件
上位目標 社会連帯省のイニシアティブにより、特定されたCBRアプローチを活用した障害者支援事業が、シャルキーヤ県内の周辺郡でも実施・普及される。	1. 特定された障害者支援の基本方針文書の内容 2. 障害者支援政策に関わるセミナーの実施数 3. 構築されたCBRモデル事業展開の仕組み（対象県・実施組織・実施アクター・連携組織団体）	1. MOSS障害者支援政策と事業展開にかかる文書 2. MOSSによるセミナー実施報告書 3. MOSSおよび他関係組織による障害者支援事業にかかる文書	
プロジェクト目標 サフル村の障害児・者が、地域の一員として地域活動に積極的に参加するようになる。	1. 地域活動に参加した障害児・者と家族の数 2. 障害者自助グループ設立案（目的／活動／メンバー等） 3. 障害児・者と非障害児・者の、共生にかかる意識の変化 4. CBR実施の教訓や課題の記載を含む最終報告書	1. 地域活動参加にかかる記録 2. CBRにかかる最終報告書 3. 障害児・者を含む村民へのヒアリング調査 4. CBRにかかる最終報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・ エジプト政府の障害者政策が特定され明確に文書化される。 ・ エジプト政府が本プロジェクトを教訓とした障害者支援方策を政策に導入する。 ・ 社会連帯省の障害者支援事業の国内展開にかかる制度的仕組みが明確にされる。
成果 1. パイロット地域の障害者支援にかかる地域資源とアプローチが特定される	1-1. 調査により発見された資源と課題 1-2. サフル村障害者統計（障害別・年齢別人口） 1-3. 特定された活用可能な資源とアプローチの内容	1-1. ベースライン調査報告書、短期専門家報告書、障害者登録記録、障害者評価記録、シャルキーヤ支局統計、CBRモバイルセミナーの結果記録 1-2. ベースライン調査報告書、シャルキーヤ支局統計 1-3. CBRにかかる最終報告書	障害者支援に関わる政府関連機関（社会連帯省 MOSS、母子国家委員会 NCCM、教育省、保健省、地域組織等）の政策調整が、公正・適切に行われる。

プロジェクトの概要	指 標	指標の入手手段	外部条件
<p>成果</p> <p>2. CBRボランティア活動が継続的に行われる</p> <p>3. 障害児・者の地域活動への参加機会が拡大される</p> <p>4. 住民の障害児・者についての理解が深まる</p> <p>5. CBRの事例が取りまとめられる</p>	<p>2-1. 研修・ワークショップを受講した母親を含むボランティアの人数・ボランティア活動の継続性</p> <p>2-2. 研修講師となった母親・ボランティアの人数</p> <p>2-3. 設置された基金（活用の目的・方法・活動予算）</p> <p>2-4. 定期会合実施数</p> <p>2-5. ボランティア活動の内容・仕組み、CDAのボランティア支援体制</p> <p>3-1. 障害児・者が参加した地域活動の内容と参加者数・参加機会の変化（プロジェクト実施前との比較）</p> <p>3-2. 地域活動に参加を希望する／参加した障害児・者の意識の変化（プロジェクト実施前との比較）</p> <p>4-1. 成人対象のインクルージョン活動の内容・回数・参加者数</p> <p>4-2. 児童対象のインクルージョン活動の内容・回数・参加児童数</p> <p>4-3. 障害児・者についての住民の理解の変化（実施前との比較）</p> <p>5-1. CBR活動にかかる月例報告書</p> <p>5-2. 可能と考えられるCBRのアプローチや実施における課題の記載を含む最終報告書</p>	<p>2-1. 進捗報告書、CBR活動記録</p> <p>2-2. 進捗報告書、CBR活動記録</p> <p>2-3. 基金設立と基金の機能に関する文書</p> <p>2-4. 会議記録</p> <p>2-5. 進捗報告書、CBR活動記録</p> <p>3-1. 進捗報告書、CBR活動記録</p> <p>3-2. 障害児・者と家族へのヒアリング調査</p> <p>4-1. プロジェクト進捗報告書、CBR活動記録</p> <p>4-2. 進捗報告書、CBR活動記録</p> <p>4-3. 進捗報告書、CBR活動記録</p> <p>5-1. 月例報告書</p> <p>5-2. CBRにかかる最終報告書</p>	<p>障害者支援に関わる政府関連機関（社会連帯省 MOSS, 母子国家委員会 NCCM, 教育省、保健省、地域組織等）の政策調整が、公正・適切に行われる。</p>

活 動	投 入		外部条件
<p>成果1の活動</p> <p>1-1 障害者支援に関わる対象地域の社会資源と社会状況にかかる調査を行い結果を取りまとめる（ベースライン調査、短期専門家社会状況調査）。</p> <p>1-2 CDA、障害者を含む村民、ボランティア、社会連帯省職員を対象に、社会調査手法の研修を行う（PLA研修）。</p> <p>1-3 障害児・者・家族・地域住民・地域リーダーを対象に CBR モバイルキャンペーンセミナーを実施し障害児・者の存在・状況を把握する（活動2-1に同じ）。</p> <p>1-4 障害児を含むボランティアが、障害者家庭の訪問を行い、地域活動への参加状況を含む質的データ・情報の収集と障害者登録を実施する。</p> <p>1-5 シャルキーヤ支局、CDA、障害児・者の家族、ボランティアが他の障害者支援活動を視察・研究しサフル村で活用可能なノウハウや教訓を学ぶ。</p> <p>1-6 シャルキーヤ支局の障害者統計、上記活動の結果をレビューし、サフル村の障害者支援にかかるアプローチ（方策）を特定する。</p> <p>成果2の活動</p> <p>2-1 障害児・者とその家族を含む地域住民を対象に CBR モバイルキャンペーンセミナーを実施し、ボランティアが果たす役割と重要性についての理解を促進する（活動1-3に同じ）。</p> <p>2-2 障害者を含む地域住民からボランティアを募集・選定する。</p> <p>2-3 ボランティアを対象としたボランティアワーク研修のプログラムを策定する。</p> <p>2-4 障害児の母親とボランティアを対象として、ボランティア育成ワークショップの講師となる知識を習得するための、研修・ワークショップを実施する（障害児の日常ケア研修、ホームエクササイズなど）。</p> <p>2-5 上記活動2-4でスキルを身につけた障害児の母とボランティアが講師となり、障害児の母親とボランティアを対象とした研修を開催する。</p> <p>2-6 プロジェクト特別基金を設置する（財源を確保する）。</p> <p>2-7 障害児の母、ボランティア、CDA理事会員による定期会合をもち、障害児の母親活動について話しあう。</p> <p>2-8 村の CBR 活動委員会を設置する。</p>	<p>【エジプト側】</p> <p>1. 人材 (1) 実施監理人材 【中央】 プロジェクトダイレクター（社会連帯省本省） プロジェクトコーディネーター（同上） 【地方】 ・プロジェクトマネージャー：シャルキーヤ支局長 ・実施マネージャー1（成果1-4を担当） CDA議長 ・実施マネージャー2（成果5を担当） 社会連帯省シャルキーヤ支局リハビリテーション部長</p> <p>(2) 技術人材 ・CDA理事会員 ・ボランティア ・障害児・者 ・障害児・者の家族</p> <p>2. 活動に必要な土地・建物・施設 (1) 研修・セミナー実施のための施設（CDA事務所ほか）</p> <p>3. 現地活動経費</p>	<p>【日本側】</p> <p>1. 人材 (1) 日本人専門家 ・長期専門家 -CBR推進 ・短期専門家 -地域社会分析 -その他必要な分野</p> <p>(2) 現地雇用人材 ・作業療法講師 ・ほか必要な人材</p> <p>2. 資機材供与、社会調査経費、必要に応じプロジェクト活動にかかる交通費</p> <p>3. 本邦研修あるいは第三国研修の実施と経費： 年間2名から3名（2MM）</p> <p>4. エジプト国内でのプロジェクト現地業務・運営監理経費</p>	<p>サフル村において障害者支援のリソースとなる団体やグループリーダーが、公共サービスを提供する政府関連組織が、CBR活動に継続的に協力する。</p>

活 動	投 入		外部条件
<p>成果3の活動</p> <p>3-1 成果1の1-1から1-4の結果から、障害児・者の地域活動への参加状況を把握する。</p> <p>3-2 障害児・者と非障害児・者の双方を対象としたインクルーシブな住民交流機会を設ける（活動4-1と4-2に同じ）。</p> <p>3-3 CDA、MOSS、障害児・者とその家族が障害者自助グループ形成を検討する。</p> <p>成果4の活動</p> <p>4-1 障害児と非障害児の双方を対象としてインクルーシブな活動を主催し、インクルージョンと共生の理解を育成する（キャンプ・遠足・スポーツ等）（活動3-2に同じ）。</p> <p>4-2 障害児の母とボランティアを対象に、障害児と非障害児に関わる育児方法の学習機会や意見交換の機会を設ける（育児クラス、おもちゃ作り、乳幼児マッサージクラス、お茶会など）（活動3-2に同じ）。</p> <p>4-3 社会連帯省シャルキーヤ支局、CDA、ボランティアの協力のもとで、障害児とその母親を対象とした、専門職による小児神経内科診療の機会を定期的に設ける。</p> <p>成果5の活動</p> <p>5-1 プロジェクト活動を定期的に記録する。</p> <p>5-2 （プロジェクトの終盤期に）社会連帯省シャルキーヤ支局、CDA、サフル村代表者、障害者、障害児・者の家族、ボランティア、日本人専門家により、これまでの活動の効果や残された課題についての意見交換を行う。</p> <p>5-3 上記すべての活動と成果の達成状況に基づき、CBRの地域資源・課題・可能と考えられるアプローチの記載を含めた最終報告書を取りまとめる。</p>			<p>前提条件 サフル村の住民がCBRプロジェクトの実施に賛成する。</p>

対象サイトにおけるプロジェクトの主な活動と関係者（2008年10月現在）



2年半の活動実績（2008年10月現在）

		暦年	2006				
		月	2	3	4	5	6
		実施協議 (RD)	RD				
		中間評価 (M)					
		合同調整委員会 (JCC)					
【成果1の活動】							
1-1	障害者支援に関わる対象地域の社会資源と社会状況にかかる調査を行い結果を取りまとめる（ベースライン調査、短期専門家社会状況調査）。						
1-2	CDA, 障害者を含む村民、ボランティア、社会連帯省職員を対象に、社会調査手法の研修を行う（PLA研修）。						
1-3	障害者・家族・地域住民・地域リーダーを対象にCBRモバイルキャンペンセミナーを実施し、障害者の存在・状況を把握する（活動2-1に同じ）。						
1-4	障害者を含むボランティアが、障害者家庭の訪問を行い、地域活動への参加状況を含む質的データ・情報の収集と障害者登録。						
1-5	社会連帯シャルキヤ支局、CDA、障害者の家族、ボランティアが、他の障害者支援活動を視察・研究し、サフル村で活用可能なノウハウ。						
1-6	MOSS Sharquiya の障害者統計、上記活動の結果をレビューし、サフル村の策）を特定する。						
【成果2の活動】							
2-1	障害者とその家族を含む地域住民を対象にCBRモバイルキャンペンセミナーを実施し、ボランティアが果たす役割と重要性についての理解を促進する（活動1-3に同じ）。						
2-2	障害者を含む地域住民からボランティアを募集・選定する。						
2-3	ボランティアを対象としたボランティアワーク研修のプログラムを策定する。						
2-4	障害児の母親とボランティアを対象として、ボランティア育成ワークショップの講師となる知識を習得するための、研修・ワークショップを実施する（障害児の日常ケア研修、ホームセラピー・ワークショップなど）。						
2-5	上記活動2-4でスキルを身につけた障害児の母とボランティアが講師となり、障害児の母親とボランティアを対象とした研修を開催する。						
2-6	プロジェクト特別基金を設置する（財源を確保する）。						
2-7	障害児の母、ボランティア、CDAメンバーによる定期会合をもち、障害児の母親活動について話しあう。						
2-8	村のCBR活動委員会を設置する。						
【成果3の活動】							
3-1	成果1の1-1から1-4の結果から、障害者の地域活動への参加状況を把握する。						
3-2	障害者と非障害者の双方を対象としたインクルーシブな住民交流機会を設ける（活動4-1と4-2に同じ）。						
3-3	CDA, 社会連帯シャルキヤ支局, 障害者とその家族が、障害者自助グループを形成を検討する。						
【成果4の活動】							
4-1	障害児と非障害児の双方を対象として、インクルーシブな活動を主催し、インクルージョンと共生の理解を育成する（キャンプ・遠足・スポーツなど）（活動3-2に同じ）。						
4-2	障害児の母とボランティアを対象に、障害児と非障害児にかかわる育児方法の学習機会や意見交換の機会を設ける（育児クラス、おもちゃ作り、乳幼児マッサージクラス、お茶会など）（活動3-2に同じ）。						
4-3	社会連帯シャルキヤ支局、CDA、ボランティアの協力のもとで、障害児とその母親を対象とした、専門職による小児神経内科診療の機会を定期的に設ける。						
【成果5の活動】							
5-1	プロジェクト活動を定期的に記録する。						
5-2	（プロジェクトの終盤期に）社会連帯シャルキヤ支局、CDA、サフル村代表者、障害者、その家族、ボランティア、日本人専門家により、これまでの活動の効果や残された課題についての意見交換を行う。						
5-3	上記すべての活動と成果の達成状況に基づき、CBRの地域資源・課題・アプローチの記載を含めた最終報告書を取りまとめる。						

第3章 実績・達成度と実施プロセス状況

3-1 投入の実績

投入の実績概要は以下のとおり。人材の詳細は添付資料6. 署名ミニッツ文書・ANNEX3-2、投入資材について同じくANNEX3-4、プロジェクトコスト詳細については添付資料2.プロジェクトコスト概要、を参照する。

調 査 結 果	
人 材	<p>【エジプト国側】 約44名の人材（運営監理人材・活動実施人材）</p> <p>(1) 運営監理人材 計5名</p> <p>①社会連帯省・本省 プロジェクトダイレクター、プロジェクトコーディネーター</p> <p>②社会連帯省シャルキーヤ支局 プロジェクトマネージャー（支局長、期間中交代2名） 成果5担当実施マネージャー（リハビリテーション部長）</p> <p>③地域開発協会（CDA） 成果1-4担当実施マネージャー</p> <p>(2) プロジェクト実施人材 計39名</p> <p>社会連帯省シャルキーヤ支局職員 3名 サフル村CDA理事会員 10名 障害児・者 5名 障害児・者の母親 14名 ボランティア 7名</p> <p>【日本側】 計17名の人材</p> <p>(1) 日本人専門家2名の派遣 CBR推進長期専門家 1名、地域社会分析短期専門家 1名</p> <p>(2) 研修講師 2名</p> <p>(3) ベースライン調査委託 1名（社）</p> <p>(4) 通訳 2名</p> <p>(5) 技術支援現地人材 10名（NPO所属および個人）</p>
施設・資機材	<p>【エジプト国側】 研修・WS実施施設の提供（CDA施設）</p> <p>【日本側】 プレイセラピーなど、ワークショップ資材の供与</p>

国外研修 (日本側負担)	(1) 本邦研修の実施 福井県でのCBR研修2回(計3名)の実施 (2) アラブCBRセミナー参加 シリアでのCBRセミナー1回(計3名)の実施
総事業経費	(1) 総事業費 約43,855千円 (エジプト国側約1,251米ドル、日本側約43,717千円) (2) 費目 ①日本側 専門家派遣費、国外研修参加費、現地業務費(研修実施経費・受講交通費・機材・文書作成費)、等 ②エジプト国側 ・社会連帯省・約597米ドル(人材経費・モニタリング交通費等) ・サフル村CDA・約650米ドル(活動経費、会議出席交通費、施設維持費等)

3-2 成果の達成状況

指標ごとの成果の主な実績・達成度は以下のとおり。研修・ワークショップ・セミナー・類似事業視察・イベントの実績一覧について、添付資料6. 署名ミニッツ文書のANNEX 3-3を参照。

3-2-1 成果1「パイロット地域の障害者支援にかかる地域資源とアプローチが特定される」

障害者状況・地域資源等の情報収集を目的としたベースライン調査と地域分析調査(PLA研修含む)、住民への障害者支援理解の促進や障害児・者家族を含む村民の状況把握を目的としたモバイル・キャンペーンセミナーや家庭訪問、教訓やノウハウの抽出のための類似CBR事業の視察・学習など、多様な活動が行われてきた。他方、これら活動の関係者間でのPLAツールを用いた地域分析、情報共有、意見交換、それら活動に基づく有効活用できるソースや可能なアプローチの特定は、いまだ行われていない。指標別の実績は以下のとおり。

調 査 結 果
(指標1-1) 調査により確認された地域資源と課題
ベースライン調査(2006年3月)・地域分析調査/PLA研修(2006年8~10月)・家庭訪問(計14世帯)・CBRモバイルセミナー(2008年1~2月計5回)により把握された障害者支援に関わる情報は以下のとおり。

(1) 社会資源・障害者情報

1) ベースライン調査：特にシャルキーヤ県の障害者理解、障害者統計、支援にかかる関係組織（県政府の関係部署、DOSSシャルキーヤ（CDA）の組織概要についての調査が行われ、報告書が取りまとめられた。

2) PLA研修では以下の潜在的な地域資源が包括的に把握されている。

No.	資源	No.	資源	No.	資源
1	local Unit	15	electricity office	29	orphans house
2	Safour Hospital	16	water tank	30	Houses
3	agriculture coop	17	VET	31	Central
4	Mosques	18	private clinic	32	Post office
5	Iman Mahamoud Abdul primary school	19	educational division	33	Occasion and mourn's house
6	Primary school No.1	20	local council	34	Poultry
7	Primary school No.2	21	youth club	35	village bank
8	Secondary school	22	social unit	36	office of supply
9	Prep school for boys	23	coffee shop	37	Bakery
10	Prep school for girls	24	workshops	38	WAKFS
11	Azhar's secondary institution (girls)	25	pharmacy	39	Shariya
12	Azhar's primary institution	26	CDA	40	tax office
13	Graves	27	fire fighting unit	41	nursery
14	police station	28	road		—

3) 家庭訪問による把握

家庭訪問は、CDA 理事会員、ボランティア、障害者の母親たちにより、障害者宅のうちで特に必要と考える世帯を対象に行われた。訪問実績は14世帯に留まり、プロジェクト開始当初の目標からは低い実績となっている。訪問結果についてはCDAに個別ファイルが作成されており保管されている。

家庭訪問実績

実施時期	訪問世帯数	訪問者
2007年2月～	4	CDA理事会員、ボランティア
2008年2月、3月	10	ボランティア、障害児の母親
計	14	

訪問時の調査ツールとして、障害者の登録と障害評価活用様式が英語・アラビア語で準備された。(2008年1月)

- ・ 障害者の登録様式 Intake form of PWD
- ・ 子どもの身体的発達の評価様式 Evaluation sheet for physical development of children
- ・ 子どもの精神的・社会的発達の評価様式 Evaluation sheet for mental and social development of children

(2) 地域の障害者支援にかかる課題

1) PLA研修により把握されたニーズ・課題はプロジェクト活動に特化せず、以下、包括的な障害者の状況分析である。

- ・地域の資源を村全体に広げることが必要（一部分に集中している）
- ・村の地域資源の適切な管理が必要（上手く管理されていない）
- ・障害者の地域資源へのアクセシビリティを図ることが必要（アクセスが困難）
- ・障害者のための交通・輸送手段が必要（交通・輸送手段が乏しい）
- ・村落での就労の機会を拡充することが必要（就労困難。特に障害者にとって）

(3) CBRモバイルセミナーによる把握

計5回実施されプロジェクトとボランティア活動の説明・ボランティアの募集、障害者状況の把握等が行われた。

参加者別CBRモバイルセミナーの実績

回	実施日	場所	成人女性	成人男性	子ども	ボランティア	障害者	参加数
第1回	2007年1月26日	Safour	18	32	60	2	14	126
第2回	2007年1月30日	Safour	20	40	20	22	20	122
第3回	2007年2月2日	Safour	40	70	25	10	20	165
第4回	2007年2月9日	Safour	5	35	4	17	4	65
第5回	2007年2月13日	Safour	35	50	25	19	23	152
参加者数計*			118	227	134	70	81	630

注：複数回参加した者がいるため、各回の参加数は個別の人数を示さない。

(指標 1 - 2) サフル村障害者統計（障害別・年齢別人口）

(1) ベースライン調査（2006年3月）結果：サフル村全人口：1万4,398人、うち障害者人口336人

(2) 社会連帯省シャルキーヤ支局障害者統計：現在の統計は1960年代のものであるため、上記ベースライン調査の統計がデータとして有効である。

(3) サフル村CDA障害者登録：79名

障害種 年齢群	身体障害	身体・知的 発達障害	知的発達障害	知的発達障害・ ダウン症	ダウン症	脳性麻痺	障害 言語・聴覚	視覚障害	小人症	半身麻痺	不明	計 (人)
0～5	7		3		1	5	2					18
6～14	10	6	9		2	3	2	1				33
15～24	4	1	7	1			1	1	1			16
25～34	2		2					1		1		6
35～44	1									1		2
45～54			2									2
不明											2	2
計(人)	24	7	23	1	3	8	5	3	1	2	2	79

(指標 1 - 3) 特定された活用可能な資源とアプローチの内容

(1) 類似事業の視察・学習

- 1) CBR本邦研修（福井県で計2回）に3名（MOSSリハ事務局長、ボランティア、他地域の成人障害者）が参加し障害当事者の自助グループの活動について学び、についびり部長、CDA議長、CDA事務局長）が参加し日本のCBR事例（家庭訪問・ホームヘルピング・障害児の親の会・統合教育など）を学んだ。
- 2) アラブCBRワークショップに2名（プロジェクトコーディネーター、日本人専門家）が参加しシリアのCBRとCBRでの障害当事者の役割を学んだ。
- 3) JICA-Net TVセミナーに4名（CDA議長）、CDAで意見交換が行われた。
- 4) CBR評価ワークショップに10名（MOSSプロジェクトダイレクター、リハビリ部長、プロジェクトコーディネーター、CDA事務局長、CDA理事会員、日本人専門家、JICA事務所代表）が参加して、CBRがもたらす効果について学んだ。
- 5) カイロのAnas Ala-Wagoud協会を7名（CDA議長、CDA事務局長、障害児の母親、ボランティア）が訪問して、モンテッソリー式特殊教育方法による、障害児の発達理解・対応の知識について学んだ。
- 6) 日本人専門家により、以下の他地域でのCBR類似事業の視察が行われた。
 - ① Plan International 支援のカイロ Wahada CDA,
 - ② Plan International 支援のカイロ Abu Bakul CDA,
 - ③ エジプト総合開発協会による Margu 地域事業

- (2) CBR事業の地域資源と可能なアプローチの特定については、プロジェクトの終盤期に検討される予定

3 - 2 - 2 成果2 「CBRボランティア活動が継続的に行われる」

研修やワークショップを主催して基礎的な障害児の発達理解やエクササイズ知識、障害児の母親への指導知識などボランティアの育成が行われてきているが、CDAでの活動時間が奉仕可能な時間に合わない、インセンティブとなる経費支払いがない、意欲を高める支援環境が整っていないなどによりプロジェクト開始当初と比較すると、ボランティアへ関心をもつ住民は減る傾向にある。これまで9名がCDAでの活動に関わっているが継続的・定期的に活動を行うボランティアは現在3名程度で、活動の継続性は不安定である。指標別の実績は、以下のとおり。

調 査 結 果

(指標 2 - 1) 研修・ワークショップを受講した母親を含むボランティアの人数・ボランティア活動の継続性

(1) 研修・ワークショップの実施と参加者数

- ① 生活改善実践研修の受講者数と効果

参加者数と研修コース修了数

実施回	全参加者数	うち障害者	障害者家族	ボランティア	うちコース修了者数
第1回	22	10	10	2	12
第2回	24	11	11	2	12
第3回	28	12	12	4	14
第4回	26	11	11	4	10
第5回	45	21	21	3	8
計	145	65	65	15	56

第1、2、4回：・脳性麻痺児とその他の身体障害児とその家族（主に母親）

・脳性麻痺児と身体障害児の日常ケア、育児知識、乳幼児マッサージ・プレイセラピー・姿勢保持・摂食・おもちゃ作りなど、基本的な家庭での訓練法

第3、4回：・知的障害児（若者）と家族（主に母親）。

・知的障害児（若者）の日常生活での問題への対処、彼らが家族や兄弟と楽しめる手工芸、お菓子作り、など知的障害者と家族が彼らの生活向上の知識とスキル。

研修講師へのインタビュー調査によれば、同研修で行われるベビーマッサージなどの方法は、エジプト国で広く行われている痛みをともなう理学療法とは異なり、痛みをともなわない方法であるため、母親にとっては抵抗が少なく、子どもの自然の成長の中で実践されていく点で、高い関心をもたれた。参加者は積極的に参加し、新しい知識とスキルを習得した。

(2) グループフォーミングワークショップ（ファシリテーターの育成）実施と参加者

知的障害児のための健康増進や日常生活改善のワークショップでファシリテーターの実践知識を学んだ。

実施数	実施地	期間	参加者
28回	Safour	2008年 4月～6月 8月～9月	毎回15～25名 ・ 障害児の母5名、ボランティア2名 ・ 上記以外の障害児の母1～10名

(3) 継続して活動を行うボランティア数

CDAでのプロジェクト活動では9名関わった。2008年10月現在で、定期的・継続的にCDAで奉仕活動を行うのは3名程度。そのほか、今後ボランティアとして活動が期待されるのは、障害児の母親3名である。

(4) ボランティアの主な属性

一般男性、学生、徴兵に代わる福祉活動（Social Services）に従事する結婚前の女性、障害児の母親、障害児の姉妹、障害児の親戚

(5) ボランティア活動の継続性

調査によれば、ボランティアは定期的に募集・採用しているものの、継続して活動するものは上記のとおり限られている。2007年1、2月のCBRモバイルセミナー時に募集採用した24名は、

ボランティアとして継続していない。

(6) ボランティアの継続性が低い要因

- 1) プロジェクトではボランティア活動時にかかる交通費や活動諸経費、奉仕した時間への対価となる経費の支出がないため、ボランティアにとって負担が継続すると活動を続けるインセンティブやモチベーションが下りがちである。
- 2) 義務となる福祉活動としてボランティアを行う結婚前の女性の場合、結婚後には家族（特に夫）の支持を得られず活動を停止する傾向がある。

(指標 2 - 2) 研修講師となった母親・ボランティアの人数

- (1) 上記生活改善実践研修により、コース修了者の56名がボランティア講師となる適正知識を身につけた。
- (2) 上記の生活改善実践研修を受講した母親・ボランティアのうち、グループフォーミングワークショップでワークショップの副ファシリテーションを務めたものは、母親3名、ボランティア1名である。

(指標 2 - 3) 設置された基金（活用の目的・方法・活動予算）

基金の設置は可能性を現在検討中である。

(指標 2 - 4) 定期会合実施数

- (1) JCCは半年に1回を基本としてこれまで3回の実施
- (2) CDA議長・CDA内社会連帯ユニット事務局職員・日本人専門家・ボランティア・障害者の代表者などにより、通常月例で意見交換、進捗確認の打合せを実施した。
- (3) 当初計画していたCBR活動委員会はいまだに設置されていない。

(指標 2 - 5) ボランティア活動の内容・仕組み・CDAのボランティア支援体制

- (1) ボランティア募集方法・選定と登録担当者
 - 1) CBRセミナーによりボランティアを募集
 - 2) 徴兵制に代わる福祉活動（Social Service）の義務をもつ結婚前の女性に声をかける。
 - 3) すでに活動に積極的に参加しているボランティア、障害児の母親が周辺の住民に声をかける。
 - 4) CDAが募集・選定・登録業務を担う。
- (2) 選定基準
誰でも障害者支援に関心のある有志の者
- (3) ボランティアの活動内容
基礎研修を受講した後、手工芸・ベビーマッサージ・フィジオセラピー・モンテッソリー式言語療法を行う3種のワークショップの運営とファシリテーションを行う。他のボランティアの育成を行う。

(4) 財源

ボランティアに対しての、通常の財源と経費の支払いはなく、完全無償の活動提供が行われている（他の地域では、徴兵に代わる福祉活動を行う者・女性に対して月50LE～100LEの支払いを行うケースが一般的である）。

3-2-3 成果3「障害者の地域活動への参加機会が拡大される」

プロジェクトが提供するセラピーワークショップ、一般の子どもや女性の参加を含むインクルーシブな活動は、障害児・者や障害者家庭に新しい地域活動参加の機会と、他の障害者や家庭との交流機会を提供している。他方、プロジェクトが障害者へと促す地域活動は既存の地域活動（教育、経済、文化、宗教等）であるよりも、CDA内の活動が主であり、かつ、活動に参加する障害者家族数は住民の一部に限られている。指標別の実績は以下のとおり。

調査結果

(指標3-1) 障害者が参加した地域活動の内容と参加者数・参加機会の変化

(1) 地域活動参加機会の提供

インタビュー調査（社会連帯省シャルキーヤ支局、CDA、障害者の母）によれば、本プロジェクトが行うワークショップやイベント活動は、地域で孤立しがちな障害児やその母親に対し、CDAを通じた新しい地域活動への参加機会を与えるとともに、非障害児や他家庭との交流機会を与えている。他方、インタビュー調査によれば、ワークショップ等への活動参加者数は高いとはいえない。また、ベビーマッサージなど、子どもの成長への効果をみるのに忍耐と時間を要求される活動に対し、障害者の母親たちの活動への関心はプロジェクト開始当事に比較して低くなりがちである。

障害児の母とボランティアを対象としたワークショップ

ワークショップ	回数	実施日	参加者
家庭でできるセラピー（ベビーマッサージ・プレイセラピー・おもちゃ作り）	4回	2007年9月5, 8, 12, 16日	障害児をもつ母20名 ボランティア2名
家庭でできるセラピー（ベビーマッサージ・プレイセラピー・おもちゃ作り）	4回	2007年10月27, 31日, 11月3, 7, 10日	障害児をもつ母22名 ボランティア2名
ベビーマッサージ・プレイセラピー・フィジオセラピー	35回	2008年8月	障害児をもつ母親およびボランティア、毎回5～15名
計	38回		50～60名

(2) 地域活動の内容と障害者の参加

プロジェクトではおおむね14歳未満の障害児とその母親を対象とした活動が中心で成人障害者の活動機会はそれほど活発ではない。サフル村のすべての障害者やその家族における地域活動への参加機会の変化については、ベースラインの情報がないために個々の変化を測ることはできなかった。

(指標 3 - 2) 地域活動に参加を希望する／参加した障害者の意識の変化

障害児家族（9名）へのインタビュー調査によれば、プロジェクトの開始によりCDAでの活動を知り、CDAで他の障害児とその家族の存在を知った、以前は家庭にこもりがちであったが外にでるようになった、同じ障害児をもつ友人が増えた、プロジェクト前には考えなかった障害者の支援ということ意識するようになった、と回答する者が多かった。

研修やワークショップに参加した家族については、プロジェクト実施前と比した意識の変化は、大きなものがあったと考えられる。また障害児（4名）のインタビュー調査でも、CDAで友人を見つけ大切なリクリエーションの場としていることも確認され、彼らの生活の質の改善に効果をもたらしていると判断される。

と同時に、本プロジェクトの対象が知的障害や脳性麻痺などの障害のある乳幼児から学齢年齢の障害児が中心であり、成人障害者は主に知的障害者2、3名がかかっているに過ぎないため、サフル村全体の障害者当事者の意識の変化を総合的に判断するのは難しい。また障害児家族の意識の変化は長い時間をかけた取り組みが必要とされる課題であり、長い時間をかけた取り組みが必要であるという点について、障害者家族の理解を更に深める必要が見出された。

3 - 2 - 4 成果4「住民の障害者についての理解が深まる」

プロジェクトの実施は、村民に障害者と家族の存在を認識させ、CDAを通じた支援活動への理解を促している。インクルーシブな活動は、障害者と非障害者が共に時間を過ごし、交流する機会を与え、地域住民への障害児・者への理解の促進に役立っている。しかしながら、障害児が教育を含む公共サービスを公平に得られないという環境条件も存在しており、かつ、プロジェクト活動への参加者は住民の一部であることから、サフル村全体における障害者と障害者支援の認識には至っていない。指標別の実績は以下のとおり。

調 査 結 果

(指標 4 - 1) 成人対象のインクルージョン活動の内容・回数・参加者数

障害児の家族や村の成人女性を主要対象者とした、インクルーシブ地域交流活動実績

ワークショップ名	実施場所	実施日	参加者
料理教室	Safour	2008年2～4月	村の成人女性、障害児の兄弟・姉妹、障害児、障害児の母
手工芸教室	Safour	2008年2～4月、6月	村の成人女性、障害児の兄弟・姉妹、障害児、障害児の母、ボランティア
おもちゃ作り教室	Safour	2008年2～4月、6月	村の成人女性、障害児の兄弟・姉妹、障害児、障害児の母、ボランティア
計			20～40名

(指標 4 - 2) 児童対象のインクルージョン活動の内容・回数・参加児童数

地域交流活動イベント実績

イベント	実施日	参加者
公園遠足	2006年12月	約50名の参加：障害児、非障害児、その家族
動物園遠足	2008年8月	約50名の参加：障害児、非障害児、その家族
海水浴	2008年6月	約50名の参加：障害児、非障害児、その家族
公園遠足	2008年7月	約50名の参加：障害児、非障害児、その家族
計		約200名

(指標 4 - 3) 障害者との共生に関わる地域住民の意識の変化

地域住民の意識の変化や障害理解の変化について、プロジェクトで調査・モニタリングの活動はなく、総合的にまとめられた情報はないが、インタビュー調査の調査結果では、プロジェクト開始当初に比較すれば障害者とその家族の存在や、障害者支援の活動について、地域住民に広く認識されるようになった。

他方、学校現場（小学校・中学校）のヒアリング調査では、障害児への特殊教育やインクルージョンの理解は主流ではなく、障害児の受入れは積極的に行われていないことが確認された。

障害者との共生の意識という点については変化の確認が困難であるが、「意識の変化」が長い時間を必要とする目標でもあるため、今後も障害者と非障害者、および双方の家族を対象とした、インクルーシブな活動が提供され続けることによって、地域で共生意識が育成されていくことが望まれる。

3 - 2 - 5 成果5 「CBRの事例が取りまとめられる」

活動進捗は定期的に文書化されてはいるが、経験に基づく事例の取りまとめとなるCBRにかかる最終報告書の作成は、残期の活動として予定されている。指標別実績は以下のとおり。

調 査 結 果

(指標 5 - 1) CBR活動にかかる月例報告書

- (1) CDAサフル事務局長により、活動実績の記録が行われている。
- (2) 月例報告が、社会連帯省シャルキーヤ支局より、社会連帯本省へ行われている。
- (3) 日本人専門家による四半期報告が、JICAに提出されている。
- (4) 10月にCDAサフル事務局と継続的に活動する学生ボランティアにより活動概要書を取りまとめられた。
- (5) 活動のより詳細な情報を記録するために、内容、手順、材料、参加者などを記載する活動報告の書式が2008年8月より導入され、個々のワークショップで用いられている。

(指標 5 - 2) CBRにおける可能と考えられるアプローチや課題の記載を含む最終報告書

プロジェクト終盤期に実施予定。

3-3 プロジェクト目標の達成見込み

「サフル村の障害者が、地域の一員として地域活動に積極的に参加するようになる」

プロジェクトにおける「障害者の地域参加」は、これまでのところCDAが主催した計4回のイベント（成果4・指標4-2）を除けば、CDA施設内での活動に限定されている。主な参加者は障害児と家族、特に母親と女性親族であるが、その数はサフル村CDAの障害者登録数（2008年10月現在で79名）の約7分の1程度に留まると推測される（具体数は把握できなかった）。2007年後半に、活動支援のターゲットが主に障害児と家族、特に母親に絞られたことは、活動の効果ももたらしたが、同時に活動参加者を限定することとなった。したがって、実際目指すことができるプロジェクトの達成度については、活動参加者である障害児・者数（直接裨益者数）、参加活動の種類や頻度を含め、計画当初に意図したよりも小規模に留まるものと予測される。指標別の実績は、以下のとおり。

調 査 結 果			
(指標1) 地域活動に参加した障害者と家族の数			
サフル村CDAで実施された主な活動・実施回数・参加者・各回平均参加者数			
活動内容	実施回数	主な参加者	総参加数
障害児生活改善実践ワークショップ	38回	障害児の家族、ボランティア	約145名
知的障害児理解のためのグループフォーミングワークショップ	28回	障害児の家族、ボランティア	約15～20名
モンテッソーリ式教育：障害児理解のためのワークショップ	8回	障害児の家族・親戚、ボランティア、CDA理事会員	約10～15名
ホームエクササイズワークショップ（プレイセラピー・ベビーマッサージ）	38回	障害児、障害児の親、ボランティア	約50～60名
工作・おもちゃ作り・料理ワークショップ	4か月（回数不明）	村の女性、障害児、障害児の兄弟姉妹・親、ボランティア	約20～40名
遠足・ピクニックなどイベント	4回	村の女性、障害児、障害児の兄弟姉妹・親、ボランティア	約200名
注：同じものが複数出席しているため、参加数は個人数を意味しない。			
(指標2) 障害者自助グループの設立案（目的・活動・メンバー）			
<p>(1) 2008年1月29日カイロでのJICA-Net 遠隔教育TVセミナーに、障害者（3名）、ボランティア（2名）、CDA議長が参加しエジプト国内および他国の障害者自助グループの実践例を学んだ。セミナーで実践例を紹介した障害者団体 Lastawahadak から、サフル村の障害者たちが組織活動を訪問視察することが進められ、ワークショップが不定期に開かれた。他方自助グループ活動を学ぶワークショップの人材が不足している。</p> <p>(2) サフル村での障害者自助グループの設立については、自助グループ設立を積極的に始めることを希望する障害者と支援人材が不足していることから、目的・活動・メンバーについての具体案は現在ない。来年度のプロジェクト終盤期にプロジェクト活動の進捗を考慮したうえで障害者、CDAを含めた関係者で設立可能性を検討する予定である。</p>			

(指標3) 障害者と非障害者の共生にかかる意識の変化 (方法・項目・担当者)
<p>本プロジェクトで対象とする障害者は主に乳幼児から学齢期であるため、プロジェクト開始前と現在との比較による、意識の変化を把握するための調査は今回できなかった。ヒアリング調査では、サフル村の障害児・者家庭は必ずしも地域で孤立しておらず家庭により異なるとの回答を障害児・者家族やボランティアから得たが、村の小学校・中学校の中には障害児は受入れない方針と答える学校があり、両回答の格差を鑑みても地域での障害児・者の教育・就労等に関する権利理解は十分育っているとは思われない。今後も、障害児・者理解のための意識向上を目的とした活動は、障害児・者と非障害児・者双方とその家族に対して必要となると考えられる。</p>
(指標4) CBR実施の教訓や課題の記載を含む最終報告書
<p>プロジェクトの終盤期に実施予定。</p>

3-4 実施プロセスの状況

調査項目	調査結果
活動進捗とデザイン修正の有無	<p>(1) 当初デザインからの大きな変更点と理由</p> <p>プロジェクト開始当初の活動のターゲットはサフル村の成人から乳幼児までの全障害児・者を想定しており、必要とされる活動規模は大きなものであった。しかしながら、現場でのCBRに関する理解とニーズ、そして可能なマンパワーや財源は、当初のスコープには合致しなかったことから、2007年度の後半には、活動の対象（直接裨益者）を障害児とその家族（特に母親）に絞り、ターゲットのニーズに合い、かつCDA内で可能な活動を進めている。</p> <p>懸案事項として、こうしたデザイン変更の理由については、運営監理に携わる関係者間で十分なコンセンサスが得られていない可能性が認められたとともに、対象範囲を縮小したことによる、直接裨益者の規模を縮小する結果となっている。</p>
	<p>(2) 成果発現を促進した要因</p> <p>CDAで行われている活動のうち、ベビーマッサージ、プレイセラピー（おもちゃ作り、手工芸）などのワークショップについて参加した障害児の母親やボランティアから活動への高い関心と意欲、円滑な知識の習得が確認された。そのことは、上記のとおり、対象を絞り彼らのニーズにあった現実的な活動設定が行われたことによる結果と考えられる。</p>
プロジェクト実施体制	<p>(3) 運営監理体制</p> <p>本プロジェクトの特質として、多くの関係者がプロジェクトの運営監理人材（中央省・シャルキーヤ支局・CDA内社会連帯ユニット事務局・CDA理事会）として設定されているが、各組織の役割・業務が明確に合意</p>

<p>プロジェクト実施体制</p>	<p>されていなかった可能性があり、これが活動の運営監理と進捗に影響を及ぼしたと観察される。</p> <p>(4) モニタリング体制</p> <p>CDA内での活動については、CDA理事会員とCDA内社会ユニット事務局長により、日常的にモニターされている。活動の記録は当初予定どおり、CDA内・社会連帯ユニット事務局長により記録され、月例の報告が社会連帯省シャルキーヤ支局に、社会連帯省シャルキーヤ支局から本省への報告が行われている。</p> <p>懸案事項としては、活動のモニタリング・監理があげられる。エジプト国側の現場視察交通費措置が適切に行われなかったことから、社会連帯省シャルキーヤ支局のモニタリング担当者（実施マネージャー2）の現場視察が定期的に行われなかった事実があり、2008年度のプロジェクトコーディネーターの現場視察機会の減少もあわせて、関係者間の十分な情報共有がなされていなかったことが確認された。</p>
<p>ターゲットグループとアクターのプロジェクト実施に対する理解と意欲</p>	<p>(5) 主要アクターのプロジェクト活動の理解・参加の積極性</p> <p>現場では、CDAの活動に参加する障害児の家族やボランティアの知識習得への意欲は高まる。積極的に参加する障害者家族は、プロジェクトを通じて生まれたCDAでのほかの家族との交流機会を貴重なものと考えており、活動の継続を希望している。他方ですで見たとおり、活動参加度はプロジェクト開始当事から低くなる傾向が見られ、ベビーマッサージなどの知識を自ら実践できる程度にまで習得した家族の中には繰り返しの活動への参加には意欲が下りがちである。</p> <p>運営監理にかかる関係者（社会連帯省・シャルキーヤ局・CDA・JICA）においては、プロジェクト活動や成果の理解に差がみられることが観察される。これは、本プロジェクトのCBRをどういうアプローチのものとして理解するかに影響が及ぶものと懸念される。</p> <p>(6) 対象地域の村民のプロジェクトの認識と支持（前提条件）</p> <p>2007年にモバイル・キャンペーンセミナーが村内の数箇所で実施され、プロジェクト活動の説明が行われてプロジェクト実施の理解を得ている。これまで実施に対する、村の公共組織や住民からの反対などはない。</p> <p>他方、現場の活動に参加する住民が全体の一部であること、村内の公共サービス組織の中にもプロジェクト活動を十分に知らない関係者がいることが調査で確認された。</p>

第4章 5項目による評価結果

実績と実施プロセスの調査結果を精査・分析し、以下のとおり5項目別評価を行った。

4-1 妥当性

(1) プロジェクトの、エジプト国障害者支援政策との整合性

社会連帯省は現在、施設型リハビリテーションと地域に根ざしたりハビリテーション(CBR)の2つの戦略により、多様な年齢・障害分類を対象とした支援政策を展開している。施設型リハビリテーションは非常に高いコストを必要とする一方で、サービスを必要とする障害児・者のうちサービスを受けられたのは2%程度に留まっており、障害者が社会生活で直面する問題解決や、社会復帰を目指すには不十分であることが確認されている。

障害問題の課題の解決には、CBRアプローチは低コストでありながら有効な成果が期待できる支援方法と認識されており、同省は積極的にCBRのメカニズムの構築と事業展開を推進している。本プロジェクトの実施は、農村部におけるCBRモデル事業として同省の方針とメカニズム構築に寄与するものであり、実施の適切性が認められる。

(2) JICAの対エジプト国援助方針との整合性

JICAは、「対エジプト国別援助実施計画」で、エジプト国に対する貧困削減・生活の質向上支援を重点分野と定め、本プロジェクトを社会的弱者支援事業に位置づけている。

(3) プロジェクト目標の、裨益者ニーズとの整合性

2006年3月のベースライン調査結果と、本調査のサフル村でのインタビュー調査においても、就労や就学など、経済・教育分野活動での障害児・者の参加は非障害児・者と同等の環境条件をもたないことが確認されており、「サフル村の障害者が地域の一員として地域活動に積極的に参加するようになる」ことを目指すプロジェクト目標は、サフル村の長期的な目標として、障害者とその家族の必要性に応えるものと認められる。

(4) アプローチの適切性

多様な関係者への質問紙票・インタビュー調査結果から、本プロジェクトの実施がサフル村住民の障害者に対する認識を高めたという点が認められた。活動に積極的な障害児の母親やボランティアの中には、CDAでの活動を継続する意欲が認められる。ただし、すでにみたとおり、プロジェクトの実施段階で活動対象が障害児と母親およびボランティアに絞られたことから、彼ら活動の参加者は住民の一部に留まっている。サフル村における活動実

施現場のマンパワー・技術レベル・活動財源を考慮した場合、こうした活動対象の絞りこみは、実施の段階では現実的な選定であったと推測されるが、生活の質的向上や地域参加について障害当事者と家族がアクションを起こす意欲や意思の向上（エンパワメント）を促すには、十分なアプローチとは言い難い。

4-2 有効性

(1) プロジェクト目標の達成見込み

プロジェクト目標に記載される「障害児・者の地域参加」は、プロジェクト開始時には多様な年齢の障害児・者による地域での多様な活動への参加が目指されていたと考えられるが、これまでのところ、CDAが主催するワークショップやイベントへの参加に留まっている。また、サフル村の一部の障害児と母親が積極的に参加しているが、この参加者数はサフル村CDAの障害者登録数（2008年10月現在で79名）の約7分の1程度に留まると推測される。現在CDAでの活動は、障害児とその母親を主対象とすることから、移動困難な重度の身体障害児とその家族や成人障害者とその家族には関心が低くなりがちである。

2007年8月に、活動支援のターゲットが主に障害児と家族のみに絞られた理由として、

- 1) プロジェクト期間が短期であること
- 2) サフル村でCBRを展開するにあたり可能なマンパワーや財源が限られていることがあげられる。

これにより、実際目指すことができるプロジェクトの達成度は、計画当初に意図したよりも、小規模に留まるであろう。

サフル村の障害者が、多様な分野（経済・教育・雇用・文化など）に参加するには、全村民における障害理解、障害当事者と家族のイニシアティブ、障害児・者と家族が地域の活動に継続的に参加していくメカニズムが不可欠である。この実現には、広い年齢層の多様な障害特質のある住民を対象とし、かつ複数分野での長期的取り組みが今後必要となるであろう。

(2) 障害者とその家族の地域参加を支援する、住民の意識向上の程度

本調査では、サフル村民における障害児・者とその家族が地域活動により参加することや彼らの社会統合を期待する意識の変化にかかる調査を、村民に対して直接行うことができなかった。しかし、関係者（社会連帯省、社会連帯省シャルキーヤ支局、CDA理事会員、日本人専門家）の意見によれば、現在のところサフル村民における障害者支援への意識化はプロジェクト前に比較すれば明確な変化があると認められるとともに、住民の障害児・者に対する生活支援や共生の意義についての認識が十分に育成されていると言い難い。障害児・

者に対する意識の向上は、長期的・継続的な取り組みが必要な課題であるため、残り1年のプロジェクト活動の中で、何らかの意識向上にかかる活動が組み込まれるよう提言される。

4-3 効率性

(1) 投入時期と活用の適切性

運営監理・技術人材として、エジプト国側から5名、日本側から2名の専門家派遣が予定どおり配置された。エジプト国側の現場の実施人材では、CDA理事会員、障害者の家族、ボランティアなど無償で働く人材、約39名もの人材が参加している点が本プロジェクトの特徴である。活動に必要な施設については、サフル村CDA施設が主要な活動現場となっており、施設の管理についてもCDA側で適切に行われている。他方、MOSSシャルキーヤ支局職員の交通費の支出がなされず、円滑なモニタリング活動が困難であった。

プロジェクト経費は、日本側から約43,717千円、エジプト国側から社会連帯省とサフル村CDAを合わせて約1,251米ドルであり、ほぼ適切に措置された。

(2) 各成果の達成状況

1) 成果1の達成状況

プロジェクト開始前の準備期間（2006年3～10月）にベースライン調査と地域分析調査が行われ、障害児・者状況と潜在的な社会資源の情報が収集された。プロジェクト開始後のモバイル・キャンペーンセミナーにより、住民にプロジェクト活動の理解を求めるとともに、障害児・者の家族を含む村民状況把握が図られた。障害児・者の生活状況把握・相談業務・ホームヘルプ等を目的とした家庭訪問が一時期行われたが、現在は中断している。

類似CBR事業の学習は、国内外の事業視察・研修・セミナー参加などにより行われ、モンテッソリー式教育や育児理論のスキルがプロジェクト活動に導入されている。学習活動から得た知識のフィードバックが十分でないため、今後、関係者間での活発な意見交換が必要である。サフル村での効果的な障害者支援事業に有効な知識・教訓を整理し、可能なアプローチを特定するには、これまでの活動の結果を総合的にレビュー・評価することが必要で、プロジェクト終盤期で行われるよう進められる。

2) 成果2の達成状況

プロジェクトでは、研修やワークショップを実施し、ボランティアの育成に努めてきた。ボランティアは障害児への対応方法、ベビーマッサージ、プレイセラピー、モンテッソリー式育児方法など、基礎的な障害児の発達理解とホームエクササイズにかかる知識やスキルを習得し、障害児の母親への指導テクニックも身につけつつある。プロジェクトが始ま

ったことにより障害児の存在を知り、障害児の支援のために役立ちたいとの希望をもつ住民がいるが、継続的・積極的に活動を行うボランティアは2008年10月現在で3名程度である。

プロジェクト開始当初に比較すると、ボランティアへの関心をもつ住民は現在減る傾向にある。その原因ともなるボランティア育成にかかる課題として、調査では次の3点が発見された。

①CDAで設定されている活動時間

②ボランティアに対し経済的なインセンティブが支払えないCDAの財務状況

③ボランティアの意欲を高める実施側の支援環境

①については、現在CDAでの活動が午前だけのシフトが主なため午前中に仕事を持つ者は参加できない。②については、家計のために仕事に就き収入を得る必要がある者にとって完全無償での活動は継続が難しい。③については、活動に誇りと自信を持てるような励ましや感謝の声かけがまったくない場合、特に若者や就労している者にとっては、継続の意欲を持ち続けることが難しい。ボランティアの育成計画（活動時間・採用人数・支援環境など）については、上3点も考慮に入れて改善策を講じることが期待される。

3) 成果3の達成状況

プロジェクトが提供するセラピーワークショップ、一般児童や女性の参加を含むインクルーシブな活動は、障害児・者やその家族に新しい地域活動参加の機会と、ほかの障害者や家庭との交流機会を提供している。この効果に加え、障害児の母親やボランティアは、痛みをともなわずかつ安全で効果のあるセラピーや身体的成長とともに精神的成長を促す育児知識の習得に意欲を示している。研修・ワークショップに参加者した障害児の家族においては、子どもの生活の質を高めることへの希望や、ほかの家族との交流を求める意識が認められた。

他方、CDAの活動に参加する障害者家族数は多くなく、プロジェクト開始当初に比較すると、活動参加度が低くなる傾向があるとの意見が多く聞かれた。これについては、主に次の3点が理由と考えられる。

①ベビーセラピーやモンテッソリー式教育の方法は、日常生活のなかで時間をかけ実践する知識であるため、効果を早期に目に見える形で期待する親の関心が薄れつつある。

②セラピーワークショップでは同じ知識の繰り返しであり、かつ家庭での実践が可能なので、変化を求め意欲を失う。

③多くの障害児の親たちは、子どもが持つ障害が医療的に治療されることを期待しているため、日常生活で実践されるセラピーに対し関心が低い。

したがって、セラピーが効果を認めるのに長い時間や粘り強い取り組みが必要であることについて障害児の家族への理解を図る必要があるとともに、情報提供をより積極的に広げて新しい参加者を招いたり、参加者の意欲を保つために活動内容を刷新するなど、工夫が必要である。

4) 成果4の達成状況

プロジェクトは、村民に障害児・者と家族の存在を知らせ、CDAを通じた障害者支援活動への認識を高めた。CDAを中心して行われる障害児・者と非障害児・者の双方を対象とするワークショップやイベント等のインクルーシブな活動は、障害児・者と非障害児・者が共に時間を過ごす交流機会を与え、地域住民の障害児・者への理解を深めることに役立っている。

調査によれば、サフル村では従来から社会的弱者への慈悲の精神が存在し、プロジェクトの実施を契機として住民の障害者へのこうした思いが、支援の意義として意識されるようになったと推測される。しかし、ヒアリング調査によれば、サフル村では障害児の受入れない方針の学校（小学校・中学校）もあることが確認され、公共サービスから漏れる障害児も多いことがわかっている。更に活動への参加者は住民の一部であるため、今後多様な分野（教育・保健・雇用・文化など）での理解促進活動が必要と考えられる。

5) 成果5の達成状況

プロジェクトの活動は、社会連帯省シャルキーヤ局・CDA内社会連帯ユニット事務局において記録され、月例報告がシャルキーヤ支局より社会連帯省へ提出されている。

プロジェクトの経験に基づくCBRにかかる最終報告書の作成は、残り1年の大きな活動の一つになると考えられ、成果（1）で指摘されたとおり、実施関係者によるプロジェクト経験のレビュー・知識や教訓、課題、可能なアプローチの特定の議論が十分に行われることが重要である。最終報告書では、多様なアクターの役割、関係者の異なる関心事項、有効活用できる地域資源、リスク要因を考慮した分析がなされる必要がある。

(3) 効果的な実施を可能にするため運営上の措置

実施プロセスで見たとおり、運営監理人材の役割・業務が不明な点があり、これが活動進捗に影響している。残期では、各活動の主要アクターおよびモニター担当者と方法について具体的に定め、アクター間の情報共有の緊密化とコミュニケーションの円滑化を図る必要がある。

その他、シャルキーヤ支局のサフル村現場モニタリングのための視察活動が、交通費の

未措置のために予定どおりに行われなかった事実がある。計画の実施を円滑に進めるために、来年度のモニタリング交通費の措置も含め、継続的な活動実施のための予算を支局の予算計画に組み込むことが求められる。

4-4 インパクト

(1) 上位目標の達成見込み

上位目標に「社会連帯省のイニシアティブにより特定されたCBRアプローチを活用した障害者支援事業がシャルキーヤ県内の周辺郡でも実施・普及される」ことが目指され、プロジェクトの終盤で作成予定の「CBR最終報告書」は、社会連帯省のCBRメカニズムの構築と政策策定の貴重な材料とされる予定である。他方で、上位目標が示す「特定されたCBRアプローチ」は、本プロジェクトが提示するものだけでは不十分であるため、上位目標の達成のためには、社会連帯省において多様なCBR事業の研究や経験が更に必要と思量される。

(2) 波及効果

正のインパクトとして、CDAでの活動により、プロジェクト開始前は家にこもりがちであった障害児・者の家族が、CDAで新しい友人や相談相手を見つけるなど人間関係における広がりが見られたこと、生活に新しい喜びを見出している点などがあげられる。

負のインパクトとして、本邦研修人選をめぐり関係者間の人間関係が悪化したことがあり、今後の本邦研修参加については慎重に検討を行う必要があると思われる。

4-5 自立発展性

(1) 政策的側面の持続可能性

社会連帯省は政策においてCBR事業展開のメカニズム構築を意図しており、本プロジェクト実施経験を省の障害者支援政策策定の有効な検討材料の一つとする意思がある。しかしながら、シャルキーヤ県内でのCBR事業の展開には、事業の持続性を確保する政策的支援と枠組み（制度的・財政的・戦略的）が現状では不十分である。

(2) 組織体制・財政面での持続可能性

CBRは施設型リハビリテーションに比して大きな経費を必要としないが、CBR事業を持続させるには、安定した活動財源が必要である。ボランティアが育成されればプロジェクト終了後もCDAの活動が自動的に続いていく、というのではなく、継続には必要人材や財源の確保がされること、あるいは、既存の社会資源を活用するなど、投入確保のメカニズム

や体制構築を行う必要がある。また障害児・者や家族を含めた主体化、インクルージョン推進のためのより広範な地域社会参加体制の構築も、必要である。

(3) 技術的側面の持続可能性

インタビュー調査から、CBR活動に積極的に参加している障害児・者の家族、ボランティアたちは、プロジェクト活動で学んだ基礎的セラピー・育児等の知識を目的とともに理解し、日常生活で実践している。ここから、得られた知識や技術は今後も活用されていと期待できる。今後は知識を学んだ母親やボランティアが、他の母親やボランティアへと知識を伝授し、技術と知識がより多数の住民に活用されていくようなメカニズムづくりが求められる。

4-6 結 論

以上に述べたとおり、プロジェクトはサフル村における障害児・者と家族の地域活動への参加、住民の彼らに対する理解、障害児・者とその家族のために働くボランティアの育成において、ある程度のアウトカムをもたらしている。しかしながら、重要な指摘事項として、現在までのサフル村での活動がおおむねCDA施設内でのデイケアサービス提供に留まっていることがあげられる。これはエジプト・日本国側双方が、当初意図していたプロジェクトのアプローチとは大きく異なっている。

プロジェクト目標と上位目標の達成のためには、

- (1) 情報共有と共通理解の構築を含むモニタリング・運営監理における実施体制
- (2) 現場での各活動の継続と方法論構築
- (3) 実施関係者（中央省、支局、CDA、障害児・者と家族、ボランティア）によるプロジェクト経験

すなわち、CBR事業にかかる研修（学習）結果と教訓の共有、

- (4) 対象地域でのアウトカム持続を可能にするためのメカニズムの構築

の改善に取り組むとともに、残期において現実的な活動計画をもつことが必要である。

第5章 提言と今後の協力方針

5-1 提言

5-1-1 サフル村での活動マネージメント・モニタリングのための適切な実施体制の整備
円滑な活動進捗の把握と技術的指導、関係者間の情報共有と教訓やノウハウの抽出を目的として、特に以下の事項に取り組むことが提言される。

- (1) 社会連帯省シャルキーヤ支局によるモニタリングシステムの構築
- (2) サフル村におけるCBR委員会の設置の着手

5-1-2 サフル村における活動の持続性を確保するためのメカニズムの構築
CBR活動の安定化・持続化を目指して、特に以下の事項に取り組むことが提言される。

- (1) 活動財源の確保
- (2) 活動人材の人材育成
- (3) 地域に根ざした活動の企画とプログラムの構築

5-1-3 実施関係者によるサフル村でのプロジェクト経験のアウトカムと教訓の共有
適切な役割分担による効率的・効果的な活動実施を目指し、社会連帯省本省、社会連帯省シャルキーヤ支局、サフル村CDA、障害児・者とその家族、ボランティア等、主要関係者間の共通認識の構築を目的として、特に以下の事項に取り組むことが提言される。

- (1) 各アクターの役割の明確化
- (2) 活動進捗にかかる定期的な情報共有の実施

5-1-4 エジプト国の特性に合致した適切なCBR事業実施戦略の策定

将来のCBR事業のメカニズム構築に資する、事業実施に有効なリソースと可能なアプローチの特定を目的として、特に以下の活動を行うことが提言される。

- (1) CBR戦略と実践にかかるワークショップの主催
- (2) プロジェクトの最終報告書の作成

5-2 プロジェクト計画の見直し（PDM-2）

評価結果に基づき、エジプト国側とプロジェクトデザインの修正について合意し、PDM-2を作成した。次頁のPDM-2を参照。

5-2-1 PDM-2

PDM-2は、評価用PDMを基礎資料とし、成果表現の記載、一部の活動と指標について修正を行った。

主な修正は以下のとおり。

- (1) ターゲットグループかつ直接裨益者について、「障害児とその母親」に限定せず、当初計画のとおり「障害児・者とその家族」とする、
- (2) 成果2,3,4の順序を変更、
- (3) 成果4の医療的介入にかかる活動を、「障害児とその母親を対象とした相談事業」に修正、
- (4) 成果5の表現を、より具体的な目的を示す「教訓・提言の抽出」に修正、等。

5-3 今後の協力量針（デザインの基本構成）

残期1年間の協力概要は以下のとおりである。

(1) 最終裨益者

障害児・者とその家族

(2) プロジェクトサイト

シャルキーヤ県・ディアルブ・ネゲム郡・サフル村

(3) ターゲットグループ

障害児・者、障害児・者の家族、ボランティア（障害者を含む村民）、サフル村地域開発協会（CDA）、社会連帯省シャルキーヤ支局

(4) 実施機関

社会連帯省、社会連帯省シャルキーヤ支局、サフル村地域開発協会（CDA）

(5) 投入計画

1) エジプト国側

①人材（運営監理および実施技術人材）

プロジェクトダイレクター1名（社会連帯省本省）、プロジェクトコーディネーター1名（社会連帯省本省）、プロジェクトマネージャー1名（社会連帯省シャルキーヤ支局長）、成果5担当実施マネージャー1名（社会連帯省シャルキーヤ支局リハビリテーション部長）、成果1-4担当実施マネージャー1名（サフル村地域開発協会・議長）、サフル

村地域開発協会・理事会員、ボランティア、障害児・者、障害児・者の家族（親族）。

②施設・建物

活動のための施設（CDA施設等）、日本人専門家の執務室（社会連帯省シャルキーヤ支局内）

2) 日本側

①人材：必要な分野の短期専門家、必要なローカル支援人材。

②本邦研修：必要に応じて

③プロジェクト経費：約20,000千円（約1年、暫定）

プロジェクト・デザイン・マトリックスー2 (PDM version 2) 作成日：2008年11月6日

対象地域：シャルキーヤ県サフル村

プロジェクト期間：2006年3月～2009年11月（準期間：2006年3月～10月）

ターゲットグループ：障害児・者、障害児・者の家族、ボランティア（障害者を含む村民）、
サフル村地域開発協会（CDA）、社会連帯省シャルキーヤ支局

最終裨益者：障害児・者とその家族

プロジェクトの概要	指 標	指標の入手手段	外部条件
上位目標 社会連帯省のイニシアティブにより、特定されたCBRアプローチを活用した障害者支援事業が、シャルキーヤ県内の周辺郡でも実施・普及される。	1. 特定された障害者支援の基本方針文書の内容 2. 障害者支援政策に関わるセミナーの実施数 3. 構築されたCBRモデル事業展開の仕組み（対象県・実施組織・実施アクター・連携組織団体）	1. MOSS障害者支援政策と事業展開にかかる文書 2. MOSSによるセミナー実施報告書 3. MOSSおよび他関係組織による障害者支援事業にかかる文書	
プロジェクト目標 サフル村の障害児・者が、地域の一員として地域活動に積極的に参加するようになる。	1. 地域活動に参加した障害者と家族の数 2. 障害者自助グループ設立案（目的／活動／メンバー等） 3. 障害者と非障害者の、共生にかかる意識の変化 4. CBR実施の教訓や課題の記載を含む最終報告書	1. 地域活動参加にかかる記録 2. CBRにかかる最終報告書 3. 障害者を含む村民へのヒアリング調査 4. CBRにかかる最終報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・ エジプト政府の障害者政策が特定され明確に文書化される。 ・ エジプト政府が本プロジェクトを教訓とした障害者支援方策を政策に導入する ・ 社会連帯省の障害者支援事業の国内展開にかかる制度的仕組みが明確にされる。
成果 1. パイロット地域の障害者支援にかかる地域資源とアプローチが特定される	1-1. 調査により発見された資源と課題 1-2. サフル村障害者統計（障害別・年齢別人口） 1-3. 特定された活用可能な資源とアプローチの内容	1-1. ベースライン調査報告書、短期専門家報告書、障害者登録記録、障害者評価記録、シャルキーヤ支局統計、CBRモバイルセミナーの結果記録 1-2. ベースライン調査報告書、シャルキーヤ支局統計 1-3. CBRにかかる最終報告書	障害者支援に関わる政府関連機関（社会連帯省 MOSS、母子国家委員会 NCCM、教育省、保健省、地域組織等）の政策調整が、公正・適切に行われる。

プロジェクトの概要	指 標	指標の入手手段	外部条件
<p>成果</p> <p>2. 住民の障害児・者についての理解が深まる</p> <p>3. ボランティア活動が継続的に行われる</p> <p>4. 障害児・者の地域活動への参加機会が拡大する</p> <p>5. CBRに関する教訓・提言が取りまとめられる</p>	<p>2-1. 成人対象のインクルージョン活動の参加者と活動頻度</p> <p>2-2. 児童対象のインクルージョン活動の参加者と活動頻度</p> <p>2-3. 障害児・者についての住民の理解の変化（実施前との比較）</p> <p>3-1. 研修／ワークショップを受講した障害者とその家族を含むボランティアの人数</p> <p>3-2. 研修／ワークショップファシリテーターとなった障害者の家族・ボランティアの人数</p> <p>3-3. ボランティア活動財源が確保される（財源準備状況）</p> <p>3-4. 定期会合が実施される（会合実施状況）</p> <p>3-5. ボランティア活動の内容・仕組み、CDAのボランティア活動支援における役割</p> <p>4-1. 障害児・者と家族が参加した地域活動一覧</p> <p>4-2. 障害児・者が参加した、地域活動の種類、参加状況、活動頻度（プロジェクト実施前との比較）</p> <p>4-3. 地域活動に参加を希望する／参加した障害児・者の意識の変化（プロジェクト実施前との比較）</p> <p>5-1. CBR活動にかかる合同調整委員会報告書</p> <p>5-2. 可能と考えられるCBRのアプローチや実施における課題の記載を含む最終報告書</p>	<p>2-1. 事業進捗報告書、CBR活動記録</p> <p>2-2. 事業進捗報告書、CBR活動記録</p> <p>2-3. 障害児・者とその家族へのインタビュー調査</p> <p>3-1. 事業進捗報告書、CBR活動記録</p> <p>3-2. 事業進捗報告書、CBR活動記録</p> <p>3-3. 基金設立と基金の機能に関わる文書</p> <p>3-4. 会議記録</p> <p>3-5. 進捗報告書、CBR活動記録</p> <p>4-1. 事業進捗報告書、CBR活動記録</p> <p>4-2. 障害児・者と家族へのヒアリング調査</p> <p>4-3. 障害児・者とその家族へのインタビュー調査</p> <p>5-1. 合同調整委員会（JCC）の事業進捗報告書</p> <p>5-2. CBRにかかる最終報告書</p>	<p>障害者支援に関わる政府関連機関（社会連帯省 MOSS, 母子国家委員会 NCCM, 教育省、保健省、地域組織等）の政策調整が、公正・適切に行われる。</p>

活 動	投 入	投 入	外部条件
<p>成果1の活動</p> <p>1-1 障害者支援に関わる対象地域の社会資源と社会状況にかかる調査を行い結果を取りまとめる（ベースライン調査、短期専門家社会状況調査）。</p> <p>1-2 CDA、障害者を含む村民、ボランティア、MOSS職員（本省・支局）を対象に社会調査手法の研修を行う（PLA研修）。</p> <p>1-3 障害児・者・その家族・地域住民・地域リーダーを対象に CBR モバイル・キャンペーンセミナーを実施し、障害児・者の状況を把握する。</p> <p>1-4 障害者を含むボランティアが、障害児・者家庭の訪問を行い、地域活動への参加状況を含む情報の収集を行う。</p> <p>1-5 社会連帯省シャルキーヤ支局、CDA、障害児・者の家族、ボランティアが、他の障害児・者支援活動を視察し、サフル村で活用可能なノウハウや教訓を学ぶ。</p>	<p>【エジプト側】</p> <p>1. 人材 (1) 実施監理人材 【中央】 ・プロジェクトダイレクター（社会連帯省本省） ・プロジェクトコーディネーター（同上） 【地方】 ・プロジェクトマネージャー（シャルキーヤ支局） ・活動実施マネージャー</p> <p>(2) 技術人材 ・CDA理事会員 ・ボランティア ・障害児・者 ・障害児・者の家族</p>	<p>【日本側】</p> <p>1. 人材 (1) 日本人専門家 1) 長期専門家 ・ CBR推進 2) 短期専門家 ・ 地域社会分析 ・ その他必要な分野</p> <p>(2) 現地雇用人材 ・ 作業療法講師 ・ ほか必要な人材</p> <p>2. 資機材供与、社会調査経費、必要に応じプロジェクト活動にかかる交通費</p> <p>3. 本邦研修あるいは第三国研修の実施と経費：年間2名から3名(2MM)</p> <p>4. エジプト国内でのプロジェクト現地業務・運営監理経費</p>	<p>サフル村において障害者支援のリソースとなる団体やグループリーダーが、公共サービスを提供する政府関連組織が、CBR活動に継続的に協力する。</p>
<p>成果2の活動</p> <p>2-1 障害児・者と非障害児・者の双方を対象として、インクルーシブな活動を主催し、インクルージョンと共生の理解を育成する（キャンプ・遠足・スポーツなど）。</p> <p>2-2 障害児の家族とボランティアを対象に、障害児と非障害児に関わる育児方法の学習機会や意見交換の機会を設ける（育児クラス、おもちゃ作り、乳幼児マッサージクラス、お茶会など）。</p> <p>2-3 障害児とその家族を対象とした、相談事業などを定期的実施する。</p>	<p>2. 活動に必要な土地・建物・施設</p> <p>(1) 研修・セミナー実施のための施設（CDA事務所ほか）</p> <p>(2) 日本人専門家の執務室</p> <p>3. 現地活動経費</p>		
<p>成果3の活動</p> <p>3-1 障害児・者とその家族を含む地域住民を対象に CBR モバイル・キャンペーンセミナーを実施し、ボランティアが果たす役割と重要性についての理解を促進する。</p> <p>3-2 障害児・者を含む地域住民からボランティアを募集・選定する。</p> <p>3-3 ボランティアを対象としたボランティアワーク研修のプログラムを策定する。</p> <p>3-4 障害児・者の家族とボランティアを対象として、ボランティア育成ワークショップのファシリテーターとなる知識を習得するための、研修・ワークショップを実施する（障害児・者の日常ケア研修、ホームセラピー・ワークショップなど）。</p>			

活 動	投 入		外部条件
<p>3-5 上記活動2-4でスキルを身につけた障害児・者の家族とボランティアがファシリテーターとなり、障害児・者の家族を対象とした研修を開催する。</p> <p>3-6 ボランティア活動を実施するための財源を確保する。</p> <p>3-7 村のCBR活動委員会を設置する。</p> <p>成果4の活動</p> <p>4-1 インクルージョンを指向する活動を実施する。</p> <p>4-2 CDA、社会連帯省（本省・支局）、障害児・者とその家族によって、自助グループの形成を検討する。</p> <p>4-3 障害児とその母親を対象とした、相談事業を定期的に設ける。</p> <p>成果5の活動</p> <p>5-1 プロジェクト活動を定期的に記録する。</p> <p>5-2 （プロジェクトの終盤期に）シャルキーヤ支局、CDA、サフル村代表者、障害者、その家族、ボランティア、日本人専門家により、これまでの活動の効果や残された課題についての意見交換を行う。</p> <p>5-3 上記すべての活動と成果の達成状況に基づき、CBRの地域資源・課題・可能と考えられるアプローチの記載を含めた最終報告書を取りまとめる。</p>			<p>前提条件 サフル村の住民がCBRプロジェクトの実施に賛成する。</p>

添 付 資 料

1. 調査項目と方法（評価グリッド）
2. 社会連帯省・社会連帯省シャルキーヤ支局・地域開発
協会の組織概要
3. 収集資料一覧
4. 署名ミニッツ文書（Minutes of Meetings：M/M）

1. 調査項目と方法 (評価グリッド)

1. 実績の検証	必要な情報 (# 1-23)	情報源と調査方法
調査項目		
＜投入の実績＞		
投入の内容	1) 人材 (日本側・「エ」国側) 2) 施設・資機材 (日本側・「エ」国側) 3) 本邦・第三国研修実施 (日本側負担) 4) 総事業経費 (日本側・「エ」国側)	進捗報告書等関連資料(以下、報告書)レビュー 同上、質問紙票調査(日本人専門家) 同上 同上、質問紙票調査(MOSS HQ)
＜成果の実績＞		
成果(1) パイロット地域の障害者支援に係る地域資源とアプローチが特定されているか?	5) 調査により確認された地域資源と課題 (指標 1-1) 6) Saifour 村障害者統計 (障害別・年齢別人口) (指標 1-2) 7) 特定された活用可能な資源とアプローチの内容 (指標 1-3)	報告書レビュー、質問紙票調査(専門家)、インタビュー調査(シヤルキーヤ支局、CDA) 同上、シヤルキーヤ支局リハビリ部(データ収集) 報告書レビュー、質問紙票調査(専門家)
成果(2) CBR ボランティアが継続的に活動しているか?	8) 研修・ワークショップを受講した母親を含むボランティアの人数・ボランティア活動の継続性 (指標 2-1) 9) 研修講師となった母親・ボランティアの人数 (指標 2-2) 10) 設置された基金(活用の目的・方法・活動予算) (指標 2-3) 11) 定期会合実施数 (指標 2-4) 12) ボランティア活動の内容・仕組み・CDA のボランティア支援体制 (指標 2-5)	報告書レビュー、質問紙票調査(専門家)、インタビュー調査(シヤルキーヤ支局、CDA、研修WS 講師、研修WS 受講者) 同上 報告書レビュー、質問紙票調査(専門家)、インタビュー調査(CDA) 同上 同上
成果(3) 障害児・者の地域活動への参加機会が拡大しているか?	13) 障害児・者が参加した地域活動の内容と参加者数・参加回数・参加機会の変化 (指標 3-1) 14) 地域活動に参加を希望する/参加した障害児・者の意識の変化 (指標 3-2)	報告書レビュー、質問紙票調査(専門家)、インタビュー調査(シヤルキーヤ支局、CDA、障害者と家族、ボランティア、講師) 同上
成果(4) 住民の障害児・者についての理解が深まっているか?	15) 成人対象のインクルージョン活動の内容・回数・参加者数 (指標 4-1) 16) 児童対象のインクルージョン活動の内容・回数・参加児童数 (指標 4-2) 17) 障害児・者との共生に関わる地域住民の意識の変化 (指標 4-3)	報告書レビュー、質問紙票調査(専門家) 報告書レビュー、質問紙票調査(専門家)
成果(5) 社会モデル CBR の事例がとりまとめられているか?	18) CBR 活動に係る月例報告書 (指標 5-1) 19) CBR における可能と考えられるアプローチや課題の記載を含む最終報告書 (指標 5-2)	同上 報告書レビュー、質問紙票調査(専門家)、インタビュー調査(シヤルキーヤ支局、CDA) 同上
＜プロジェクト目標の達成見込み＞		

(2009年11月・プロジェクト終了時に) サフル村の障害児・者は、地域活動に積極的に参加することができるようになるか?	20) 地域活動に参加した障害児・者と家族の数 (指標1)	上記#13-14)の調査結果より予測
	21) 障害者自助グループの設立案(目的・活動・メンバー) (指標2)	質問紙票調査(専門家)
	22) 障害児・者と非障害児・者の共生に係る意識の変化(方法・項目・担当者) (指標3)	上記 #15 -17)の調査結果より予測
	23) CBR実施の教訓や課題の記載を含む最終報告書 (指標4)	質問紙票調査(専門家) 上記 #5-7, 18)の結果より予測

2. 実施プロセスの検証

調査項目	必要な情報 (# 24-29)	情報源と調査方法
活動進捗とデザイン修正の有無	24) 活動進捗や成果発現を効果的・効率的に促進した特別な要因 25) 進捗の遅れや当初デザインからの大きな変更点がある場合その理由。	報告書ビエ、質問紙票調査(専門家)、インタビュー調査(シヤルキーヤ支局, CDA, 障害者, 障害児・者家族, ボランティア)
プロジェクト実施体制	26) 運営監理体制は適切であるか(詳細活動・年間計画・問題への対策の意思決定、活動進捗の報告、運営監理担当者の役割) 27) モニタリング体制は安定しているか(記録、合同調整委員会開催)	報告書ビエ、質問紙票調査(MOSS HQ, 専門家), インタビュー調査(シヤルキーヤ支局, CDA)
ターゲットグループとプロジェクトアクターの、プロジェクト実施に対する理解と意欲	28) 障害児・者, その家族, ボランティア, CDA, DOSS Sharqiya (ターゲットグループ) は、プロジェクト活動を理解し、積極的に参加しているか 29) 対象地域の村民にプロジェクトの活動の必要が認められ、活動実施に支持を得ているか(前提条件)	同上 同上 同上

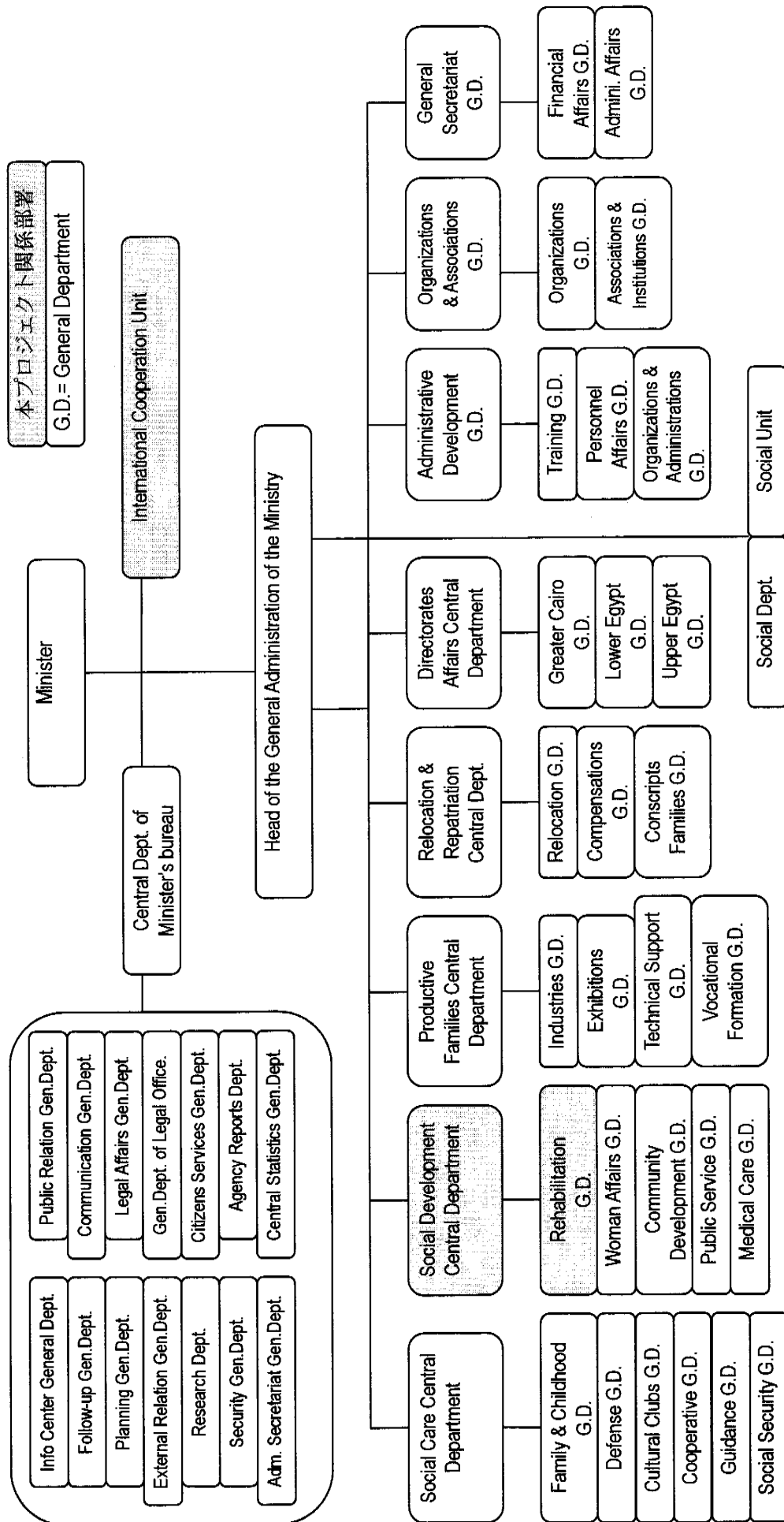
3. 5項目別評価の分析

調査項目	必要な情報	情報源と調査方法
1.1. プロジェクトの、「エ」国障害者支援政策との整合性	プロジェクトは、「エ」国の障害者支援政策に基づき、社会連帯省の障害者支援政策に合致しているか	「エ」国第6次五年計画(2008~2013)のレビュー、調査質問紙表とインタビュー調査(MOSS)
1.2 JICAの対「エ」国援助方針との整合性	プロジェクトは日本の「エ」国援助政策・対「エ」国実施計画と整合するものであるか	JICA「対国援助実施計画」レビュー
1.3 プロジェクト目標の、裨益者ニーズとの整合性	プロジェクトの目標は、対象国と対象地域の障害児・者とその家族の必要性に応えるものであるか	実績#5-7) 13-14) 検証結果の分析、インタビュー調査(DOSSシヤルキーヤ支局, CDA, 障害者と家族, ボランティア)
1.4 アプローチの適切性	諸活動は、生活の質的向上や地域活動参加のために自らアクションを起こそうという、障害者当事者・その家族と、ボランティアの意欲と意思の促進(エンパワメント)に役立っているか	実績# 8-17), プロセス #24) 検証結果の分析, インタビュー調査(シヤルキーヤ支局, CDA, 障害者, その家族, ボランティア, 研修講師)

2. 有効性 (見込み)	2.1 プロジェクト目標達成見込み	プロジェクト終了時にサフル村の障害児・者と家族が恒常的に地域住民の協力を得て地域活動に参加すると見込めるか プロジェクト達成の阻害要因は何か (外部条件を含む) 障害児・者とその家族への協力で、彼らの地域活動に参加するのが望ましいという意識が住民全体に広まると見込めるか	実績#20-23) (プロジェクト目標達成見込み) 検証結果の分析 分析、妥当性1.4の分析 実績#20-23), プロセス#29) 検証結果の分析 実績#15-17)及び20-23) (プロジェクト目標達成見込み)の検証結果の分析、 実績#1-4)、プロセス、有効性を分析、直接観察(施設・機材) 妥当性1.2 #34)、質問紙表調査 (専門家)
	2.2 障害児・者とその家族の地域参加を支援する住民の意識向上	投入内容・量と投入時期の適切性 類似プロジェクトと比した投入対効果の程度	
3. 効率性	3.1 投入時期と活用の適切性		
	3.2 各成果の達成状況	投入と活動状況に対して、適切な成果が達成されているか 成果達成のために考慮されるべき配慮事項 (阻害要因、外部条件を含む)	実績#1-19) 結果を分析 実績#1-19) 実施プロセス#24, 25, 29)の結果を分析
	3.3 効果的な実施を可能にするため運営上の措置	効果的な活動実施を可能にするための、関係者の適切な連携・協働がなされているか 視察された類似プロジェクトの教訓は、プロジェクトの活動に生かされているか (どのような?)	プロセス結果#26-28), 有効性2.2 #42の結果を分析 妥当性1.4の結果を分析、質問紙表調査(専門家) インタビュー調査 (シヤルキーヤ支局, CDA, 障害者家族、ボランティア)
4. インパクト	4.1 上位目標の達成見込み	プロジェクトを通して、CBRの課題と教訓、可能と考えられるアプローチは明確にされつつあるか 上位目標達成のために考慮されるべき事項 (阻害要因、外部条件を含む)	実績#20-23)の検証結果、質問紙表調査(専門家)、インタビュー調査 (シヤルキーヤ支局, CDA) プロセス#24, 25) 質問紙票調査 (日本人専門家, MOSS HQ) 報告書ビジュ、質問票調査(専門家, MOSS), インタビュー (シヤルキーヤ支局, CDA, ボランティア), プロセス#29), 効率性#46)結果分析
	4.2 波及効果	予期されなかった正あるいは負のインパクトは何か	
5. 自立発展性 (見込み)	5.1 政策的側面の持続可能性	CBR展開の「エ」国側の方針は明確であるか。	妥当性、効率性、インパクトの結果分析、質問紙票調査 (専門家, MOSS 本省)
	5.2 組織体制・財政面での持続可能性	サフル村での活動の継続のための、人材・活動計画・財政基盤をもつか	妥当性、効率性、インパクトの結果分析、質問紙票調査 (専門家)、インタビュー調査 (シヤルキーヤ支局, CDA)
	5.3 技術的側面の持続可能性	障害者・家族・ボランティアは、研修により学んだ技術・知識を日常生活において活用しているか	インタビュー調査 (シヤルキーヤ支局, CDA, 障害者、障害者の家族、ボランティア、研修WS講師)

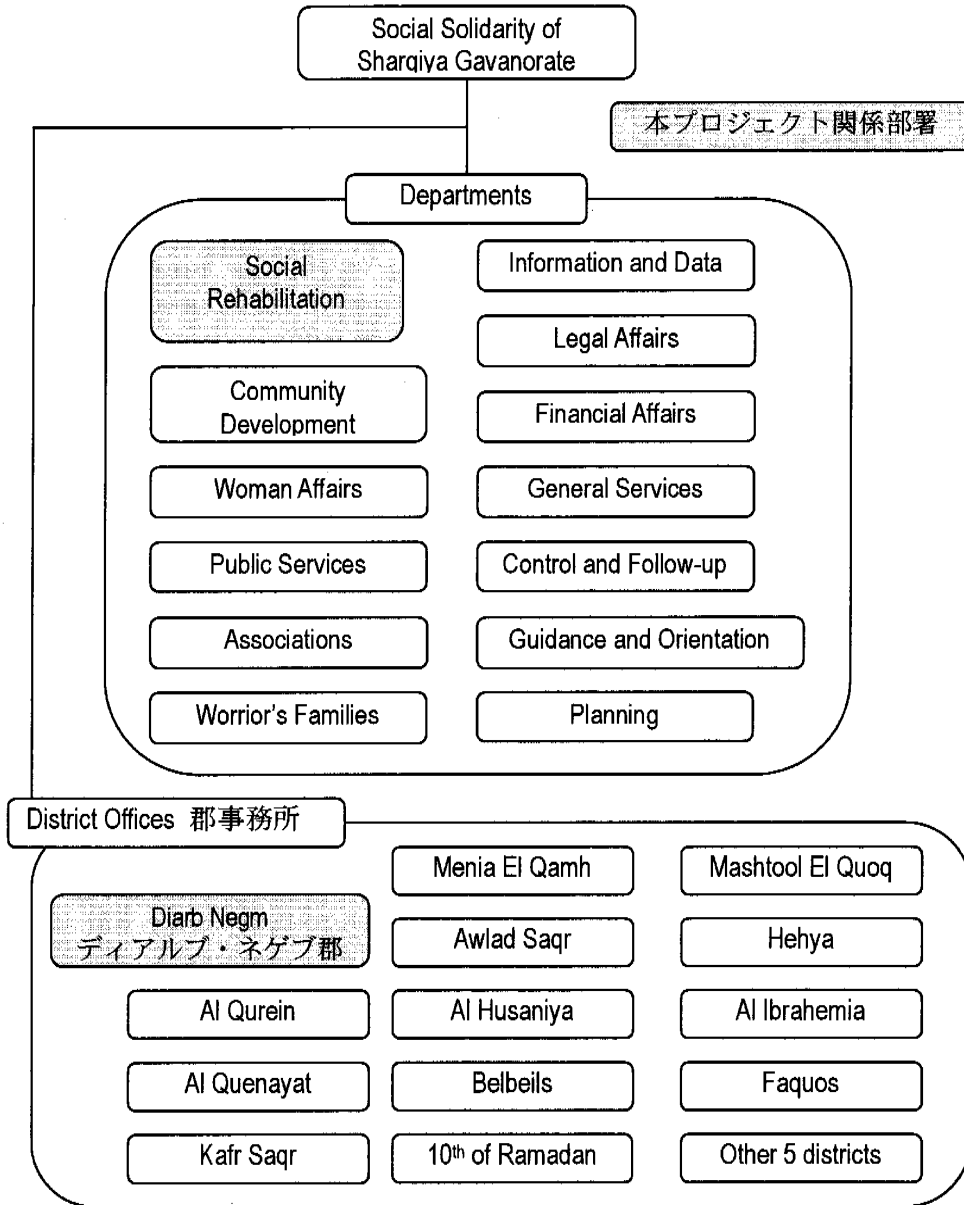
2. 社会連帯省・社会連帯省シャルキーヤ支局・地域開発協会の組織概要

図・社会連帯省組織体制 (旧：社会事業省)



資料：「第2次事前調査報告書」2005年3月、「地域分析手法短期専門家報告書」2006年11月

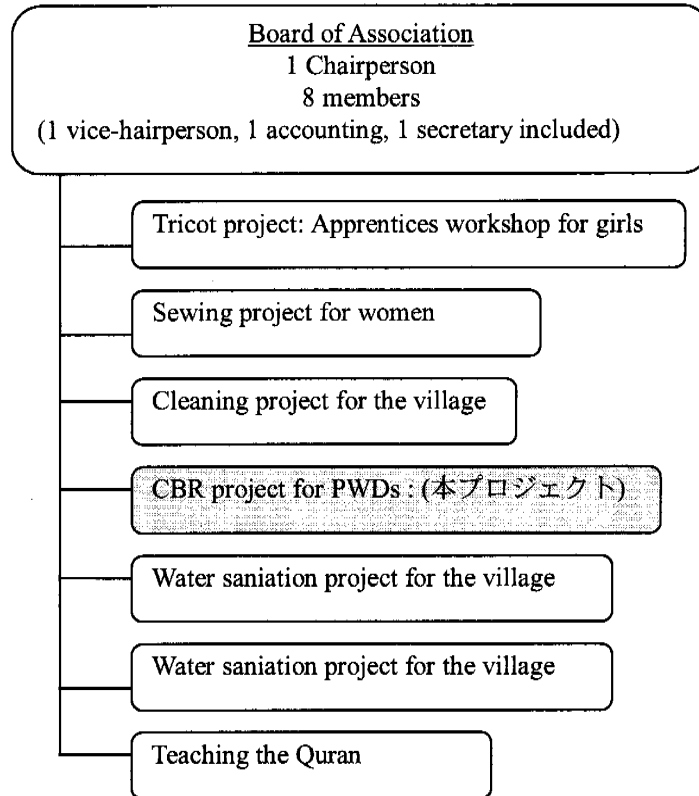
図・社会連帯省シャルキーヤ県支局組織体制



注：サフル村はディアルブ・ネゲム郡に属する。

資料：「地域分析手法短期専門家報告書」2006年11月

図・地域開発協会理事会と組織活動



資料: *CDA Safour Brochure: The Social Sene in Safour, Services that are being provided by the CDA, October 2008, CDA Safour 及び CDA へのヒアリング*

3. 収集資料一覧

資料(3) 収集資料一覧

資料名称/作成年/作成者

1. *Infant massage for mothers and children with special needs, session 1*, 2007, Sue Hartshorne (英語)
2. *Infant massage for mothers and children with special needs, session 2*, 2007, Sue Hartshorne (英語)
3. *Infant massage for mothers and children with special needs, session 3*, 2007, Sue Hartshorne (英語)
4. *Intake form*, 2008 (英語・アラビア語)
5. *Evaluation of a child's level of mental and social development, Chapter 34, Child Deevlopment of "Disabled village children"*, David Werner, (英語・アラビア語)
6. *Evaluation of a child's level of physical development, Chapter 34, Child Deevlopment of "Disabled village children"*, David Werner, (英語・アラビア語)
7. *The Progress Report of the Project for Empowering the People with Disability through Community Development*, October, 2008, Fathy Ibrahim Mansour Ali (アラビア語)
8. *CDA Safour Brochure: The Social Sene in Safour, Services that are being provided by the CDA*, October 2008, CDA Safour (アラビア語)
9. *A Report of the achievements of the work plan for the Year 2008-2009: April 2008 - March 2009*, October 2008, DOSS Sharqiya, CDA Safour (アラビア語)


**MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
THE JAPANESE MID-TERM EVALUATION TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE ARAB REPUBLIC OF EGYPT
ON
JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR THE PROJECT
ON
EMPOWERING PEOPLE WITH DISABILITIES THROUGH COMMUNITY
DEVELOPMENT IN THE SHARQIYA GOVERNORATE**

The Japanese Mid-term Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Japanese Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Masakatsu Komori, visited the Arab Republic of Egypt from October 25 to November 6, 2008.


During its stay in the Arab Republic of Egypt, the Japanese Team had a series of discussions with the Egyptian authorities concerned, jointly evaluated the achievement of the Japanese Technical Cooperation Project, 'Empowering People with Disabilities through Community Development in the Sharqiya Governorate' in the Arab Republic of Egypt (hereinafter referred to as "the Project") and exchanged views on the project activities to fulfill the Record of Discussions (hereinafter referred to as "R/D") signed on February 22, 2006.

Both sides also discussed the detailed design of revised project design and the tentative plan of activities. As a result of the discussions, the Japanese Team and the Egyptian authorities concerned agreed the matters referred in the document attached hereto.

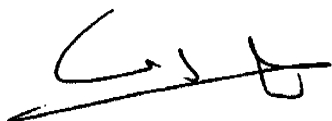
Cairo, November 6, 2008



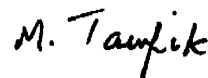
Masakatsu Komori
Team Leader,
Japanese Evaluation Team
Senior Representative of Egypt Office
Japan International Cooperation Agency



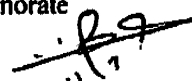
Abd-al-Azim Mohamed Abd-al-Monem Fayad
Chairperson
Community Development Association of
Safour



Mohamed Tawfiq Mohamud
Minister Advisor
Ministry of Social Solidarity
The Arab Republic of Egypt



Abd-al-Badie Abd-al-Rahman Al-Sady
Director
Department of Social Solidarity
Sharqiya Governorate



ATTACHED DOCUMENT

REPORT OF THE MID-TERM EVALUATION STUDY
ON
THE TECHNICAL COOPERATION
FOR
"EMPOWERING PEOPLE WITH DISABILITIES THROUGH COMMUNITY DEVELOPMENT
IN THE SHARQIYA GOVERNORATE"
IN
THE ARAB REPUBLIC OF EGYPT

November 6, 2008

JOINT MID-TERM EVALUTATION STUDY TEAM

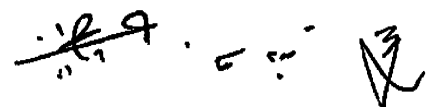
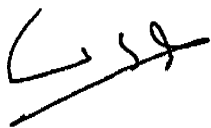


Table of Contents

1. Introduction.....	1
1-1. Background	1
1-2. Objectives of Evaluation	1
1-3. Evaluators	1
2. Project Design Matrix for Evaluation.....	2
3. Methodology of Evaluation	2
3-1. Method and Guideline	2
4. Major Findings and Achievement.....	2
4-1. Main Achievement of Project Outputs	2
4-2. Prospected Achievement of Project Purpose.....	4
4-3. Prospected Achievement of Overall Goal	5
5. Evaluation of the Project	5
5-1. Relevance	5
5-2. Effectiveness.....	6
5-3. Efficiency	6
5-4. Impacts	7
5-5. Sustainability	7
5-6. Conclusion.....	8
6. Recommendations.....	8
7. Revision of PDM	9

List of ANNEX

ANNEX 1. Project Design Matrix (PDM) for Evaluation

ANNEX 2. Two and half –Year Accomplishment (by October 2008)

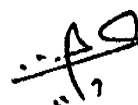
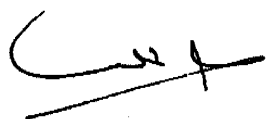
ANNEX 3-1. Achievement of the Plan (as of October 2008)

ANNEX 3-2. Personnel Assignment (Main human resources by both sides)

ANNEX 3-3. Trainings, Workshops, Seminars, Similar PWD projects studies, Events conducted

ANNEX 3-4. List of Material and Equipment Procured

ANNEX 4. Revised PDM (PDM 2)



1. Introduction

1-1. Background

The Ministry of Social Solidarity (MOSS), Department of Social Solidarity (DOSS) in Sharqiya, Community Development Association (CDA) of Safour Village, Sharqiya Governorate and Japan International Cooperation Agency (JICA) have been working together for 'Empowering Persons with Disability through Community Development' since March, 2006 (Record of Discussion signed in February, 2006, preparatory period started in March 2006, formal project period is from November 2006 to November, 2009).

The Project aims at empowering the persons with disability (PWDs) in Safour Village of Sharqiya Governorate to more participate in community as active members. A variety of activities needed for community based rehabilitation (CBR) have been encouraged and actively conducted targeting not only the PWDs and their families, especially their mothers, but also the people in the community to date .

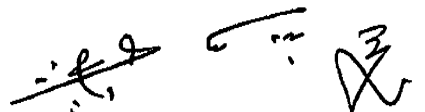
The evaluation study has been done to review the achievement and discuss the remaining concerns and the measures to be taken for better management of the Project, and ultimately the best result of the Project.

1-2. Objectives of Evaluation

- (1) To review the actual outcome and the current achievement of the Outputs of the Project,
- (2) To grasp Inputs of both sides and to summarize the implementation process,
- (3) To execute an overall evaluation on the achievement of the Project by five criteria,
- (4) To make recommendations for the remaining period,
- (5) To draw lessons learnt from the Project for the same field of technical cooperation,
- (6) To identify the activities needed and implementing structure of the Project for the remaining period until November, 2009 as the formulation of PDM version 2.

1-3. Japanese Midterm Evaluation Team

Mr. Masakatsu Komori	Team Leader, Senior Representative of JICA Egypt Office
Dr. Kenji Kuno	Expert on PWDs Assistance, Senior Advisor for Social Welfare, JICA HQ
Mr. Nobushige Yamauchi	Expert on Social Welfare of PWDs, Kanagawa Learning Disability Association
Ms. Keisuke Nakashima	Study Planning, Senior Program Officer at Social Security Division, Human Development Department JICA HQ
Ms. Kyoko Kojima	Project Evaluation Analysis, Senior Consultant, INTEM Consulting Inc.



2. Project Design Matrix for Evaluation

Before starting the study the Team had examined both the Project Design Matrix (hereinafter referred to as "PDM") version 0 agreed in the Record of Discussion signed on March 2 of 2006 and the PDM version 1 prepared in March, 2008 which had mainly the revision of activities according to the development and necessity of the Project.

The Team prepared the PDM for Evaluation (herein after referred to as 'PDM e') to ensure the complete review and examination covering March 2006 to the present including preparatory period, as well as to keep the logicity and accuracy of evaluation. See ANNEX I. Project Design Matrix for Evaluation.

3. Methodology of Evaluation

3-1. Method and Guideline

The evaluation is conducted in conformity with "*JICA's Guideline of Project Evaluation*" (2004). In this method, the Project outcomes and progress, represented by the Project Design Matrix (PDM), are examined and analyzed by five criteria, i.e. relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability. The scope of evaluation covers March, 2006 to October 2008 including the preparatory period mentioned above. The evaluation was jointly conducted by the both sides, Egypt and Japan, and the findings were documented into this Report.

4. Major Findings and Achievement

The major findings and achievements are summarized as follows. The outcome by indicator of Outputs and Project purpose are shown in ANEEX 3-1 and inputs and activities conducted are summarized in ANNEX 3-2 to 3-5.

4-1. Main Achievement of Project Outputs

Output 1	Social resources and approaches for PWD assistance projects of the target area have been identified.
----------	--

The potential resources in the community and status of PWDs in Safour village were identified through baseline and community analysis surveys conducted between March and October, 2006. Mobile campaign seminars have been conducted to let the village people know the purpose and anticipated result of project activities, and to grasp the circumstances of village people including PWDs families. Home visits have temporally been done for the purpose of PWDs life status surveys, consultancy, home helps and so on, which are currently suspended.

Learning of other CBR projects have been done through visit studies, training and seminar in and out of the Egypt; among which the skill of Montessori based therapy and child care theory have

been introduced in activities.

Output 2	Volunteer works of community-based rehabilitation are continuously promoted.
----------	--

The Project has been promoting volunteer development through training and workshops. The volunteers have understood the development of disabled child and have learnt the knowledge and skills of simple home exercise, such as baby massage, play therapy, Montessori based child care and so on. They have also been learning how to teach those skills to mothers with disabled children.

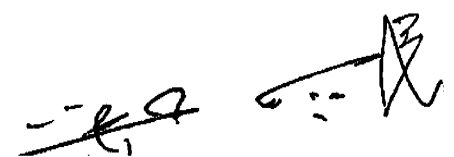
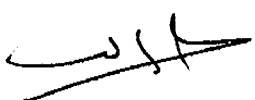
Although some village people know the being of children with disabilities and expect to work for those children through the project implementation, only 3 volunteers actively and continuously work at present. The number of the village people who are interested in volunteer work has decreased after the start of the project, and there are issues as follows: (1) Activities hours at CDA, (2) There is not enough fund for economic incentive for volunteers, (3) Back up environment created by the implementers to motivate volunteers:

Regarding (1) there are potential volunteers who are not available in the morning when the activities are mainly done, (2), it is difficult for those who have needs on income to continue without payment. Regarding (3), it is difficult for volunteers, especially young people and the employed, to keep their passions to continue in case that they do not receive any encouragement or appreciation and accordingly they do not feel their pride to be volunteers.

Output 3	Opportunities of participation in community activities by PWDs have been expanded.
----------	--

Workshops and inclusive activities by the Project have provided PWDs and their families with new opportunity to join community activities and communicate with other PWDs and their families. Besides, mothers and volunteers show their high motivation to learn the unpainful, safe and effective child care to enhance physical and mental development. The families with disabled child who joined trainings and workshops show their high expectation to their children's better quality of life. On the other hand, only a small number of families has joined the activities at CDA and their participation tends to dwindle compared to the beginning of the project. Three reasons have been found for this as below:

- (1) Parents who have expected the visible and quick effects of therapy tend to lose their interests in baby massage and Montessori based child care, which require a long run practice in their daily life,
- (2) Repeating knowledge can easily lower the parents motivation although it is needed, and
- (3) Many PWD families wish that disability of their children would be medically cured and they are not so interested in the activities to be practiced in daily life without clinical intervention.



Output 4	Community people have deepened their understanding about PWD.
----------	---

The project has enabled the village people to know and to be aware more about the PWDs as well as support activities for them at CDA. Inclusive activities including events and workshop for persons with and without disabilities are mainly done by CDA. The said activities have enabled the both of them to share the time and space and communicate to each others, which help the people deepen the understanding about the PWDs.

According to the result of the people in Safour have traditionally a philanthropy spirit to the vulnerable people including the PWDs, and supposedly the project has encouraged them to be more aware of the meaning of PWD assistance. On the other hand, still many disabled children are out of public services according to the interviews to public school (elementary and former secondary) which are neither positive nor active to PWD acceptance. Beside this, it is noted the participation of village people in project activities are limited.

Output 5	Cases of community-based rehabilitation (CBR) project have been summarized in the document.
----------	---

The progress of activities has been regularly summarized into written documents by the officer at Social Solidarity Unit of DOSS Sharqiya at CDA and reported to DOSS Sharqiya and also to the Ministry Headquarters in Cairo.

More than that, a '*CBR Final Report*' would be one of the important activities in coming one year. The project experience including knowledge and lesson needs to be discussed among actors so as to identify possible future approaches. It is expected that the project summarizes the Report which would describe the roles and interests of different actors, useful community resources and risk factors.

4-2. Prospected Achievement of Project Purpose

PWDs in the Safour village more participate in community activities as active members.
--

'PWDs participation in the community activities' expected at the project purpose has remained within the scope to merely join the workshops and events organized by CDA so far, although the project initially aimed that the PWDs at different ages would join the diversified activities in the community. While an active participation has been found in some of PWDs and their families, the scale of participation remains a small number, about one seventh of registered PWDs. (79 persons as of October, 2008). The current activities in CDA Safour focus on disabled children and their families, and the interest among adult persons with disability and their families tends to be lower.

In August 2007, the target group for activities became concentrated to mainly disabled children

and their families. This adjustment may have been realistic due to mainly two reasons: 1) the project period is short as 3 years, and 2) the manpower for CBR promotion in Safour are limited. As the result of this revision, the anticipated achievement of project purpose, compared to the initial plan, would be to the smaller extent.

4-3. Prospected Achievement of Overall Goal

The PWD assistance projects applying the CBR approach identified are developed and implemented in the surrounding areas of Sharqiya Governorate through the initiative of MOSS.

The Project aims at achieving 'The PWD assistance projects applying the CBR approach identified are developed and implemented in the surrounding areas of Sharqiya Governorate through the initiative of MOSS', and the CBR Final Report planned to be formulated at the final stage of the project will be one of important resources for the Ministry to identify CBR mechanism and policy formulation. However, the above mentioned report would not be enough to achieve the overall goal, the Ministry would need more other studies of different CBR projects.

5. Evaluation of the Project

5-1. Relevance

Clear relevance has been recognized with some concerns regarding the approach of design, as follows;

The Ministry recognizes that CBR is the promising methodology which effectively generates outcomes in terms of PWD issues, despite its lower cost, and therefore, it is actively promoting the mechanism creation and the program development of CBR. The Project, expected to be one of CBR models, has been conducted for assisting the CBR policy and its mechanism establishment in rural areas, and the appropriateness of implementation is highly recognized.

In terms of the project approach, the Team has found that the Project implementation has enabled the village people to raise awareness about PWDs. Moreover, some volunteers or families of PWDs who have actively joined the activities show their strong motivation to continue the activities in CDA Safour village. On the other hand, the participation remains limited as the Project made a revision of target groups to be restricted to disabled children, their families and volunteers without much attention to the adults with disabilities. Taking account of the limited manpower, technical level and possible financial resources, this revision may have been realistic adjustment in the process, while this is not a sufficient approach enough to empower the PWDs and their families.

5-2. Effectiveness

The effectiveness has been found to some extent as follows:

As mentioned in '4-2. Prospected Achievement of Project Purpose', the Project currently focuses on disabled children and their families as target beneficiaries who joined the activities at CDA, the prospected achievement of project purpose would be to the much smaller extent than the initial plan which had expected the wider participation of PWDs of different age and different types of disability.

According to the opinions among actors, i.e, MOSS, DOSS Sharqiya, CDA board members and the Japanese expert, the awareness in Safour village people toward the assistance to PWDs has been clearly increased compared to the status before the Project. On the other hand, the awareness mentioned has not yet sufficiently enabled the village people to acknowledge the community life supports to PWDs or co-existence with them. As the raising awareness of village people to PWDs is one of the issues, which requires a long-term commitment. It is therefore recommended that the Project should include some promotion and its mechanism creation in remaining one year's activities.

5-3. Efficiency

The Efficiency of the Project has been found to some extent as follows:

As mentioned in '4-1. Main Achievement of Outputs', the Project has developed volunteers through providing knowledge and skills such as care of disabled child, simple home exercise to promote their movement, know-how to improve communication with disabled children and so on. About 9 volunteers have actively worked for the Project activities at CDA during these two and half year, however, only 3 volunteers continuously work at present.

The activities done at CDA have provided families with disabled children with new opportunities to join community activities and communicate with other families. Mothers and volunteers show their strong motivation to learn the unpainful, safe and effective child care knowledge to enhance physical and mental development, and show their high expectation of their children's better quality of life.

As mentioned above in Effectiveness, the project enhanced the knowledge of village people about the existence PWDs and their families and the supports conducted at CDA. At the same time, the Team has also found out that still many children with disability are out of public services, and that the participation of village people to project in activities is limited.

In terms of inputs, five administrative persons from the Egyptian side and two experts from the Japanese side have been assigned as planned. The outstanding factors in terms of human resources of

Egyptian side, a big number of 39 persons without payment have been active in the Project, such as CDA board members, family members of PWDs, students, social service volunteers and so on. As reviewed in the Implementation Process shown in ANNEX 3-1, it is pointed out that the responsibility of each management personnel has not been clear enough over the course of process, and this has affected against efficient and effective information sharing, mutual understanding and eventually project progress.

5-4. Impacts

The Impact of the Project has been recognized including positive effects as follows:

The project has the overall goal as *'The PWD assistance projects applying the CBR approach identified are developed and implemented in the surrounding areas of Sharqiya Governorate through the initiative of MOSS'*, and the *CBR Final Report* planned to be made by the Project will be one of important resources for the Ministry to confirm a CBR policy.

Over the implementation, a positive unexpected impact has been found among people in Safour village: Families and relatives of PWDs, who had stayed at home for most of the time of day before the project, have extended their relationship to share the life of their disabled child as well as their own through activities at CDA.

5-5. Sustainability

The sustainability of the Project has been examined with remaining concerns as follows:

MOSS aims at creating an effective mechanism of CBR, and the project expected to be a model of CBR, is considered to be one of important contribution. On the other hand, the fulfillment of CBR development in surrounding areas in Sharqiya Governorate, the Project's overall goal, requires the policy assistance and as institutional and financial framework, which has not been yet established at the central level as well as at the local level.

CBR is deemed to be done in lower cost in comparison with institutional rehabilitation; however, to sustain a CBR project calls for a stable financial structure. Development of volunteers without economic incentive is not always sustainable. For continuing the activities and maintaining the outcomes of the Project, it is needed for the Egyptian side to provide adequate human and financial resources as well as a mechanism to enable that. Besides this, PWDs should be better integrated in the community and then should be strengthened.

In terms of technical sustainability, the interviews have shown that families of child with disability and volunteers who have been actively joining the Project in Safour village so far have well understood the purpose of home exercise of child care learnt through the Project and they

ANNEX 2. Two and half-Year Accomplishment (as of October, 2008)

■ Conducted

Year	2006												2007												2008												2009											
	Month	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
Record of Discussions (RD)																																																
Midterm Evaluation Study (M), Final Evaluation Study (F)																																																
Joint Coordinating Committee (JCC)																																																
■ Baseline																																																
■ Social survey																																																
■ 3 kinds WSA in 8 days																																																
■ 5 times																																																
■ 5 Basic Training: Practical training on the improvement																																																
■ Group learning training: WSS same 28 times																																																
■ WSA of cooking, hand craft, by making																																																
■ Home therapy and exercise																																																

Activities for Output 1

- 1-1 To conduct surveys about the community resources and situation related to PWDs' assistance and summarize the results into the written reports (base-line survey, community analysis survey by short-term expert)
- 1-2 To conduct the workshop of social research skill for CDA, village locals including PWDs, volunteer workers, MOSS officers (Participatory Learning & Action: PLA).
- 1-3 To hold CBR Mobile Campaign Seminar for PWDs, their families, village locals, community leaders so as to grasp the PWDs of village and their life status. (the same as 1-2 below)
- 1-4 To visit the families having PWDs by volunteer workers including PWDs so as to collect the qualitative information such as their community activity participation and to update the PRD registration.
- 1-5 To visit and study sister PRD assistant projects by MOSS Sherlypa, CDA, PWDs families and volunteer workers for learning the know-how or lessons applicable to Saurav village.
- 1-6 To review the PRD activities of MOSS Sherlypa and the above results of activities 1-1 to 1-5 so as to identify approached of PWDs' assistance in Saurav village.

Activities for Output 2

- 2-1 To hold CBR Mobile Campaign Seminar for village locals including PWDs and their families so as to promote the knowledge development about the role and importance of volunteers. (the same as 1-3)
- 2-2 To recruit and select volunteer workers from village locals including PWDs.
- 2-3 To make a volunteer work training curriculum for volunteers
- 2-4 To hold classes or workshops for mothers of PWDs and volunteer workers for learning the skills to be volunteer development facilities. (the improvement class, home exercise workshop etc)
- 2-5 To hold volunteer development classes or workshop for volunteers by PWDs mothers and volunteer workers as facilitators trained by the above activity 2-4.
- 2-6 To establish a special fund of the Project (to cover the financial resources)
- 2-7 To hold regular meetings among mothers of PWDs, volunteer workers, CDA members for discussing potential community activities by mothers of PWDs
- 2-8 To establish CBR working committee at the village level

Activities for Output 3

- 3-1 To grasp the current status of community activity participation by PWDs based on the result of activities of 1-1 to 1-4 (Output 1).
- 3-2 To create the opportunities of inclusive community get-togethers for both PWDs and non-PWDs. (the same as 4-1 and 4-2 below)
- 3-3 To discuss a future self-help group of PWDs by CDA, MOSS, PWDs and their families.

Activities for Output 4

- 4-1 To organize inclusive activities for children with and without disabilities so as to develop their awareness of co-existence (camping, recreation or sports). (the same as 3-2)
- 4-2 To create opportunities of child care learning or opinion exchange about children with and without disabilities for mothers of PWDs and volunteer workers. (child care class, toy making workshop, hand message class, tea ceremony etc.) (the same as 3-2)
- 4-3 To hold regular class by professional of pediatric neurological treatment for children with disabilities and their mothers under the cooperation of MOSS Sherlypa, CDA and volunteer workers.

Activities for Output 5

- 5-1 To keep and compile records of the project activities.
- 5-2 (at the final stage of the Project) To exchange opinions on the activities conducted, impacts, remaining concerns among MOSS Sherlypa, CDA, representatives of Saurav village, PWDs, their families, volunteer workers and Japanese experts.
- 5-3 Based on all the activities above and the achievement of Outputs 1-4, to make a final report in written document which includes community resources, lessons to be addressed, and possible approaches useful for community-based rehabilitation projects.

AS

8/9/11

ANNEX 3-1. Achievement of the Plan

1. Achievement of the Plan

See also ANNEX 3-2 ~ 3-4.

A. Inputs	Findings
1) Human Resources	<p>[Egyptian side] 44 persons in total (1) Administrative personnel: 5 persons in total One Project Director and one Project Coordinator from MOSS HQ, Tow Project Manager-2 (one assignment, personnel changed during the period) from DOSS Sharjah, Project Manager-1 from CDA. (2) Actors of project in the site: 39 persons in total Three officers from DOSS Sharjah, 10 members from CDA, 5 PWDs, 14 mothers of PWD, 7 volunteer workers [Japanese side] 17 persons in total (1) Two JICA experts, Two training/MS instructors, One contracted surveyors, Two interpreters, 10 technical supporters from NGOs. [Egyptian side] Facilities for trainings and workshops, Project office [Japanese side] Provision of office equipment, workshop materials</p>
2) Facilities and Equipment	<p>Training in Japan: Two CBR Trainings in Fukui Prefecture. (Three trainees in total) Arab CBR Seminar: Participation in the CBR Seminar in Syria (Three participants in total)</p>
3) Overseas Training	

B. Produced Outputs

Output (1) If the social resources and approaches for PWD assistance projects of the target area have been going to be identified?

Findings	
3) Community resources and concerns found by surveys (Ind.1-1) Information related to PWD assistance found by baseline survey (March 2006). Community analysis study and PLA Workshop (Aug. to Oct. 2006)-Home visits (14 times)-CBR mobile seminar (Five times from Jan. to Feb.2006) are as follows: (1) Community resources, PWD information 1) Baseline survey was conducted for finding the Classification and definition of PWD, PWD statistics, Stakeholders (local authorities, DOSS Sharjah, CDA)	
2) Potential community resources were identified through PLA workshops.	
No	Resource
1	local unit
2	Safou Harjia
3	agricultural coop
4	mosques
5	man Mahamoud Abdul primary school
6	Primary school No.1
7	Primary school No.2
8	Secondary school
9	Prep school for boys
10	Prep school for girls
11	Ashar's secondary institution (girls)
12	Ashar's primary institution
13	Crane
14	police station
No	Resource
15	electricity office
16	water unit
17	NET
18	private clinic
19	educational director
20	local council
21	youth club
22	social unit
23	coffee shop
24	workshops
25	pharmacy
26	CDA
27	fire fighting unit
28	road
No	Resource
29	orphans house
30	houses
31	Central
32	Post office
33	Occasion and room 3 house
34	Prudy
35	village bank
36	office of supply
37	Bakery
38	WAFOS
39	Shariya
40	tax office
42	surgey

3) Home visits.
 14 home visits were conducted by CDA board members, volunteer workers, mothers of PWD to PWD families with visit needs. The following tools used for life status information and registration have been prepared in Jan. 2006.

- intake form of PWD
 - Evaluation sheet for physical development of children
 - Evaluation sheet for mental and social development of children
- The information collected are filed in at the CDA office.

(2) The issues found

- 1) PLA workshop identified the issues in wide themes regarding PWD support as follows:
 - The community resources are concentrated in one small area.
 - The resources are not well managed.
 - Low accessibility of PWDs to the resources
 - Insufficient transportation for PWDs.
 - Insufficient job opportunity for village people especially for PWDs.

3) CBR mobile campaign

The five campaigns have been held for the introduction of project and volunteer workers recruit.
 CBR mobile seminar and its participants

No.	Date	Place	Women	Men	Child	Volunteer	PWD	Attendance
1	Jan. 26, 2007	Safou	18	32	60	2	14	126
2	Jan. 30, 2007	Safou	20	40	20	22	20	122
4	Feb. 2, 2007	Safou	40	70	25	10	20	165
5	Feb. 9, 2007	Safou	5	35	4	17	4	65
5	Feb. 13, 2007	Safou	35	50	25	19	23	152
Number of attendance *			118	227	134	70	61	630

Note: No. of attendance does not indicate number of individuals, some participants attended more than once.

6) PWD statistics of Safou village (population by disability classification and by age) (Ind.1-2)

- (1) By baseline survey (March 2006): Population in Safou: 14,399 persons, PWDs 336 persons.
- (2) Registered PWD at CDA: 79 persons (except deceased)

7) Applicable community resources and approaches identified (Ind.1-3)

- (1) Other CBR projects study visit and training:
 - 1) CBR training in Japan (twice in Fukui in Japan): one person from Rehabilitation Dept. MOSS, two from CDA) for learning CBR cases in Japan (Home visit, home helping, parents group, mainstream education).
 - 2) Arab CBR workshop: Project director and Japanese expert for learning self-help group of PWDs in Syria.
 - (3) JICA NET TV seminar: 4 persons of CDA, volunteers, other two adult PWDs for exchange idea of self-help group.
 - (4) CBR evaluation workshop: 10 persons (Project director and Director of Rehabil. Dept of MOSS, Project coordinator, CDA, Japanese expert, representative from JICA) for learning the impact of CBR.
 - (5) Anas Ala-Wagoud Association in Cairo: 7 persons (CDA, mother of PWD, volunteer workers) for learning Montessori based care.
 - (6) Study visit by Japanese expert.
 - ① Wafuda CDA in Cairo supported by Plan International
 - ② Abu Bakul CDA in Cairo supported by Plan International
 - ③ Helwan region project by Egypt Comprehensive Development Association
- 2) Community resources and possible CBR approaches will be discussed at the final stage of the project.

Handwritten signature and date: 11/3

Output (2) If the volunteer works of community-based rehabilitation have been continuously developed and promoted?

Findings			
8) Number of volunteer workers including PWD mothers who joined in training classes or workshops. (Ind.2.1)			
(1) Training and workshops			
① Practical training on life improvement			
Week	Participant	PWD Family	Volunteer
1st	22	10	2
2nd	24	11	2
3rd	28	12	4
4th	26	11	4
5th	45	21	3
Total	145	65	15
Completed			
			56

The First, Second and Forth WS:

- Target child with cerebral palsy and their parents (mainly mother)
- Daily care to disabled child, baby massage, play therapy, postural maintenance, intake(meal), toy making and simple home exercise.

The Third, Fifth WS:

- Daily intervention to problems happened in daily life about child with intellectual disability, handicraft, cooking as recreation with their family, know-how for improving the life of PWDs.
- According to instructor interviewee, basic therapy like baby massage has effectiveness different from other treatment widely practiced in Egypt which often gives children the pain. This sort of treatment without pain is attractive for mothers and welcoming method to be practiced as daily care for long span, and those mothers have actively participated.

(2) Group forming workshop for child with intellectual disability

Training have done 28 times in Apr. Jun. Aug. Sept. 2008.

The participants have learnt the facilitation skills used at workshops of baby massage, health enhancement of intellectual disability and so on.

Places	Period	Participants
Safour	Apr. to Jun. Aug. to Sept 2008	15 to 25 participants per WS • 5 mothers • 2 volunteer workers • 1 to 10 mothers

(3) Stability of volunteers

- Several volunteers who actively work at CDA.
- There are three mothers of disabled child who are potential active volunteer.

(4) Characteristics of volunteer workers

- Mostly village person, Students, Young women as Social Service worker, Mothers, sisters, relatives of PWDs

(5) According to the survey, the Project recruit the volunteers regularly, while turn-over of volunteers are high. 24 volunteers chosen through CBR mobile seminar in Jan. Feb. 2007 does not continue their volunteer activities. In comparison with the initial stage of the project

(6) Reason of high turn over of volunteers

- Motivation of volunteers tends to be lower compared to the start of the project. One of the reasons may be they work for supporting PWD without incentive payment.
- The young women before marriage tend to stop their volunteer works because of difficulties to get their family agreement.

9) No. of mothers and volunteer workers who have become class / workshop facilitators. (Ind.2-2)

- (1) 56 participants to Practical Training Workshop have acquired the skills to be volunteer instructors.
- (2) Three mothers and one volunteer have worked as sub-facilitator at the Practical Training Workshop mentioned above.

(10) Special fund established (purpose, activities and budget) (Ind.2-3)

This has not been established yet and the design is under the discussion.

(11) Regular meetings held (Ind.2-4)

- Three JCC meetings have been held.
- Regular meetings have been held by CDA, Social unit office personnel, Japanese expert.
- CBR working committee has not been established.

(12) Main activities, its mechanism, and CDA's role for of volunteer activities participation. (Ind.2-5)

- (1) Method of volunteer selection and registration
- Recruiting were done through CBR mobile seminar
 - Ask young women to work as Social Service duty.
 - Ask other village neighbors of volunteers
 - CDA takes in charge of recruit, selection and registration.
 - No special fund for volunteer work.
- (2) Criteria for volunteer selection
- Anyone who are interested in volunteer.
- (3) Activities
- Facilitation of workshop of craft, baby massage, play therapy etc. after having practical training.
 - To give knowledge and skill to the other volunteers
- (4) Foundation
- Volunteer works have been done with no payment.

Output (3) If the opportunities of participation in community activities by PWDs have been expanded?

Findings

(13) Change of type, participants and opportunity frequency of community activities which PWDs have joined, (compared to before the Project) (Ind.3-1)

(1) Provision of community activities

According to interview survey, workshops and event have helped to provide mothers of disabled child with new community activities through CDA and with communication chance among other families and children. Participation has become lower compared to the start of the project.

Home therapy (baby massage, play therapy, toy making)	Period	Participant
Baby massage, play therapy <td>8 times</td> <td>Mothers of disabled child Volunteer workers</td>	8 times	Mothers of disabled child Volunteer workers
	35 times	Mothers of disabled child Volunteer workers
Total	43 times	50 to 60 persons

Handwritten signature and initials.

(2) Community activities and participation

The main activities of project cover the disabled children of about 14 or below and their mothers. The project does not have baseline about the participation of PWDs and their family to community activities, thus it was not possible to measure the change of individual cases.

14) Change of awareness about PWDs who joined or will join the community activities (Ind.3-2)

According to interviews with 9 family members of PWDs, many of them said: met other PWD family at CDA, know the activities there, made friends, become more outgoing, knew more about PWD support.

Families who joined the workshops may have had some change in their acknowledgement and awareness in them by the project. 4 PWDs also say that they have found new friends at CDA, which is the important place for them to spend good time. This may show the some part of improvement of their lives.

The project currently focus on the disabled child, from infant to school age children, only two to three adult PWDs have joined the activities. Therefore it is difficult to review the change of awareness or thinking of whole PWDs in Safour village. The enhancement of awareness requires long time to be realized so the continuous commitment is needed.

Output (4) If the community people have been going to be dispensed their understanding about PWD?

Findings
15) Change of awareness about PWDs who joined or will join the community activities (compared to before the Project) (Ind.4-1)

Workshop title	Date	Inclusive activities done	
		participants	participants
Cooking	Feb. to Apr. 2008	Village women, Mothers and siblings of disabled child	
Craft	Feb. Apr. Jun. 2008	Village women, volunteer workers Mothers and siblings of disabled child	
Toy making	Feb. Apr. Jun. 2008	Village women, volunteer workers Mothers and siblings of disabled child	
Total		20 to 40	

16) Type, participants and opportunity frequency of inclusive activities for village children (Ind.4-2)

Event	Period	Event for community participants	
		Participants	Participants
Picnic to park	Dec. 2006	About 50 persons: child with or without disability, their families	
Excursion to zoo	Aug. 2008	About 50 persons: child with or without disability, their families	
Sea bathing	Jun. 2008	About 50 persons: child with or without disability, their families	
Picnic to park	Jul. 2008	About 50 persons: child with or without disability, their families	
Total		About 200	

17) Change of understanding of village people about PWDs (compared to before the Project) (Ind.4-3)

Since the project has no activity to monitor the trend and change of acknowledgement on PWD and awareness by village people, no report has been done on this matter. According to the survey this time, however, shows that more people in the village has known the status of PWDs and their families, and the support activities by the project.

At the same time, inclusion or mainstream has not been introduced at school (primary and secondary) and they don't have intention to accept disabled child to their school.

It is not easy to measure the awareness of village people about the co-existence with PWDs. It may be clear that observation over longer time span is needed to raise awareness. The project, therefore, would need to continue more inclusive activities for children of both with and without disability and their family.

Output (5) If the progress of CBR activities of the Project has been monitored and recorded?

Findings	
18) Monthly progress report of CBR activities (Ind.5-1)	<ul style="list-style-type: none"> The progress has been recorded by the Head of Social Unit Office at CDA The progress has been reported to DOSS Sharfygo and MOSS Two progress reports have been worked out in this October by Head of Social Unit and a volunteer worker at CDA. The format of progress record which show the activities, procedure, material used and participants has been made in Aug. 2008. This has been used in each workshop.
19) Final written report with description of possible approaches, issues to be addressed, and so on on CBR. (Ind.5-2)	This will be done at the final stage of the project.

C. Prospected Achievement of the Project Purpose (around Nov. 2008)

If PWDs in the Safour villages would be able to more participate in community activities as active members?

Findings
20) Number of PWDs and their families who have joined community activities (Ind.1)

Activity	Done	Main inclusive activities done at CDA	
		Participants	No. of Attendance
Practical training of life improvement disabled child	38 times	PWDs families, volunteer workers	About 145
Group farming workshop	28 times	PWDs families, volunteer workers	About 15~20
Workshop of Montessori-based care of disabled child	8 times	PWDs families, volunteer workers CDA board members	About 10~15
Home exercise (play therapy, baby massage)	38 times	PWDs, PWDs families, volunteer workers	About 50~60
Workshop of craft, toy making, cooking	4 months	Village women, disabled children, their siblings, volunteer workers	About 20~40
Event (picnic, sea bathing etc)	4 times	Village women, disabled children, their siblings, volunteer workers	About 200

Note: No. of attendance does not indicate the no. of individuals as some participants attended more than once.

21) Drafted plan of PWD self-help group (purpose, main activities, members etc) (Ind.2)

(1) JICA Net TV Seminar in Cairo, Jan. 28, 2008 with participants of 3PWDs, 2 volunteers, CDA board chair for learning self-help group practiced in other countries. Lastwahaadaku as one of OFO has given some workshops about their project and proposed the Safour village to visit that. But it is currently difficult continue this study because of insufficient human resources.

(2) Self-help group

The specific plan of this group has not been made yet because of lack of human resource as well as the PWD who hope this group. The discussion on this matter will be done at the final stage of the Project among scores.

22) Change of awareness of persons with and without disabilities about their co-existence. (Ind.3)

The survey on awareness change was not possible this time because the target beneficiaries are really the small children with disability. According to the hearing survey to their families and volunteer workers, most of respondents answers the PWDs families are not isolated in the community. However, there are opinions the acknowledgement of PWDs right on education and employment are not enough and some schools (elementary and former secondary) have showed their low interest in inclusion at school. This result shows that more measures should be taken for awareness raise of village people with and without disability.

23) Final report which include the description of lessons and issues for implementing CBR projects. (Ind.4)

This will be done at the final stage of the project.

Handwritten signature and date: 2/7

2. Implementation Process

Items	Findings
Initial plan and its revision	<p>24) Revision of design from the initial plan The project had prospected the PWDs of different age from infant to elders as the initial target group, which required the diversified activities. However, the manpower and financial resources were not enough to cover the scope of set activities, and the target group was scaled down to disabled children and their mothers in the end of 2007 to conduct realistic possible activities at CDA. The Team has found that, nevertheless, this reason of this revision has not been well acknowledged among the administrative personnel</p> <p>25) Factors to effective output Among activities at CDA, many PWDs mothers and volunteer workers show their interest in baby massage, play therapy and craft and have learnt well those knowledge. This can be one of outcomes by the adjustment of focused target group and the activities set to meet their needs.</p>
Implementation structure	<p>26) Administration and management While many administrative actors, i.e., MOSS HQ, DOSS Sharqiya, Social Unit Office at CDA, and CDA board, have been assigned, which is one of characteristic of the Project, the responsibility of each assigned personnel have not been clear enough to secure the quality of management.</p> <p>27) Monitoring of the project activities Activities of CDA have been in daily bases monitored by CDA board members and Head of Social Unit Office of DOSS Sharqiya at CDA. The progress has been recorded by the said Head of the Social Unit Office who has reported it monthly to Dept. Rehab. Of DOSS Sharqiya. The Team has found, however, the monitoring site visit by DOSS Sharqiya has not been done as planned because of the unallocated travel fee.</p>
Initiative and perception of target groups	<p>28) Recognition and Participation of male actors about the Project At the project site, PWDs families and volunteer workers working at CDA have been motivated to learn the new knowledge about care of disabled child with. Active family think the new communication with other families are significant and wish the activities at CDA would continue. At the same time, some families who had already got the knowledge such as baby massage enough to practice by themselves have tended to loose their interest in repeating activities at CDA. The Team has found that consensus about the activities and its outcomes has not sufficiently been made among the personnel of administration and management (MOSS, DOSS Sharqiya, CDA, JICA), which may affect the philosophy of CBR approach within the Project.</p> <p>29) Support by the people of project site, Safour villages (Pre-condition) Mobile campaign seminars conducted in several places of village in 2007, which let the people, know the Project and its activities for receiving their acknowledgement. No objection from any public service agencies or people. On the other hand, the Team has found out that participants in activities are a part of village people and there are still public services agencies have no clear knowledge about the project.</p>

Handwritten signature and date: 11/7

ANNEX 3-2 Personnel Assignment (Human resources of the Project)

1. Human resources of Egyptian side

(1) Administrative and technical personnel

	Name	Assignment of the Project	Period of Assignment	Position / Profession , Organization
1	Mr.Mohamed Tawfiq	Project Director	Nov.2006 - present	Minister Advisor, Ministry of Social Solidarity (MOSS)
2	Mr. Khaled Aly Abdou	Project Coordinator	Nov.2006 - present	Director, International Cooperation Unit, MOSS
3	Ms. Sayeda	Trainee of training in Japan	Dec. 2007	Director, Rehabilitation General Department, MOSS
4	Ms. Hanim	Project Manager	Nov 2006- May 2008	Director, Department of Social Solidarity (DOSS) in Sharqiya
5	Mr.Abd-al-Badle	Project Manager	May 2008 - present	Director, Department of Social Solidarity in Sharqiya

(2) Technical Personnel at the site

■DOSS Sharqiya officers

	Name	Assignment of the Project	Period of Assignment	Position / Profession , Organization
1	Mr. Mustafa Abd El-Kader	Implementing Manger for Output 5	Nov. 2006 to Jul.2008	Director of Rehabilitation Department, DOSS Sharqiya officers
2	Mr.Ibrahim Abd El-Maboud Mohamed	Implementing Manager for Output 5	Aug. 2008 - present	Acting Director, Rehabilitation Department, DOSS Sharqiya officers
3	Mr.Fatahy Ibrahim Mansour Ali	Monitoring of Activities	Nov.2006 – present	Staff of Social Unit Safour at CDA Safour Secretary, DOSS Sharqiya

■CDA Board members

	Name	Assignment of the Project	Period of Assignment	Position / Profession , Organization
1	Mr.Abdel Azim Fayed	Implementing Manager for Output 1-4	Nov.2006 – present	Chairperson, Community Development Association (CDA)
2	Mr. Mahmoud Soliman Morsy		Nov.2006 – present	CDA Safour Board member
3	Mr. Yosry Abd El-Hady		Nov.2006 – present	CDA Safour Board member
4	Mr. Mohamed Mohamed Al-Hady Baz		Nov.2006 – present	CDA Safour Board member

5	Mr. Abd El-Bary Ahmed Abd El-Bary		Nov.2006 – present	CDA Safour Board member
6	Mr. Adel Abd El-Azeem Badr		Nov.2006 – present	CDA Safour Board members
7	Mr. Tharwat Mohamed Sayed Ahmed		Nov.2006 – present	CDA Safour Board members
8	Mr. Abu-Bakr Abd El-Kareem Abd El-Faitah		May.2008 to present day	CDA Safour Board members
9	Mr. Ali Goudah Abd El-Rahman Keshk		May 2006 to present day	CDA Safour Board members
10	Mr. Al-Sayed Al-Mohammady Daif		2006 to May 2008	CDA Safour Board members
11	Mr. Mustafa Attayah Mohamed Ebels		2006 to May 2008	CDA Safour Board members

■Persons with disability as trainees

	Name	Category of disability
1	Mustafa Al- Awady	Intellectual disabled
2	Wafaa Ahmed	Dwarfism
3	Amira Ghareeb	Intellectual disabled
4	Azza abd Al- Kareem Mohamed	physical disabled
5	Wafaa Sabir	slight intellectual disabled

■Mothers of disabled children as trainees, trainers or volunteers

	Name	Assignment of the Project	Period of Assignment	Position/Profession , Organization
Trainers				
1	Ms.Iham Ahmed Maher Sabry	Volunteer and Trainer	Sep 2008	CDA Safour member
2	Ms. Seham Ahmed Mohamed	Volunteer and Trainer	Sep 2008	CDA Safour member
3	Amal Mohamed Salim	Volunteer and Trainer	Sep 2008	CDA Safour member
4	Ms.Fatmah Ibrahim Hammed	Volunteer and Trainer	Sep 2008	CDA Safour member
Trainees				
5	Hanady Ahmed	Volunteer and trainee	Sep 2008	CDA Safour member

6	Suzan Mohamed	Volunteer and trainee	Sep 2008	CDA Safour member
7	Samah Abd Al- Mottaleb	Volunteer and trainee	Sep 2008	CDA Safour member
8	Sabah Hasanein	Volunteer and trainee	Sep 2008	CDA Safour member
9	Tharwat Mohamed Sayed Ahmed	Volunteer and trainee	Sep 2008	CDA Safour member
10	Soad Al- Sayed Ibrahim	Volunteer and trainee	Sep 2008	CDA Safour member
11	Soad Al- Sayed Ibrahim	Volunteer and trainee	Sep 2008	CDA Safour member
12	Sahar Mohamed Ibrahim Shehatah	Volunteer and trainee	Sep 2008	CDA Safour member
13	Boshra Mohamed Al- Sayed Salim	Volunteer and trainee	Sep 2008	CDA Safour member
14	Doaa Mustafa Fawzy	Volunteer and trainee	Sep 2008	CDA Safour member

Volunteer workers or as trainers

	Name	Assignment of the Project	Period of Assignment	Position / Profession , Organization
1	Mr. Mahmoud Soliman Morsy	Volunteer and Trainer	Sep 2008	CDA Safour member
2	Ms.Fatmah Mahmoud Khalif	Volunteer and Trainer	Sep 2008	CDA Safour member
3	Ms. Eman Mohamed Ali Zaitoun	Volunteer and Trainer	Sep 2008	CDA Safour member
4	Ms. Samar Mohamed Abd El-Ghany	Volunteer and Trainer	Sep 2008	CDA Safour member
5	Ms. Eman Abd El-Fattah Al-Hady	Volunteer and Trainer	Sep 2008	CDA Safour member
6	Mr. Ameen Daib	Volunteer and Trainer	Sep 2008	CDA Safour member
7	Mr. Al-Sayed Al-Mohammady Daif	Volunteer and Trainer	Sep 2008	CDA Safour member

2. Human resources of Japanese side

(1) Experts

	Name	Assignment of the Project	Period of Assignment	Position / Profession , Organization
1	Ms. Miho Yoshida	CBR Promotion	Nov.2008 - present	JICA Expert, JICA
2	Ms. Mitsuko Nakamura	Regional analysis method (PLA)	Aug.-Oct.2006	Kokusai Kogyo CO., LTD

(2) Local trainers (employment cost born by Japanese side) and surveyor

	Name	Assignment of the Project	Period of Assignment	Position / Profession , Organization
1	Ms.Susan Hartshome	Lecturer for Infant massage skill	Sept. 2007	Occupational Therapist (OT)
2	Ms.Dorothy Witt	Lecturer for occupational therapy	Oct. 2007	Occupational Therapist (OT)

(3) Other human resource

	Name	Assignment of the Project	Period of Assignment	Position / Profession , Organization
1	El-Zanaty & Association	Base Line Survey	Mar.2008	Consultant for social survey (out contracted)
2	Ms.Eman Amrousy	Interpreter	Jan 2008 – present	
3	Ms. Aya Refat	Interpreter	Jul 2007 – present	

(4) Human resource from NGO

	Name	Name of NGO	Position	
1	Ms.Nadia Ali	Anas Al-Wagoud Foundation	Chairperson	Montessori Education teacher
2	Dr. Ihab Regaa		Pediatric Neurologist	
3	Dr. Amany Imaiel Aly		Psychologist	
4	Mr. Mohamed Salah Ahmed	Lesta Whdak Association	Chairperson	Disabled People Organization (DPO)
5	Mr. Eslam Farouk	Mobility Again	Director	DPO
6	Ms. Heba Hagraas	Disabled People Organization Middle East		DPO
7	Dr. Alaa Sebeh	Save the Children UK		
8	Dr. Abdel Hamid Kabesh	Handicap International	Egypt Country Coordinator	
9	Dr. Iva Tank	Plan International	CBR Project coordinator	
10	Ms. Nairy Avedissian	British council	Manager Art	

ANNEX 3-3 Trainings, Workshops, Seminars, Home visits, Similar PWD projects studies, and Events conducted

I. Activities for Output 1

(1) Participatory Learning and Action (PLA) Workshop (for activity 1-2)

Title	Place	Date	Participants
Introduction to Participatory Development	Safour	Sep. 2, 3 and 7 2006	-7 CDA members -11 CBR volunteers (current and former) -12 village locals (2 PWDs and 10 non-PWDs)
PLA method training	Safour	Sep. 11, 12 and 13, 2006	-8 officers from the Rehabilitation Dept. of MOSS Sharqiya, Diarb Negrin Rehabilitation Office and Safour Social Solidarity Unit members.
PLA workshop	Safour	Sep. 17, 18 and 20, 2006	
Total		9 days	38 persons

(2) Mobile campaign seminars for PWD / volunteer awareness (for activity 1-3 and activity 2-1)

No.	Date	Place	Participants by category					Total
			Women	Men	Children	Volunteers	PWDs	
First	26 Jan 2007	Safour	18	32	60	2	14	126
Second	30 Jan 2007	Safour	20	40	20	22	20	122
Third	2 Feb 2007	Safour	40	70	25	10	20	165
Fourth	9 Feb 2007	Safour	5	35	4	17	4	65
Fifth	13 Feb 2007	Safour	35	50	25	19	23	152
Number of attendees *			118	227	134	70	81	630

Note: * The number of attendees does not indicate the number of persons as some of participants have attended at more than one seminar

(3) Home visit (for activity 1-4)

Period	H/H* visited	Visitor
Feb 2007 -	4	CDA members, volunteer workers
Feb-Mar 2008	10	a volunteer, mothers of disabled child
Total	14	

*H/H - household

(4) Oversea training (for activity 1-5)

Title	Place	Date	Participants
CBR training	Fuku, Japan	Jun-Jul 2008	1 person as follow Mr. Fahmy, Secretary of CDA Office.
CBR training	Fuku,	Dec 2007	2 persons as follows:

Title	Place	Date	Participants
Syria Arab CBR Workshop	Damascus, Syria	Dec.2006	2 person as follows: -Mr. Khaled Aly Abdou, Project Coordinator, (Director of Dept. International Cooperation, MOSS HQ) -Ms. Yoshida, JICA Expert
Total			5 participants

(5) TV seminar (for activity 1-5)

Title	Place	Date	Participants
JICA net Distance Learning TV Seminar on CBR (for learning PWD Self-help group)	Cairo JICA Office	29Jan 2008	• Mr. Mr. Abdel Azim Fayyed, CDA Chairperson, • Mr. Fahmy, Secretary of CDA Office, • 2 Volunteer workers • 3 disabled persons from DPOs
Total			4 persons

* DPO means Disabled People's Organization

(6) CBR Evaluation Workshop (for activity 1-5)

Title	Place	Date	Participants
CBR Evaluation Workshop	Zagrag	Jul.2007	• Mr. Tawfik MoSS HQ • Ms. Sayeda MoSS HQ • Mr. Khaled MoSS HQ • Mr. Komori JICA • Mr. Osamu Tanaka JICA • Mr. Abdulazim CDA Safour • Mr. Fahmy CDA Safour • Ms. Hanin MoSS Sharqiya • Mr. Mostafa MoSS Sharqiya • Ms. Yoshida, JICA Expert
Total			10 persons

(7) Lecture attendance at Montessori school for child with intellectual disability (for activity 1-5)

Title	Place	Frequency	Attendees
Montessori education for child with special needs	Cairo	Once per week from Feb. to April, 2008	• Mr. Mr. Abdel Azim Fayyed, CDA Chairperson, • Director of CDA Office, • Mothers of children with disability, • Volunteer workers
Total			7 persons

(7) Montessori based special education workshop (for activity 1-5)

Title	Place	Period	Participants
Workshop for understanding of child with disability (intellectual disability, LD, autism, speech)	Safour	Aug-Sept. 2008	• CDA members • Volunteer workers • Mothers of child with

development, nutrition etc)		disability Relative women of child with disability
Total	8 WS	About 10 to 15 persons

(9) Other study visit to related CBR project (for activity 1-5)

Project title (Area)	Organization (Supporter)	Visitor
Wahada CDA (Cairo)	Plan International	Ms. Yoshida, Expert
Abu bakal CDA (Cairo)	Plan International	Do
Activities for women in Margu (Cairo)	Egyptian Association for Comprehensive Development (EACD)	Do

2. Activities for Output 2

(1) Mobile Campaign Seminars (for activity 1-3 and activity 2-1)

The same as 1- (2) shown above

(2) Practical training on life improvement (daily care learning) (for activity 2-4)

See the following table for details.

Title	Place	Date	Participants
The 1st Practical training on life improvement of child with disability	Safou	Sept.5-11, 2007 (5 days)	• Families with children with disability • Volunteer workers
The 2nd Practical training on life improvement of child with disability	Safou	Oct. 27-Nov.10 2007(5 days)	• Families with children with disability • Volunteer workers
The 3rd Practical training on life improvement of child with disability	Safou	Dec. 12, 2007 - Jan. 2, 2008 (5 days)	• Families with children with disability • Volunteer workers
The 4th Practical training on life improvement of child with disability	Safou	Jan. 6 - Feb.3, 2008(5 days)	• Families with children with disability • Volunteer workers
The 5th Practical training on life improvement of child with disability	Safou	Jan. 13 - Feb.6, 2008(5 days)	• Families with children with disability • Volunteer workers
Total			145 participants*

Note: 56 persons out of 145 have fully attended all the classes of five trainings and received the certificate. 8 out of the certified 56 persons were evaluated as qualified to be volunteer instructor of the course.

Detail of participants

Training	Total No. of Participants	PWD	Family of PWD	Volunteer	Participants who completed the course
The 1st	22	10	10	2	12
The 2nd	24	11	11	2	12
The 3rd	28	12	12	4	14
The 4th	26	11	11	4	10
The 5th	45	21	21	3	8
Total	145	65	65	15	56

Signature

Contents of Practical Training (basic training)

Training	Instructor	Target	Training contents
The 1st	Susan (Dorothy)	• Families with child below 6 years old with disabilities, such as cerebral palsy, paralysis at birth or others. • Volunteer workers	Baby massage, play-therapy, posture improvement, food for infant, toy making.
The 2nd	Susan (Dorothy)	ditto	ditto
The 3rd	Dorothy	Families with child of 7 to 15 years old with intellectual disability.	Hand craft, toy making, communication tools making, life and nutrition
The 4th	Dorothy	ditto	ditto
The 5th	Susan (Dorothy)	Families with child below 6 years old with disabilities, such as cerebral palsy, paralysis at birth or others.	Baby massage, pre-therapy, posture improvement, food for infant, toy making.

(4) Training for trained mothers and volunteers to be OT workshop facilitators (for activity 2-4)

Title	Place	Period	Participants
Group forming training: workshop organization skill for child with intellectual disability	28 times Safou	Apr.-Jun. and Aug.-Sept. 2008	• 5 mothers of child with disability. • 2 Volunteer workers • Other mothers of child with disability. 1 to 10 participants
Total	28 WS		About 15 to 25 persons

3. Activities for Output 3 and 4

(1) Event of inclusion activity for children (for activities 3-2 and 4 - 1)

Title	Place	Date	Participants
Picnic to the park	De Hel Hana Park	Dec 2006	about 50 persons in total as follows: • Children with and without disability • Families of children
Picnic to the Zoo	Cairo Zoo	Apr 2008	about 50 persons in total as follows: • Children with and without disability • Families of children
Sea bathing	Red Sea Beach	Jun 2008	about 50 persons in total as follows: • Children with and without disability • Families of children
Picnic to the park	De Hel Hana Park	Jul 2008	about 50 persons in total as follows: • Children with and without disability • Families of children
Total			About 200 participants

Signature

(2) Therapy workshop for adults (for activities 3 - 2 and 4 - 2)

Title	Place	Date / period	Participants
Home exercise learning (baby massage, play therapy and toy making)	Safour	Sept. 5, 8, 12, and 16, 2007	22 persons in total as follows: -20 parents and children, -2 volunteer workers
Home exercise learning (baby massage, play therapy and toy making)	Safour	Oct. 27, 31, 3, 7 and 10, 2007	24 persons in total as follows: -22 parents and children, -2 volunteer workers
Baby massage and play-therapy with simple physiotherapy	Safour	Aug. 2008	5 to 15 participants regularly -Mothers of child with disability, -Volunteer workers
Total	38 WS		About 50 to 60 participants

(3) Event for inclusion activity for adult (for activities 3 - 2 and 4 - 2)

Title	Place	Date	Participant
Workshop of cooking	Safour	Feb-Apr. 2008	4 to 8 participants regularly as follows: - Village women - Brothers or sisters of child with disability - Children with disability - Mothers of child with disability
Workshop of handicraft	Safour	Feb-Apr. Jun. 2008	8 to 15 participants regularly as follows: - Village women - Brothers or sisters of child with disability - Children with disability - Mothers of child with disability - Volunteers
Workshop of toy making	Safour	Feb-Apr. Jun. 2008	8 to 15 participants regularly - Village women - Brothers or sisters of child with disability - Children with disability - Mothers of child with disability - Volunteers
Total			About 20 to 40 participants

Signature

ANNEX 3-4 List of Material and Equipment procured

	ITEMS		ITEMS
1	Pieces of sponge for washing dishes	46	Water coloring brushes
2	wastebaskets	47	Pen color packets
3	Sweeping broom	48	Pencil color packets
4	Floor wiper	49	Wax color packet
5	Small towels	50	Box full of pens , color , & markers
6	Large towel	51	Glue sticks
7	Air-tight storing boxes	52	Small booklets
8	Bowling plaything (10 bottles + 2 balls)	53	Booklets on behavioral skills
9	Toys of colored rings	54	Coloring book
10	Wood puzzles (boy , girl , hand , shapes)	55	Winnie book
11	Big puzzles of shaped geometrical patterns	56	Books on numbers
12	Small puzzle plaything	57	English book on how to sit
13	Cardboard puzzle (boy face – girl face – Nile)	58	Shaped books (Falfol , & fish)
14	Puzzle and rattle colored ball	59	Theoretical books on disability
15	Bag filled with colored cubes	60	Box of colored cubes on alphabets
16	Bucket filled with colored cubes	61	Speech therapy boxes
17	Small bag of wooden pieces with numbers	62	Pencils
18	Colored balls	63	Colored Pencils
19	Plastic menagerie (jungle of animals)	64	Crayons
20	Automatic playing piano	65	Markers
21	Clock toy with a counter on the back	66	Sharpeners
22	Boxes containing raw materials for play therapy	67	Book (Children's Rights Treaty)
23	Bulky files on Montessori	68	Book (Water in the eyes of Children)
24	(pair of) scissors	69	Book (From 1 to 10)
25	Small glitter bottles	70	Book (Selections on Childhood Care)
26	Board sheets	71	Yellow Ribbons
27	Strainers	72	Blue Ribbons
28	Bags of plastic forks	73	Numbers papers '1
29	Egg beater	74	Inflatable Transparent Plastic Ball
30	Plastic trays	75	Inflatable Transparent Plastic Pillow
31	Knife	76	Opposition Game
32	Spoon	77	Embroidering Cloth
33	Snipped spoon	78	Piece of Cloth
34	Plastic cans for food preservation	79	White blue cubes
35	Plastic can three-levels	80	Blue cubes
36	Jar from jica	81	Flower cubes
37	Blue jar from the CDA	82	Red cubes
38	Cardboard dishes	83	Yellow cubes
39	Vast kneading bowl	84	Green cubes
40	Pans	85	Orange cubes
41	Cooking pots (one old + one new)	86	White cubes
42	Al-adwa booklets	87	Jar of Lentil
43	Large drawing notes		
44	Small drawing notes		
45	Small watercolor packets + 1 big packet		

ANNEX 4 Project Design Matrix Ver.2

Date of formulation: Nov.06, 2008

Project title : Empowering PWD through community development in the Sharqiya Governorate
 Target Area : Safour Village, Sharqiya Governorate
 Target Group : PWDs, Families of PWDs, Volunteer (village locals including PWD), CDA, DOSS Sharqiya
 End Beneficiaries : PWDs and their families

OVERALL GOAL (around 2016)	NARRATIVE SUMMARY	OBJECTIVELY VERIFIABLE INDICATORS	MEANS OF VERIFICATIONS	IMPORTANT ASSUMPTIONS
<p>The PWD assistance projects applying the CBR approach are developed and implemented in the surrounding areas of Sharqiya Governorate through the Initiative of MOSS.</p>	<p>1 Keynote of PWDs assistance policy identified 2 Seminars held about PWDs assistance policy by MOSS 3 CBR mechanism established (target areas, implementing agencies, actors, partner organizations etc)</p>	<p>1 MOSS document about PWD policy and programs 2 Seminar reports by MOSS 3 Document about PWD assistance project by MOSS and other related organizations.</p>	<p>1 PWDs policy have been identified and specifically described in written document by the Government of Egypt. 2 PWD assistance approaches learnt by the Project has been introduced and applied into the PWDs policy by the Government 3 Institutional mechanism of PWD assistance development in the country by MOSS has been identified.</p>	
<p>PWDs in the Safour village more participate in community activities as active members.</p>	<p>1 Number of PWDs and their families who have joined community activities 2 Drafted plan of PWD/family self-help group (purpose, main activities, members etc) 3 Change of awareness of persons with and without disabilities about their co-existence. 4 Final report which include the description of lessons and issues for implementing CBR projects.</p>	<p>1 Record of PWDs participation in community activities 2 Final report about CBR 3 Interview survey to village people including PWDs 4 Final report about CBR</p>		
<p>OUTPUTS</p>	<p>1 Social resources and approaches for PWD assistance projects of the target area have been identified.</p>	<p>1-1 Community resources and concerns found by surveys 1-2 PWD statistics of Safour village (population by disability classification and by age) 1-3 Applicable community resources and approaches identified</p>	<p>1-1 Base-line survey report, Community analysis survey report, Registration data of PWDs, Evaluation record of PWDs, Statistics of MOSS Sharqiya, CBR Seminar report 1-2 Base-line survey report, Statistics of MOSS Sharqiya 1-3 Final report about CBR</p>	<p>• Policies of governmental agencies committing PWDs assistance, such as MOSS, MCCM, Ministry of Education, Ministry of Health or local authorities, have been properly and fairly coordinated.</p>
<p>2 People in the community have deepened their understanding about PWDs.</p>	<p>2-1 Type, participants and opportunity frequency of inclusive activities for village adults 2-2 Type, participants and opportunity frequency of inclusive activities for village children 2-3 Change of understanding of village people about PWDs (compared to before the Project)</p>	<p>2-1 Project progress reports, Progress record of CBR activities 2-2 Project progress reports, Progress record of CBR activities 2-3 Interview survey to PWDs and their families</p>		
<p>3 Activities by volunteers are continuously promoted.</p>	<p>3-1 Number of volunteer including PWD and their family members who joined in training classes or workshops, 3-2 No. of family members and volunteer who have become class / workshop facilitators 3-3 budgetary input are ensured 3-4 Regular meetings are held 3-5 Main activities, its mechanism, and CDA's role for of volunteer activities participation.</p>	<p>3-1 Project progress reports, Progress record of CBR activities 3-2 Project progress reports, Progress record of CBR activities 3-3 Written document about established fund and its function 3-4 Minutes of meeting 3-5 Project progress reports, Progress record of CBR activities</p>		
<p>4 Opportunities of participation of PWDs in community activities have been expanded.</p>	<p>4-1 List of activities which include PWDs and their families 4-2 Change of type, participants and opportunity frequency of community activities which PWDs have joined, (compared to before the Project) 4-3 Change of awareness about PWDs who joined or will join the community activities (compared to before the Project)</p>	<p>4-1 Project progress reports, Progress record of CBR activities 4-2 Project progress reports, Progress record of CBR activities 4-3 Interview survey to PWDs and their families</p>		
<p>5 Lessons and recommendations about CBR have been documented.</p>	<p>5-1 JCC's report of CBR activities 5-2 Final report with description of possible approaches and issues to be addressed on CBR</p>	<p>5-1 JCC's progress reports 5-2 Final report about CBR</p>		

Handwritten signature and date: 11/9/08

ACTIVITIES	INPUTS	PRE-CONDITION
<p>[Activities for Output 1]</p> <p>1-1 To conduct surveys about the community resources and situation related to PWDs assistance and summarize the results into the written reports (Base-line survey, community analysis survey by short-term expert)</p> <p>1-2 To conduct the workshop of social research skill for CDA, village locals including PWDs, volunteer, MOSS officers (Participatory Learning & Action : PLA).</p> <p>1-3 To hold CBR Mobile Campaign Seminar for PWDs, their families, village locals, community leaders so as to grasp the PWDs of village and their life status. (the same as 2-1 below)</p> <p>1-4 To visit the families having PWDs by volunteer including PWDs so as to collect the qualitative information such as their community activity participation and to update the PWD registration.</p> <p>1-5 To visit and study similar PWD assistant projects by MOSS Sharqaya, CDA, PWDs families and volunteer for learning the know-how or lessons applicable to Sabour village.</p>	<p>[Egyptian Side]</p> <p>1 Human resource</p> <p>(1) Administrative</p> <p>1. Central Project Director (MOSS HQ) Project Coordinator (MOSS HQ)</p> <p>2. Local (Sharqiya Governorate) Project Manager Other implementation management personnel</p> <p>(2) Technical</p> <ul style="list-style-type: none"> -Members of CDA -Volunteer -Persons with disability (PWDs) -Families of PWDs <p>2 Land, building and facility for project activities</p> <p>(1) Facilities for trainings, seminars and others (CDA office and building and others)</p> <p>(2) Office for Japanese experts</p> <p>3 Local costs for project activities</p>	<p>[Japanese side]</p> <p>1 Human resource</p> <p>(1) Japanese experts</p> <p>1. Long-term experts for: CBR Promotion</p> <p>2. Short-term experts for: Community Analysis Other necessary areas</p> <p>(2) Local staff employed</p> <p>1. Lecturer of Occupational Therapy(OT)</p> <p>2. Other necessary personnel</p> <p>2 Provision of equipments, materials and transportation measures necessary for implementing the project.</p> <p>3 Overseas training in Japan or 3rd countries: 2-3 persons (@2MM) per year</p> <p>4 Operational costs in Egypt</p>
<p>[Activity for Output 2]</p> <p>2-1 To organize inclusive activities for children with and without disabilities so as to develop their awareness of co-existence (camping, excursion or sports)</p> <p>2-2 To create opportunities of child care learning or opinion exchange about children with and without disabilities for families of PWDs and volunteer. (child care class, by making workshop, infant massage class, tea ceremony etc.) (the same as 3-2)</p> <p>2-3 To hold regular counseling for children with disabilities and their families.</p>		
<p>[Activity for Output 3]</p> <p>3-1 To hold CBR Mobile Campaign Seminar for village locals including PWDs and their families so as to promote the knowledge development about the role and importance of volunteers. (the same as 1-3)</p> <p>3-2 To recruit and select volunteer from village locals including PWDs.</p> <p>3-3 To make a volunteer work training curriculum for volunteers</p> <p>3-4 To hold classes or workshops for families of PWDs and volunteer for learning the skills to be volunteer development facilities. (life improvement class, home exercise workshop etc)</p> <p>3-5 To hold volunteer development classes or workshop for volunteers by PWDs families and volunteer as facilitators trained by the above activity 3-4.</p> <p>3-6 To ensure budgetary inputs for activities by volunteers</p> <p>3-7 To establish CBR working committee at the village level</p>		
<p>[Activities for Output 4]</p> <p>4-1 To implement inclusion oriented activities.</p> <p>4-2 To discuss a future self-help group of PWDs by CDA, MOSS, PWDs and their families.</p> <p>4-3 To develop management systems to sustain activities including financial input and other activities.</p>		
<p>[Activity for Output 5]</p> <p>5-1 To keep and compile records of the project activities.</p> <p>5-2 (at the final stage of the Project) To exchange opinions on the activities conducted, impacts, remaining concerns among MOSS Sharqaya, CDA, representatives of Sabour village, PWDs, their families, volunteer and Japanese experts.</p> <p>5-3 Based on all the activities above and the achievement of Outputs (1-4), to make a final report in written document which includes community resources, issues to be addressed, and possible approaches useful for community-based rehabilitation projects.</p>		<p>PRE-CONDITION</p> <ul style="list-style-type: none"> - People in Sabour accept the implementation of the CBR project

89

110

